独立行政法人日本芸術文化振興会の平成17年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

①評価を通じて得られた法人の今後の課題

(イ) 国立劇場・新国立劇場等は、我が国を代表する舞台芸術を、国内のみならず広く世界にも発信するという重要な役割を担っている。国の文化施策を実施する中心的拠点としての認識を強くもって、伝統芸能及び現代舞台芸術ともに、高い創造性を第一とし、効率性とのバランスを図りながら事業を実施することを期待する。

(ロ) 国の文化拠点として、関係団体、劇場施設、教育機関等との連携協力並びに普及活動の推進が今後ますます重要であり、かつ期待されている。次期中期目標期間も視野に置きながら、施策を検討されるよう期待する。

(ハ) 劇場施設の民間への貸出については、一定の改善の努力が見えるが、新国立劇場オペラ劇場に関しては、さらなる運用の工夫を期待する。

②法人経営に関する意見

(イ) 昨年度から引き続き、理事長の主導によるトップマネジメントが一層徹底され、業務運営の効率化の推進に資している。その結果、平成17年度も公演事業で高い質を確保しながら入場者数の増加や経費の節減を図り、利益を計上したことを評価する。

(ロ) 外部評価をふまえた自己点検評価は、経済的・人的負担や、芸術監督制との整合性に留意しつつ、かつ形式的なものに陥らないよう、引き続き検討の上、実施することが望ましい。

(ハ) 市場化テストが実施されることに鑑み、組織、業務の合理化・効率化の在り方について、新国立劇場及び国立劇場おきなわの業務運営の外部委託も含め改めて点検し、必要な努力を継続することが肝要である。

(ニ) 今後とも、外部資金の確保に向けた努力を続けるよう期待する。

③特記事項（中期目標期間終了時の見直し作業、総務省からの指摘についての対応等）

(イ) 総務省の指摘《海外の類似機関や民間委託の状況等との比較検討》については、平成17年度は情報収集が中心であったため、引き続きより詳細な検討を行うことが必要であり、次年度に評価を持ち越す。

(ロ) 総務省の指摘《養成・研修事業の費用の適切性等》については実情を評価したが、今後、養成・研修の分野や講師委嘱の在り方も検討し、また、修了生の活動状況も継続的に注視しながら、前向きな対応をとることが望ましい。

(ハ) 中期目標期間終了時の見直しに関しては、時代の進展や社会の要請を加味することが必要であり、これらの視点も加えながら、日本芸術文化振興会において十分検討することが望まれる。

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成１７年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
〈大項目名〉 業務運営の効率化	A	A	A		
〈中項目名〉 業務運営の効率化状況	A	A	A		
〈小項目名〉 効率化に関する施策	A	-	-		
〈中項目名〉 組織機構の在り方の検討状況	-	A	A		
〈小項目名〉 組織機構の在り方の検討状況	A	-	-		
〈大項目名〉 外部評価の実施、職員の意識改革	-	A	A		
〈中項目名〉 外部評価の実施、職員の意識改革	A	A	A		
〈小項目名〉 外部評価の実施状況	A	A	A		
〈小項目名〉 職員に対する研修の実施状況	A	A	A		
〈大項目名〉 芸術文化活動に対する支援	A	A	A		
〈中項目名〉 助成金の交付実施状況	A	A	A		
〈小項目名〉 助成金の交付実施状況	-	A	A		
〈小項目名〉 助成金交付事務の効率化・簡素化状況	A	A	A		
〈中項目名〉 審査における透明性等を確保	A	A	A		
〈中項目名〉 基金の管理運営	A	A	A		
〈中項目名〉 実施状況等の調査、各種情報等の提供	-	A	A		
〈中項目名〉 助成対象活動の実施状況等の調査	A	-	-		
〈中項目名〉 芸術団体等に対する各種情報等の提供	B	-	-		
〈小項目名〉 助成対象活動の実施状況等の調査	-	B	A		
〈小項目名〉 芸術団体等に対する各種情報等の提供	-	A	A		
〈小項目名〉 ホームページのアクセス状況	A	-	-		
〈大項目名〉 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	A	A	A		
〈中項目名〉 伝統芸能の公開	A	A	A		
〈小項目名〉 歌舞伎	A	A	A		
〈小項目名〉 文楽	A	A	A		
〈小項目名〉 舞踊・邦楽・雅楽・声明・民俗芸能ほか	A	A	A		
〈小項目名〉 大衆芸能	B	A	A		
〈小項目名〉 能楽	A	A	A		
〈小項目名〉 組踊等沖縄伝統芸能	A	A	B		
〈小項目名〉 演目の拡充	B	A	A		
〈中項目名〉 現代舞台芸術の公演	A	A	A		
〈小項目名〉 オペラ	A	A	B		
〈小項目名〉 バレエ	A	A	A		
〈小項目名〉 現代舞踊	A	A	B		
〈小項目名〉 演劇	A	A	A		
〈中項目名〉 青少年等を対象とした公開・公演	-	A	A		
〈小項目名〉 伝統芸能分野	A	A	A		
〈小項目名〉 現代舞台芸術分野	-	A	A		
〈中項目名〉 連携協力・地方における上演	-	A	A		
〈小項目名〉 伝統芸能分野	A	A	A		
〈小項目名〉 現代舞台芸術分野	B	B	A		
〈大項目名〉 伝統芸能伝承者養成・現代舞台芸術実演家研修	A	A	A		
〈中項目名〉 伝統芸能の伝承者の養成	A	A	A		
〈小項目名〉 歌舞伎（俳優、音楽）	A	A	A		

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化※				
	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
〈小項目名〉 大衆芸能（寄席囃子、太神楽）	A	A	A		
〈小項目名〉 能楽（ワキ、狂言、囃子）	A	A	A		
〈小項目名〉 文楽（人形、三味線、人形）	A	A	A		
〈小項目名〉 組踊（立方・地方）	A	B	A		
〈小項目名〉 既成者研修	A	A	A		
〈小項目名〉 伝統芸能伝承者養成に係る自己点検評価の実施	A	-	-		
〈中項目名〉 現代舞台芸術の実演家の研修	A	A	A		
〈小項目名〉 オペラ研修	A	A	A		
〈小項目名〉 バレエ研修	A	A	A		
〈小項目名〉 演劇研修	A	A	A		
〈小項目名〉 現代舞台芸術実演家研修に係る自己点検評価の	A	-	-		
〈大項目名〉 調査研究・資料の収集活用	A	A	A		
〈中項目名〉 伝統芸能関係	A	A	A		
〈小項目名〉 伝統芸能の調査研究	A	A	A		
〈小項目名〉 伝統芸能の資料の収集・活用	A	A	A		
〈小項目名〉 伝統芸能の調査研究等に係る自己点検評価の実	A	-	-		
〈中項目名〉 現代舞台芸術関係	B	A	A		
〈小項目名〉 現代舞台芸術の調査研究	A	A	A		
〈小項目名〉 現代舞台芸術の資料の収集・活用	B	A	A		
〈小項目名〉 現代舞台芸術の調査研究等に係る自己点検評価	B	-	-		
〈大項目名〉 劇場施設の利用	A	B	B		
〈中項目名〉 劇場施設の利用	A	B	B		
〈大項目名〉 附帯する業務	A	A	A		
〈中項目名〉 教育普及事業の実施	A	A	A		
〈小項目名〉 講座等の実施状況	A	-	-		
〈小項目名〉 講座等の参加者数	A	-	-		
〈小項目名〉 講座等の参加者の満足度	A	-	-		
〈小項目名〉 舞台芸術教材の作成状況	A	-	-		
〈小項目名〉 文化デジタルライブラリーへのアクセス状況	A	-	-		
〈中項目名〉 広報活動の充実	A	A	A		
〈小項目名〉 ホームページの掲載に要する期間	A	-	-		
〈小項目名〉 ホームページへのアクセス件数	A	-	-		
〈中項目名〉 交流事業の実施	A	A	A		
〈中項目名〉 劇場利用者等へのサービスの向上	A	A	A		
〈小項目名〉 会員数の確保	B	-	-		
〈中項目名〉 その他（歌舞伎400年記念事業）	A	-	-		
〈大項目名〉 予算、収支計画及び資金計画	A	A	A		
〈中項目名〉 予算、収支計画及び資金計画	-	A	A		
〈大項目名〉 人事に関する計画	-	A	A		
〈中項目名〉 人事に関する計画	-	A	A		
〈大項目名〉 施設及び設備に関する計画	-	A	A		
〈中項目名〉 施設及び設備に関する計画	-	A	A		
〈大項目名〉 その他振興会の業務運営に関し必要な事項（運営委	-	A	A		
〈中項目名〉 その他振興会の業務運営に関し必要な事項（運営	-	A	A		

※当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

【参考資料 1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較（過去 5年分を記載）

単位 :百万円）

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
収入						支出					
運営費交付金	7,030	12,053	12,084			一般管理費	606	1,305	1,072		
施設整備費補助金	252	656	585			事業費	6,134	10,945	10,625		
公演事業収入	1,598	2,811	2,962			施設整備費	252	656	585		
公演受託事業収入	11	103	57			公演事業費	1,590	2,599	2,884		
基金運用収入	924	1,719	1,788			公演受託事業費	6	95	50		
諸収入	18	75	90			基金助成事業費	763	1,600	1,665		
計	9,833	17,417	17,566			計	9,351	17,200	16,881		

単位 :百万円）

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
費用						収益					
経常費用						運営費交付金収益	6,139	11,098	10,943		
国立劇場公演等事業費	3,924	6,995	7,326			事業収入	2,427	4,428	4,511		
新国立劇場公演等事業費	2,675	4,863	4,802			受託事業収入	11	103	57		
基金助成事業費	1,304	2,209	2,261			財産利用収入	29	63	66		
一般管理費	578	1,210	983			寄附金収益	―	1	1		
減価償却費	100	406	642			資産見返負債戻入	34	266	490		
財務費用	18	23	45			財務収益	79	206	220		
雑損失	4	1	2			雑益	29	55	65		
臨時損失	―	3	-			臨時利益	―	0	2		
計	8,603	15,710	16,061			計	8,748	16,220	16,355		
						純利益	145	510	294		
						目的積立金取崩額	―	―	―		
						総利益	145	510	294		

単位 :百万円）

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	13,495	24,296	31,473			業務活動による収入	13,224	25,546	33,700		
投資活動による支出	6,319	11,320	13,648			運営費交付金による収入	7,030	12,053	12,084		
財務活動による支出	0	134	140			公演事業による収入	1,415	2,535	2,742		
翌年度への繰越金	2,784	2,487	3,764			基金運用による収入	924	1,719	1,788		
						公演受託事業による収入	41	56	102		
						その他の収入	3,814	9,183	16,984		
						投資活動による収入	4,609	9,906	12,838		
						施設整備費補助金による収入	252	412	656		
						その他の収入	4,357	9,494	12,182		
						財務活動による収入	0	1	0		
						前年度よりの繰越金	4,765	2,784	2,487		
計	22,598	38,237	49,025			計	22,598	38,237	49,025		

【参考資料２】貸借対照表の経年比較（過去５年分を記載）

区分	１５年度	１６年度	１７年度	１８年度	１９年度	区分	１５年度	１６年度	１７年度	１８年度	１９年度
資産						負債					
流動資産	7,640	21,300	5,426			流動負債	1,900	1,776	2,419		
固定資産	251,828	236,274	245,768			固定負債	706	1,939	2,046		
						負債合計	2,606	3,715	4,465		
						資本					
						資本金	246,819	246,819	246,819		
						資本剰余金	9,761	6,248	△ 1,176		
						利益剰余金	282	792	1,086		
						（ち当期未処分利益）	145	510	294		
						資本合計	256,862	253,859	246,729		
資産合計	259,468	257,574	251,194			負債・資本合計	259,468	257,574	251,194		

【参考資料３】利益（又は損失）の処分についての経年比較（過去５年分を記載　単位：百万円）

区分	１５年度	１６年度	１７年度	１８年度	１９年度
Ⅰ　当期未処分利益					
当期総利益	145	510	294		
前期繰越欠損金	－	－	－		
Ⅱ　利益処分額					
積立金	145	401	－		
独立行政法人通則法第４４条第３項					
により主務大臣の承認を受けた額	－	109	－		

【参考資料４】人員の増減の経年比較（過去５年分を記載）　　単位：人）

職種※	１５年度	１６年度	１７年度	１８年度	１９年度
定年制事務職員（管理系）	73	71	61		
定年制事務職員（事務系）	253	248	257		
	326	319	318		

※職種は法人の特性によって適宜変更すること

独立行政法人日本芸術文化振興会の平成１７年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価

○評定基準について
　Ａ：中期計画を十分に履行し，中期目標に向かって着実に成果を上げている。
　Ｂ：中期計画をほぼ履行し，中期目標に向かって概ね成果を上げている。
　Ｃ：中期計画を十分には履行しておらず，中期目標の達成のためには業務の改善が必要。
　＊特に優れた実績を上げた場合は，Ａ＋ の評価を付すことができる。
　　その場合は，理由等を必ず記述する。
　＊部会として，業務改善の勧告が必要と判断される場合は，Ｃ－ の評価を付すことができる。
　　その場合は，理由等を必ず記述する。

○複数の評定がある場合の調整
　委員の協議により，評定を決定する。

○定性的評定等
　評定を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。
　原則として，Ｃの評定を受けた項目については，その理由及び改善点，要望点等を記述する。

○一般管理費など事務的経費に係る効率化の評定基準
　Ａ：13.5%以上の効率化を達成
　Ｂ：13.0%以上13.5%未満の効率化を達成した場合
　Ｃ：効率化13.0%未満の場合
　　＊平成14年度予算を基準として中期計目標間中に13.0%以上の効率化を図る。

○事業費に係る１%以上の効率化の評定基準
　Ａ：1.5%以上の効率化を達成した場合
　Ｂ：1.0%以上1.5%未満の効率化を達成した場合
　Ｃ：効率化1.0%未満の場合

Ⅰ　業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評定基準 A　B　C	指標又は評価項目に係る実績	評定 段階的評定		定性的評定等
1-1.　劇場利用者等へのサービスその他の業務の質の向上を考慮した業務運営の効率化	業務運営の効率化状況	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1．企画・分析機能の強化 (1) 各施設における企画・分析機能の強化 16年度の検討結果を踏まえ、17年４月１日より組織改正を行った。 ① 能楽堂及び文楽劇場に事業推進課を設置し、各施設が一体となって事業を推進する体制を整備し、企画・分析機能の強化を図った。 能楽堂においては、調査養成課を統廃合し、調査資料に関する業務（教育普及事業を含む）を事業推進課が、養成研修に関する業務を企画制作課がそれぞれ担当することとした。これにより能楽堂部は４課体制から３課体制となった。 文楽劇場においては、普及養成課を統廃合し、調査資料に関する業務（教育普及事業を含む）を事業推進課が、養成研修に関する業務を企画制作課がそれぞれ担当することとした。これにより文楽劇場部は５課体制から４課体制となった。これにより、少人数組織を解消して公演事業・養成事業・調査研究事業・教育普及事業等の連携を強化し、事業の推進体制を整備した。 ② 総務部の役割の集約化及び企画・分析機能の強化を図るため、人事課を廃止し総務課へ統合し、総務課に管理室を設置した。 (2) 月次報告、四半期報告の実施 引き続き、入場者等数値目標の達成状況及び財務状況等を月次で役員会へ報告するとともに、四半期ごとに自己点検評価を取りまとめ、トップマネジメントに不可欠な状況把握と計画に対する事業の進捗状況の分析等目標管理を行い、必要に応じて適切な対応を図った。 (3) 評価への対応 ① 対応状況 16年度の点検評価を踏まえ、指摘された意見等に対し対応を検討し、役員会において審議・決定した。指摘された意見等の対応について可能な限り17年度の事業に反映させるとともに、18年度計画等において実施する。 ② 海外の類似機関との比較検討・公立文化施設の民間委託状況等の把握 16年度の評価結果を踏まえ、過去に実施しているオペラハウス等の海外調査をもとに、海外の類似機関について比較検討を行った。また、公立文化施設への聞き取り調査を実施し、民間委託状況等の把握に努めた。 2．情報システムの活用 (1) 館内LANの活用等 振興会の組織全体にわたって整備された館内LANを介して、電子ファイルサーバ（共有フォルダ）やグループウェア（電子メール・電子掲示板・会議室利用管理・スケジュール管理等）を運用し、電子文書等の共有化を促進し、事務連絡業務の迅速化・効率化を図った。また、継続的に保有・使用する文書・報告・様式等を共有するため、部ごとの内部ホームページを設置しているが（総務部・経理部・芸能部・営業部・能楽堂部は既設）、17年度は新たに３部の内部ホームページ（調査養成部・演芸場部・文楽劇場部）を新設し、月間スケジュール・公演タイムテーブル・アンケート結果等情報の共有化を図った。 (2) 基幹業務システムの整備・活用 会計システムとチケット販売・管理システムとの連結等、各業務システム間の連携を強化するとともに、システムの改善も進め、事務の合理化と効率化を図った。 (3) 業務のシステム化の検討等 ① 劇場利用業務のシステム化の検討 本館、能楽堂及び文楽劇場の施設利用に係る業務のシステム化のため、市販パッケージシステムの調査及び比較検討を進めた。18年度早期に稼動する予定である。 ② 助成業務システムの見直し 既存のデータベース等の見直しを行い17年12月に情報システムを統合し、様式の統一等事務の一元化、各種データの一元化、事務の簡略化を進めた。 ③ チケットシステムの統一等 チケット販売・管理システムについては、文楽劇場のチケット販売・管理システムを本館のチケットセンターへ統合し、17年７月公演の前売より電話予約等の業務を一元化した。また、会計システムとのデータの連携を図った。 3．事務手続きの簡素化 (1) 事務手続きの簡素化 組織の改組を踏まえ、文書専決細則を改正し改組後の決裁権限を明確にした。 特に契約事務の決裁手続きについて、「調達承認・諸手続表」を内部ホームページに掲載して手続きの周知を図るなど、円滑で迅速な決裁事務を進めた。 また、個々の決裁書類について合議等を必要最小限にとどめ、決裁後の業務連絡には館内LANを活用した。 (2) 業務効率化等の検討 16年度における「業務効率化等に関する検討会」の検討を踏まえ、業務の改善等を図った。 ① 総合インフォメーションサービスの改善 表示板等を総合的に見直し、門柱や道案内等看板を増設した。 ② 伝統芸能情報館や展示室の観覧者を増やす方策 立地条件（劇場裏手）を考慮し、壁面に垂れ幕を設置した。 ③ 町内会、近隣飲食店等との協力 「国立劇場さくらまつり」における無料茶菓サービスへの協力を得た。	A	A	全般的に着実な成果が上がっている。一般管理費などを28%削減するなど業務運営の効率化の努力がわかるとともに、「さくら祭り」など観客動員増を図る事業の実施もあり、理事長の主導のもと着実な成果が上がっていると認められる。芸能調査役の新たな設置により、専門性の向上と深化が顕現されている。事業費の効率化についてはなお改善が望まれる。 【より良い事業とするための意見等】 業務の効率化や省エネルギー対策は重要だが、観客の受ける印象や、出演者のコンディション、楽器の維持管理等に悪影響を及ぼさないよう細心の注意をはらってほしい。海外の劇場との比較、公立文化施設の民間委託状況等の把握については、収集した情報の精密な分析とさらなる情報収集が望まれる。外部利用について、さらに検討する必要があろう。職員の専門性をさらに高めてほしい。

④　話題になるイベント等の企画・展開
理事長の指示により「国立劇場さくらまつり」を実施した。
・　17年４月１日～４月10日（来場者11,560人）
・　18年３月25日～４月３日（来場者19,500人）
⑤　利用者の視点に立ったホームページの制作
ホームページを再構成し、各劇場別にトップページを持たせるなどリニューアルを実施。
⑥　伝統芸能情報館レクチャー室の外部貸出し
施設利用室が所管し18年度に開始することで検討した。

４．一般競争入札による外部委託の推進
(1) 一般競争入札による外部委託の推進
①　17年度の業務における外部委託の推進
14年度から大幅に導入した一般競争入札の推進に努め、17年度の施設・設備管理業務については、原則として一般競争入札により調達を行った。（契約金額300万円以上35件中29件で一般競争入札を実施）
委託業務内容の見直し、業務内容に即した仕様の見直しを行い、より効果的な外部委託の推進を図った。（本館・能楽堂警備業務、本館清掃業務、消毒業務、防火点検業務等）
入札方法について見直しを行い、17年度においては、本館及び能楽堂の電力供給について政府調達方式による競争入札を実施し、調達における透明性の確保を図った。
②　次年度に向けての検討・準備
18年度の業務委託についても同様に、一般競争入札の維持・増加、業務内容に即した仕様の見直し、入札方法の見直し等を進め、文楽劇場の電力供給、清掃業務について政府調達方式による競争入札を実施し、契約の透明化を図っている。
(2) 入札機会の拡大
引き続き、入札公告等を敷地内に掲示するとともに、振興会ホームページにおいて、以下の項目を掲載し、入札機会の拡大を図った。
・　競争入札参加に必要な資格について
・　競争参加資格有資格者一覧
・　入札情報（入札公告等）

５．事務の一元化
(1) 調達事務の一元化等
①　調達事務の一元化
引き続き、コピー用紙等の一部の消耗品・物品について、本館及び能楽堂で一括して調達を行った。
また、政府調達方式による調達・契約については、本館・能楽堂・文楽劇場３館の事務を一元的に実施した。
②　管理業務等の一元化
16年度の検討結果を踏まえ、17年４月１日より総務部に管理室を設置し、警備業務、郵便業務、公用車の管理業務（従来は総務部）、清掃業務、庭園管理業務、防火管理業務（従来は経理部）など劇場の管理業務を一元的に実施する体制を構築した。
(2) チケット販売管理業務の一元化
チケット販売管理業務については、情報システムの統一により文楽劇場で行っていた電話受付等を東京のチケットセンターにおいて一元的に実施した。（17年７月公演前売より）
これにより、各館における窓口販売方法の統一化、会員（あぜくら会・文楽友の会）の管理システムの共通化、団体顧客の管理簿の統一化、団体顧客の受注から精算までの事務作業の手順の共通化等がなされ、また、互いのチケットが窓口販売できるようになった。

６．省エネルギー、リサイクルの推進
(1) 光熱水量の削減
主として以下のような取組みにより、光熱水量の節減を図った。
・　事務所部分を中心に、夏季の軽装勤務奨励（クールビズ）、冷暖房の抑制（設定温度の制限）を実施した。
・　文楽劇場事務室の照明器具取替え工事を行い、節電型（Hf管）の器具を導入した。
・　照明器具の改修時に、人感センサーの設置、省エネタイプの電球等への交換を促進した。
・　常時人のいない部屋等の照明に人感センサーを設置し、また、小まめな消灯の呼びかけを行った。
・　東京都条例「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」に基づき、平成21年にかけての温室効果ガス排出量を抑制のための「地球温暖化対策計画書」を立案して実施を図るとともに、ホームページに計画書を公表した。その結果AAの認定を受けた。

事項	区分	使用量	前年度比
電　気	本館・演芸場	5,848,044kwh	△4.2%
	能楽堂	968,781kwh	13.2%
	文楽劇場	2,644,953kwh	△1.5%
	合　計	9,461,778kwh	△1.9%
ガ　ス	本館・演芸場	60,571㎥	△10.6%
	能楽堂	94,619㎥	7.5%
	文楽劇場	221,035㎥	△4.8%
	合　計	366,225㎥	△3.0%
水　道	本館・演芸場	79,570㎥	△0.3%
	能楽堂	8,051㎥	△1.8%
	文楽劇場	21,966㎥	△0.9%
	合　計	109,587㎥	△0.6%

(2) 廃棄物の減量化
事務所部分におけるゴミ集積場所に可燃物、不燃物、ビン・缶、ペットボトルの各分別箱を設置し、分別を呼びかけた。

事項	区分	使用量	前年度比
一般廃棄物	本館・演芸場	157,210kg	△13.4%
	能楽堂	10,249kg	2.9%
	文楽劇場	96,335kg	15.9%
	合　計	263,794kg	△3.9%
再利用廃棄物	本館・演芸場	89,270kg	32.2%
	能楽堂	8,421kg	22.9%
	文楽劇場	10,090kg	△9.8%
	合　計	107,781kg	25.9%
産業廃棄物	本館・演芸場	53,513kg	△10.2%
	能楽堂	1,833kg	△17.1%
	文楽劇場	1,860kg	－
	合　計	57,206kg	△7.4%

(3) ペーパレス化
主として以下のような取組みにより、ペーパレス化を図った。
・　引き続き、館内LANを介してのグループウェアソフト、内部ホームページの活用を促進し、事務連絡等のペーパレス化を推進した。

・　会議資料等の両面コピー及び両面印刷を推奨した。
・　最小限のプリントアウト、コピー使用や反故紙の活用を奨励した。

事項	区分	使用量	前年度比
コピー枚数	本館・演芸場	1,763,433枚	△1.8%
	能楽堂	208,494枚	△18.4%
	文楽劇場	283,453枚	△1.2%
	合　計	2,255,385枚	△3.5%
	うち管理部門	745,954枚	△10.5%
コピー用紙購入枚数	本館・演芸場	2,422,500枚	37.8%
	能楽堂	350,000枚	△6.7%
	文楽劇場	403,500枚	21.7%
	合　計	3,176,000枚	28.9%

(4) グリーン購入法に基づいた調達
チケット用紙等の特殊な仕様を除き、環境物品等の調達の推進を図るための方針に基づき調達を行った。グリーン購入法に基づいた調達はほぼ100%となっている。

【特記事項】
・　電気料金は、政府調達方式による競争入札の実施、節電努力等により経費を前年度比△10,800千円の節約となった。
・　能楽堂の電気使用量及びガス使用量の増は、16年度と比較して公演日数が増加したこと等による。
・　光熱水量は食堂・売店等の使用量を除いている。

7．効率化対策に関する調査研究
(1) 劇場施設以外の施設の有効活用に関する検討
①　伝統芸能情報館レクチャー室等の外部利用
レクチャー室については、公演記録鑑賞会等振興会で使用しない時に有効活用を図るため、施設使用規程の改正を行い、18年度より外部貸出しを実施する。
その他、会議室等については、業務での使用状況を勘案して引き続き検討を行う。
②　試写室の有効活用
本館３階の試写室について、有効活用を図るため稽古場に改装し、17年10月より貸出しを実施している。
(2) 外部利用の実績
（能楽堂・大講義室）
出演者及び関係者、一般の利用について、26件57時間の利用があった。
（国立劇場おきなわ・交流プラザ）
会議等一般の利用について、９件15時間の利用があった。
（新国立劇場・３階ギャラリー等）
３階ギャラリー等において、森英恵が手がけた舞台衣裳を世界の各劇場から借用し展示した「森英恵展－手で創る」を森英恵ファッション文化財団との共催で開催した（３月15日～４月11日）。

一般管理費など事務的経費の効率化の達成率	13.5%以上	13.0%以上 13.5%未満	13.0%未満	【一般管理費など事務的経費の効率化の達成率】 A：17年度一般管理費決算額 B：14年度一般管理費予算額 （ A － B ）÷ A = 0.28　⇒　28%減 A：1,072,300,338円 B：1,488,359,000円		
事業費の効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	【事業費の効率化の達成率】 A：（当該年度事業費予算額（退職手当を除く）－当該年度特殊要因予算額－次年度債務繰越額 ＋前年度債務繰越額）÷0.99 B：（当該年度事業費決算額（退職手当を除く）－当該年度特殊要因決算額） （ A - B ）÷ A ＝0.01　→　1%減 A：(10,617,571,000 - 0 - 219,581,385 + 70,242,683) ÷ 0.99 = 10,573,971,008 B： 10,468,231,298 - 0 = 10,468,231,298	B	

1-2. 効率化の進捗状況をふまえた組織機構の検討	組織機構の在り方の検討状況	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1．課の在り方の見直しと整理統合 (1) 課の在り方の見直しと整理統合、係の整理・統合 16年度中に効率性と国民サービスの充実の観点から検討し、17年４月１日に組織変更を行った。 課については、従来の36課から１増３減の34課体制とした。また、業務内容に応じて細分化されていた各係の見直しを行い、従来の83係から70係に削減（△13係）した。 (2) 運営委託体制の検討 新国立劇場について、公演その他各事業との一体的な業務運営を行い、効率的・効果的運営委託体制の構築を実現するため、新国立劇場部情報センターの行っていた業務（現代舞台芸術に関する調査研究、総合情報システムの管理・運用、新国立劇場情報センターの運営等）を18年度から新国立劇場運営財団に委託することとした。 2．職員の専門性の確保 16年度の検討結果を踏まえて、17年４月１日より調査養成部に芸能調査役を設置し、職員の専門性の確保を図った。 芸能調査役は現在「伝統芸能叢書(仮題)」刊行準備、「現代の日本音楽」の刊行など専門性の要求される業務を担っている。 3．営業体制の強化 16年度の検討結果を踏まえて、公演事業における営業体制を明確にするため、17年４月１日に、国立劇場事業部を国立劇場営業部へ、演芸場部、能楽堂部及び文楽劇場部の事業課を営業課へ名称変更した。 営業部に新たにチケットセンターを新設し、業務課観客係を営業課営業係へ名称変更するとともに、営業担当者を増員した。これによって営業部の職員数は、36人から42人となった。 また、本館大小劇場・演芸場の貸し劇場担当部署として、営業部劇場課に施設利用室を設置し、施設利用の推進を図った。	A			
2．外部評価の実施、職員の意識改革	外部評価の実施状況	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）	1．自己点検評価の実施（16年度の業務の運営に関して） ・　２～３月　各公演専門委員会、事業委員会等において事業に対する意見聴取を実施 ・　３～５月　自己点検評価を実施 ・　５月16日　役員会において審議決定 ・　５～６月　自己点検評価に基づき、外部評価委員会において16事業年度評価を審議 ・　６月30日　評議員会において16事業年度評価を審議・決定 自己点検評価は膨大な作業量となるため、公演事業等について、四半期ごとに自己点検評価を取りまとめることにより	A	A	A	全般的に着実な成果が上がっている。四半期ごとの自己点検評価の実施により、その徹底化が促進された。各種の委員会が相互に補完しながら事業に反映させている点を評価したい。研修会も多彩であり、特に、おきなわ運営財団職員に対する研修は適切である。今後もさらに職員の意識改革を進めていくことが望まれる。

			業務を分散させ、負担の軽減を図った。 2．評議員会、評価委員会等の開催 (1) 評議員会 ① ３回開催：第６回（6/30）、第７回（9/20）、第８回（3/28） ② 議題等：16年度収支決算及び16年度評価について審議・決定、16年度評価結果及び評価結果への対応について報告、17年度計画実施状況の報告、18年度計画について審議、等 ③ 改選等：評議員の改選を行った（４名改選・１名増員し18名とした、10/1付け） (2) 評価委員会 ① ４回開催：第６回（4/20）、第７回（6/13）、第８回（6/20）、第９回（10/3） ② 議題等：16年度評価の実施、16年度評価結果及び評価結果への対応についての報告、17年度計画についての説明、等 ③ 視察：文楽劇場の視察を２回に分けて実施（11/9、11/17～11/18）、国立劇場おきなわの視察を実施（1/28～1/27）、養成研修事業の視察を実施（１/13） ④ 改選等：評価委員の改選を行った（７名中３名、10/1付け） 3．公演専門委員会、事業委員会、芸術文化振興基金運営委員会等の開催 (1) 公演専門委員会 ① 開催状況：歌舞伎（２回開催、17年６月・18年３月）、文楽・本館（２回開催、17年６月・18年３月）、文楽・文楽劇場（２回開催、17年４月・18年３月）、舞踊（２回開催、17年６月・18年３月）、邦楽（２回開催、17年６月・18年３月）、雅楽・声明（２回開催、17年６月・18年３月）、民俗芸能（２回開催、17年６月・18年３月）、短期公演・文楽劇場（２回開催、17年４月・18年３月）、大衆芸能（２回開催、17年６月・18年３月）、能楽（２回開催、18年２月・18年３月） ② 議題等：17年度計画及び公演事業計画についての説明、16年度評価結果の報告、17年度計画に対する公演事業の達成状況についての意見聴取、18年度計画についての説明、等 (2) 事業委員会等 ① 開催状況：養成事業委員会（１回開催、18年３月）、調査事業委員会（１回開催、18年３月）、新国立劇場調査事業専門委員会（２回開催、17年12月・18年３月） ② 議題等：17年度計画に対する事業の達成状況についての意見聴取、16年度評価結果の報告、18年度計画についての説明、等 ③ 視察：既成者研修発表会・養成研修発表会・研修修了発表会の視察を実施（養成事業委員会） (3) 芸術文化振興基金運営委員会 ① ３回開催：第６回（9/14）、第７回（2/1）、第８回（3/29） ② 議題等：18年度助成活動の審査の附託、18年度助成活動の決定、改善意見についての審議、等 4．評価への対応 16年度の評価結果において指摘された意見等に対して、各委員会等へ報告するとともに、各部において対応を検討し、一部について17年度の事業に反映させるとともに、その他についても可能な限り18年度計画に盛り込んだ。				【より良い事業とするための意見等】 平成16年度の意見「外部評価につき、経済的人的コストや新国立劇場の芸術監督制との整合性について留意して実施すべき」について、「評価体制等につき両運営財団と緊密な連絡をとり対応を図った」という自己点検評価の文面では、具体的な改善内容は不明であるため、引き続ききめ細かい対処が求められる。公演の適切な評価は、次回により良い成果を得るために必要不可欠である。特に新国立劇場の公演は、高い専門性による多様な評価を得ることが重要であり、さらなる工夫を望みたい。劇場の制作・宣伝に携わる職員の専門的知識をさらに高める施策の拡大を望みたい。
	職員に対する研修の実施状況	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1．内部研修を次のとおり実施した。 新人職員研修、若手職員に対する公演制作・舞台業務研修、ライフプラン研修、リーダーシップ研修、勤務評価研修、理事長による営業研修、クレーム応対研修、メンタルヘルス研修、セクシュアルハラスメント研修ほか（参加者延べ1,026人） 2．会計及び人事を中心に、外部の研修へ職員を次のとおり派遣した。 ・ 文部科学省文教団体共同職員研修会、男女雇用機会均等セミナー、人権問題雇用主研修会、全国就職指導ガイダンス、セクシャルハラスメント防止実践講習ほか（参加者延べ52人） ・ 政府関係法人会計事務職員研修、消費税中央セミナーほか（参加者延べ７人） ・ 毎日就職ナビ活用講習会、目録システム講習会ほか（参加者延べ８人） ・ 各種著作権セミナー（参加者延べ11人） ・ 各種メンタルヘルス研修会（参加者延べ６人） ・ 衛生管理者受験講座、評価・監査中央セミナー、防火管理者実務講習会ほか（参加者延べ18人） 【特記事項】 ・ 国立劇場おきなわ運営財団職員研修を実施（５日間、参加者延べ12人） 国立劇場おきなわ運営財団の新規採用職員を対象とした業務研修を振興会（東京）において実施し、能力の向上とともに振興会との連携の強化を図った。	A			

Ⅱ　国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評定基準 A	評定基準 B	評定基準 C	指標又は評価項目に係る実績	評定 段階的評定			評定 定性的評定等
1．芸術文化活動に対する支援	(1)-1 芸術家及び芸術団体等が実施する活動に対する助成	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			1．17年度助成金の交付実績 (1)　舞台芸術振興事業 対象分野／交付件数／交付金額 音楽／20件／198,600千円 舞踊／20件／110,500千円 演劇／43件／286,100千円 合計／83件／595,200千円 (2)　芸術文化振興基金 対象分野／交付件数／交付金額 芸術創造普及活動／303件／1,035,000千円 地域文化振興活動／177件／236,900千円 文化振興普及団体活動／179件／180,800千円 合計／659件／1,452,700千円 2．18年度助成対象活動の募集実績 (1)　舞台芸術振興事業 対象分野／応募件数／採択件数／交付予定額 音楽／113件／16件／159,500千円 舞踊／59件／22件／83,000千円 演劇／254件／39件／232,500千円 合計／426件／77件／475,000千円 (2)　芸術文化振興基金 対象分野／応募件数／採択件数／交付予定額 芸術創造普及活動／994件／361件／1,068,500千円 地域文化振興活動／300件／216件／307,100千円 文化振興普及団体活動／286件／194件／179,900千円 合計／1,580件／771件／1,555,500千円 (3) 募集案内の作成にあたっては、「舞台芸術振興事業」と「芸術文化振興基金」の趣旨を分かりやすく表紙に明記し、応募者に対してそれぞれの募集の趣旨が明確となるよう努めた。 (4) 助成対象活動の募集にあたっては以下の点に考慮のうえ実施。 ア　芸術団体等の自主性を尊重し、活動目的及び内容等に関する助言については、極めて慎重に対応する。また、助成金交付要望書の記入について、引き続き相談期間を設けて対応。 イ　都道府県経由で応募のあった地域文化活動及び文化振興普及団体活動について、都道府県担当者からのヒアリングを実施。	A	A	A	支援事業は審査及び公表等の情報提供を含め、円滑に進められている。申請受理から交付決定までの期間の短縮には格段の進展が見られる。交付金額が増えて件数が減ったのは、効果的な助成の在り方から鑑みて評価できる。また、基金の管理運用は、厳しい情勢の中で当初計画を上回る実績を確保して、格段の成果が上がっていると認められる。今後も交付事務のさらなる効率化、簡素化に努めながら、基金の運用が安全性に配慮しつつ、効果的に行われることが望まれる。 【より良い事業とするための意見等】 助成対象活動に対する調査については、交付額の妥当性につき、一層の精査が望まれる。また、現在実施中の項目に加え、各活動が助成に相応しいか否かを評価する方策を検討するよう望みたい。専門委員による評価セクションを組織すること、また職員が恒常的な公演視察を行い、全体状況を大筋で把握すること等を提言する。平成17年度から文化庁の助成の仕組みが団体支援から公演毎の支援に変わったため、日本芸術文化振興会の助成事業と違いがわかりにくくなっているのが実情である。今後、両者が協議の上、それぞれの役割を明確にする必要がある。
	(1)-2 助成金交付事務の効率化・簡素化状況	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			部内決裁を見直すなど事務の効率化・簡素化を行い、助成金交付申請書受理から交付決定までの期間について短縮を図った。 区分／実績／目標 舞台芸術振興事業／46.3日／60日以内 芸術文化振興基金／47.4日 平均／47.3日	A			
	交付申請書受理から交付決定までの期間の効率化の達成状況	60日未満	60日以上87日未満	87日以上	実績47.3日／目標60日以内（達成度121.2%）	A			
	(2) 審査における客観性及び透明性を確保するための体制の整備等	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			助成金の交付に関する体制の整備について (1) 舞台芸術振興事業助成金交付要綱及び同取扱細則並びに芸術文化振興基金助成金交付要綱及び同取扱細則を、ホームページにおいて公表。 (2) 17年度助成対象活動の決定に関する公表状況 ①　17年４月８日付で助成対象活動の決定について公表し、審査の方法等を含め公表資料をホームページに掲載。 ②　広報誌「芸術文化振興基金No.20」（６月30日発行）に助成対象活動一覧のほか審査経過等を掲載し、同誌をホームページに掲載。 (3) 18年度助成対象活動の審査状況 芸術文化振興基金運営委員会及び４つの部会、11の専門委員会において、以下のとおり審査を行った。 なお、音楽・舞踊・演劇の各専門委員会において、舞台芸術振興事業と芸術文化振興基金の趣旨を再確認し、舞台芸術振興事業についてはその趣旨に沿って優れた活動を選定するよう審査を行った。 ①　舞台芸術等部会（３月２回） 音楽(11月・３月)、舞踊(11月・３月)、演劇(11月・３月)、伝統芸能(12月・３月)、美術(11月・２月) ②　映像芸術部会（３月） 劇映画(11月・３月)、記録映画(11月・３月)、アニメーション映画(11月・３月) ③　地域文化・文化団体活動部会（３月） 地域文化活動(11月・２月)、文化団体活動(11月・２月) ④　文化財部会（３月） 文化財保存活用(11月・２月) ⑤　審査経過概要 11月中旬～12月中旬／各専門委員会において「専門委員会における審査の方法等について」を審議、決定。 １月初旬～２月初旬／各専門委員会による応募活動１件ごとの事前審査。 ２月１日／運営委員会を開催し、応募状況についての報告及び助成金の分野別配分について審議、決定。 ２月初旬～３月中旬／各専門委員会において専門委員の事前審査結果をもとに、合議により、助成金交付要望書の審査及び助成対象活動を選定。 ３月初旬～３月下旬／各部会において助成対象活動の採否及び助成金額の審議。 ３月29日／運営委員会を開催し、助成対象活動について審議、決定。18年４月６日付で公表。			A	

(3) 基金の管理運用

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

芸術文化振興基金の管理運用
(1) 運用実績
① 運用益 1,789,480千円（当初計画1,727,574千円、61,906千円の増収）
② 利回り 2.8%（当初計画2.7%）
(2) 資金内容及び経済情勢の把握
基金資金の運用先である複数の金融機関から多くの情報を収集することで資金内容及び経済情勢の把握に努めた。その結果、当初見込んでいた国債での運用よりも利回りが上回る財投機関債等による再運用を行ったこと等により、年度計画を上回る運用収入を確保することができた。
(3) 運用方針の検討状況
17年度は基金運用資金649億円の約1/4の償還が集中し、今後も同様の状況が発生すると再運用金利の状況次第では、その後の運用収入への悪影響が憂慮されることから、将来の償還額が毎年度概ね均等になるように再運用計画を作成し、計画的に再運用を行った。

A

(4)-1 助成対象活動の実施状況等の調査

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

(1) 助成対象活動に対する調査
① 会計調査：49件（活動件数：131件）
② 公演等調査：179件（目標：72件）
交付内定通知書の送付に際して助成金交付決定の取消し等に至った具体的事例を添付し、芸術文化振興基金ホームページに不適切な事例を掲載した。
(2) 外部委託により、芸術文化振興基金を取り巻く社会経済環境の変化、助成対象分野の概況及び芸術文化活動への助成、支援の実態を把握し、芸術文化振興基金の助成の位置づけや役割について調査を実施。
(3) 助成対象活動に係る「助成の効果」について、17年度助成対象活動実績報告書に記載された内容の整理、分類を実施。
集計結果：調査対象件数742件（複数回答を含む）

事　　項	件　数
設備の整った会場の確保、舞台装置等の充実を図ることができた	222件
外部から質の高いスタッフ・キャスト・展示品等を確保することができた	209件
宣伝広告等の広報活動を充実させることができた	154件
団体（団員等）の経費負担が軽減され、充実した稽古を行うなど活動に専念できた	143件
当初の計画通りに事業が実施できた	119件
助成金を受けていることで公演活動に対する信頼が増し、団体の外部評価が向上した	118件
入場料の軽減等により幅広い層の観客を集めることができた	107件
文芸費等の充実により公演内容の向上を図ることができた	90件
創造的・実験的活動が実施できた	45件
地域文化財等についての普及・啓発、記録保存の充実が図られた	26件
地方における芸術文化の活性化に寄与できた	22件
国際交流の発展及び振興が図られた	17件
活動地域の文化団体と他の地方文化団体との交流促進に寄与できた	16件
伝統芸能・伝統技術の承継、民俗芸能の復活に役立った	14件
地域住民参加による活動が実施できた	13件
その他	7件
合　　計	1,322件

A　A

(4)-2 芸術団体等に対する各種情報等の提供

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

広報活動
(1) 基金による助成事業の概要等を紹介したチラシ（４種類）を作成・配布
・ 助成事業の概要を紹介したパンフレット（２つ折り）を作成・配布
・ 映画の製作活動助成を紹介したチラシを作成・配布
・ 芸術文化振興基金助成対象活動PRチラシを作成・配布
・ 基金への寄付についてのチラシを作成・配布
(2) 広報誌「芸術文化振興基金No.20」を発行（６月30日）し、17年度助成対象活動の決定等の記事掲載。
(3)「日本芸術文化振興会ニュース」及び「文化庁月報」へ基金の概要、助成対象活動の募集案内等の記事掲載（毎月）
(4) 18年度募集案内広告掲載誌（20誌、10月上旬～11月下旬）
(5) NHK に対する18年度募集案内広告放送（10月下旬）を地方支局へ依頼（54局）
(6) 18年度募集案内ポスターを配布
(7) 18年度助成対象活動募集説明会の開催（東京開催分１回増加）
（大阪）９月29日：芸術創造普及活動等対象（芸術団体等対象、会場・プリムローズ大阪）
（東京）10月４日：芸術創造普及活動等対象（芸術団体等対象、会場・こまばエミナースホール）
10月５日：芸術創造普及活動等対象（芸術団体等対象、会場・こまばエミナースホール）
10月６日：地域文化振興活動・文化振興普及団体等対象（都道府県、政令指定都市担当者対象、会場・伝統芸能情報館）
10月７日：映画の製作活動対象（芸術団体等対象、会場・こまばエミナースホール）
(8) 基金部ホームページの充実
① Ｑ＆Ａに「交付内定以降の手続きについて」を新規掲載
② 17年度アクセス件数　実績：109,911件（目標：30,000件）

A

ホームページへのアクセスの達成状況

30,000件以上	21,000件以上30,000件未満	21,000件未満

実績109,911件／目標30,000件（達成度366.4%）

A

2．伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演

(1) 伝統芸能の公開

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

1．公演実績

分　野	公演数	回数	日数	入場者数	目　標
歌舞伎	５公演	141回	113日	120,672人(59.2%)	108,600人(61.1%)
文楽	８公演	323回	149日	135,652人(63.2%)	128,200人(59.7%)
舞踊･邦楽･雅楽･声明	20公演	34回	27日	18,117人(70.3%)	19,900人(72.0%)
民俗芸能･特別企画					
大衆芸能	67公演	324回	292日	45,978人(49.4%)	39,100人(43.1%)
能楽	50公演	55回	52日	31,714人(100.0%)	29,900人(94.3%)
組踊等沖縄伝統芸能	30公演	37回	37日	12,676人(56.5%)	13,600人(60.0%)
小　計	180公演	914回	670日	364,809人(61.7%)	339,300人(60.0%)
青少年等鑑賞教室	６公演	159回	82日	149,689人(84.9%)	143,500人(81.6%)
合　計	186公演	1,073回	752日	514,498人(67.0%)	482,800人(65.1%)

A　A

全般的に、国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿った公演の制作実施等が行われ、効果が上がっている。演目に工夫があり、舞台水準も高かった。舞踊、邦楽等の入場者数が目標をやや下回っているが、企画が良質であることは疑いない。

【より良い事業とするための意見等】

一部の公演の入場者数が目標に達していないが、上演意義は十分に認められるので、適切な入場者数の目標値を設定し、積極的なメディア展開などの工夫により改善することを期待したい。歌

２．演目の拡充
(1) 復活上演候補作品の調査研究
第１回復活上演候補作品調査検討会（平成18年２月20日）開催。
復活上演候補一覧から、10月歌舞伎公演「貞操花鳥羽恋塚」、11月歌舞伎公演「絵本太功記」を取り上げて上演。
また、５月舞踊公演では「花翫暦色所八景」を取り上げた。
(2) 新作脚本の募集
① 新作歌舞伎脚本　募集要項等の見直しを行い、10月募集開始、３月末日締め切り（応募183件）
② 新作大衆芸能脚本（浪曲）　８月に募集（応募36篇）、表彰：佳作３篇

３．外部団体との連携・協力、地方における上演
① 芸術祭主催７公演、協賛47公演を実施した。
② 鑑賞教室公演における地方自治体・教育委員会等の後援・協力、社会人公演における経済団体等の後援、５月舞踊公演における社団法人日本舞踊協会・早稲田大学演劇博物館の協力、３月民俗芸能公演における中津川市・中津川市教育委員会の協力、文楽劇場公演における関西元気文化圏共催事業等への協力・参加、10月舞踊公演における日韓友情年2005記念事業への参加、11月文楽公演における大阪国際人形劇フェスティバルへの参加等により公演を実施した。
また、外部団体主催公演への協力１公演を実施した。
③ 受託による公演を２公演、地方における公演を３公演実施した。

４．外部専門家等の意見
通し狂言や復活狂言の上演という国立劇場の基本方針に適っており、それぞれに上演意義が認められた。社会人向けの公演を行うことは評価できるが、夜の公演での集客方法もあわせて検討してほしい。従来どおり専門委員会における意見を速やかに公演制作に反映させる姿勢は高く評価できる。普段観ることのできない演目や芸能の上演、特定のテーマに即した異ジャンルの芸能の上演などは国立劇場ならではの意義ある企画である。出演者を交えた対談、工夫された解説は、観客の興味関心の向上に寄与したと思われる。

５．アンケート調査

分　野	実施回数	回答数	回収率(配布数)	概ね満足の回答(回答数)
歌舞伎	８回	6,083人	79.2%(7,683人)	85.9%(5,228人)
文楽	４回	1,407人	47.6%(2,958人)	88.6%(1,246人)
舞踊･邦楽･雅楽･声明	９回	3,058人	65.4%(4,678人)	82.8%(2,532人)
民俗芸能･特別企画				
大衆芸能	13回	1,295人	33.2%(3,904人)	92.4%(1,197人)
能楽	７回	1,938人	50.3%(3,853人)	86.8%(1,682人)
組踊等沖縄伝統芸能	32回	4,880人	42.1%(11,597人)	68.4%(3,336人)
青少年等鑑賞教室	４回	3,893人	83.1%(4,686人)	88.1%(3,430人)
合　計	77回	22,554人	57.3%(39,359人)	82.7%(18,651人)

【特記事項】
「社会人のための歌舞伎入門・鑑賞教室」を実施（６･７･10･11･12月に計10回実施、入場者数合計：10,436人）
「ういーくえんど文楽」を実施（７・８月に３回実施、入場者数合計：1,907人）
「社会人のための文楽入門」を実施（12月に１回実施、入場者数：522人）
３月歌舞伎公演は全期間１部・２部の通しという形式で上演し、平日の２部を18時30分開演の社会人を対象とした公演として実施した。

舞伎については、俳優の情熱を刺激するような演目を提示し、実現する企画力を望みたい。国立劇場おきなわについては、地元の大学生、高校生などにも働きかけ認知度を高めるとともに、アンケートの概ね満足という回答が60%台となった要因を分析することが望ましい。

・歌舞伎

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

A

(1) 10月歌舞伎公演「通し狂言 貞操花鳥羽恋塚」
社会人のための歌舞伎入門～スペクタクル 大道具大仕掛け も面白い～（19時開演）
「解説 舞台と仕掛けのひみつ」、「貞操花鳥羽恋塚」讃州松山屏風ヶ浦の場／同崇徳院御在所の場
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
10月３日(月)～26日(水)	25回	23日	20,156人(60.7%)	26,000人(71.3%)

社会人のための歌舞伎入門」※回数、日数、入場者数は上記に含まれる

期　間	回数	日数	入場者数
14日(金)・21日(金)	２回	２日	2,165人(81.5%)

○会場　本館大劇場
○入場料　※( )内は学生料金
特別席12,000円(8,400円)、１等A9,200円(6,400円)、１等B6,100円(4,300円)、２等2,500円(1,800円)、
３等1,500円(1,100円)、障害者２割引
［社会人のための歌舞伎入門］１等5,000円(4,500円)、２等2,500円(1,800円)、３等1,500円(1,100円)、障害者２割引

(2) 11月歌舞伎公演「通し狂言 絵本太功記」
社会人のための歌舞伎入門 ～重厚な義太夫狂言の味わい～（19時開演）
「解説 義太夫狂言のいろは」、「絵本太功記」尼ヶ崎閑居の場
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
11月３日(木･祝)～26日(土)	25回	23日	19,746人(51.6%)	25,000人(71.5%)

社会人のための歌舞伎入門」※回数、日数、入場者数は上記に含まれる。

期　間	回数	日数	入場者数
18日(金)・25日(金)	２回	２日	1,199人(39.4%)

○会場　本館大劇場
○入場料　※( )内は学生料金
特別席12,000円(8,400円)、１等A9,200円(6,400円)、１等B6,100円(4,300円)、２等2,500円(1,800円)、
３等1,500円(1,100円)、障害者２割引
[社会人のための歌舞伎入門] １等5,000円(4,500円)、２等2,500円(1,800円)、３等1,500円(1,100円)、障害者２割引

(3) 12月歌舞伎公演「通し狂言 天衣紛上野初花」
社会人のための歌舞伎入門（19時開演）
「黙阿弥の世界へ」、「天衣紛上野初花」－河内山－　序幕上州屋見世先の場、二幕目松江邸書院の場／同玄関先の場
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
12月３日(土)～25日(日)	25回	22日	23,896人(62.9%)	19,000人(54.3%)

社会人のための歌舞伎入門」※回数、日数、入場者数は上記に含まれる。

期　間	回数	日数	入場者数
8日(木)・13日(火)・16日(金)	３回	３日	2,847人(62.4%)

○会場　本館大劇場
○入場料　※( )内は学生料金

5公演のうち4公演が通し狂言というのは、前年度の3公演を上回り、国立劇場らしさが一層推進された。市川団十郎休演ながら中村橋之助らが好演した「絵本太功記」、尾上菊五郎のもと復活上演した「曽我梅菊念力弦」を評価したい。「貞操花鳥羽恋塚」も前回の公演を踏まえて改訂し成果を上げた。企画に熱意と工夫が認められ、また将来への布石も十分になされている。「社会人のための歌舞伎入門」が瑕価であることは、平易な解説と相まって広い層への浸透を促す動因となろう。

【より良い事業とするための意見等】

2公演の入場者数が目標に達していないため、今後は適切な入場者数の目標値を設定し、広報宣伝を含め、その達成に努めることが望まれる。「社会人のための歌舞伎入門」に見られる卓抜したアイデアをさらに進めてほしい。英語による解説を主とした会を年に数回開くことを検討してほしい。

特別席12,000円（8,400円）、１等A9,200円(6,400円)、１等B6,100円（4,300円）、２等2,500円(1,800円)、
３等1,500円(1,100円)、障害者２割引
［社会人のための歌舞伎入門］１等5,000円(4,500円)、２等2,500円(1,800円)、３等1,500円(1,100円）、障害者２割引

(4) １月歌舞伎公演「通し狂言 曽我梅菊念力弦」
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
1月３日(月)～27日(金)	24回	24日	26,344人(72.2%)	25,000人(68.5%)

○会場　　本館大劇場
○入場料　※( )内は学生料金
特別席12,000円（8,400円）、１等A9,200円(6,400円)、１等B6,100円（4,300円）、２等2,500円(1,800円)、
３等1,500円(1,100円)、障害者２割引

(5) ３月歌舞伎公演「猿之助十八番の内 當世流小栗判官」
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
３月５日(日)～26日(日)	42回	21日	30,530人(52.5%)	13,600人(38.9%)

○会場　　本館大劇場
○入場料　※( )内は学生料金
１等A8,500円(6,000円)［通し割引8,000円］、１等B6,100円(4,300円)［通し割引5,800円］、
２等2,500円(1,800円)［通し割引2,400円］、３等1,500円(1,100円)［通し割引1,450円］、障害者２割引

入場者数の達成状況	108,600人以上	76,020人以上108,600人未満	76,020人未満	実績120,672人／目標108,600人（達成度111.1%）	A

・文　楽	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	(1) ４月文楽公演（第１部）「伽羅先代萩」「傾城反魂香」「道成寺入相花王」、（第２部）「楠昔噺」「艶容女舞衣」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ４月２日(土)～24日(日) / 44回 / 22日 / 14,822人(46.1%) / 15,400人(47.9%) ○会場　　文楽劇場 ○入場料　１等5,800円（4,100円）、２等2,300円、障害者２割引　※( )内は学生料金 (2) ５月文楽公演（第１部）「近江源氏先陣館」「冥途の飛脚」、（第２部）「伽羅先代萩」「桂川連理柵」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ５月７日(土)～22日(日) / 32回 / 16日 / 17,112人(95.5%) / 16,300人(91.0%) ○会場　　本館小劇場 ○入場料　１等6,500円(4,600円)、２等5,200円(2,600円)、３等1,500円(1,100円)、障害者２割引　※( )内は学生料金 (3) ７・８月文楽公演（第１部）「東海道中膝栗毛」、「解説 文楽はおもしろい」、「小鍛冶」 （第２部）「桂川連理柵」　（第３部）「摂州合邦辻」 社会人のための文楽入門「ういーくえんど文楽」（19時開演） ご案内「文楽を知る。大阪を知る。」（竹本住大夫、高木浩志）、「摂州合邦辻」合邦庵室の段 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 7月16日(土)～8月7日(日) / 66回 / 22日 / 21,057人(43.6%) / 21,700人(45.0%) ういーくえんど文楽［※回数、日数、入場者数は上記に含まれる。 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 7/22(金)･29(金)･8/5(金) / 3回 / 3日 / 1,907人(87.0%) ○会場　　文楽劇場 ○入場料　一般4,600円（2,300円）、子供1,800円、障害者２割引　※( )内は学生料金　※ういーくえんど文楽は同じ料金 (4) ９月文楽公演（第１部）「芦屋道満大内鑑」、（第２部）「菅原伝授手習鑑」寺入りの段・寺子屋の段、「女殺油地獄」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ９月10日(土)～25日(日) / 32回 / 16日 / 17,494人(97.6%) / 16,300人(91.0%) ○会場　　本館小劇場 ○入場料　１等6,500円(4,600円)、２等5,200円（2,600円）、３等1,500円(1,100円)、障害者２割引　※( )内は学生料金 (5) 11月文楽公演「通し狂言 本朝廿四孝」 （第１部）大序「足利館大広間の段」「同奥御殿の段」、二段目「諏訪明神百度石の段」、 三段目「桔梗原の段」「景勝下駄の段」「勘助住家の段」 （第２部）二段目「信玄館の段」「村上義清上使の段」「勝頼切腹の段」、四段目「道行似合の女夫丸」 「和田別所化性屋敷の段」「謙信館の段」「十種香の段」「奥庭狐火の段」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 11月５日(土)～27日(日) / 44回 / 22日 / 17,163人(53.4%) / 14,900人(46.3%) ○会場　　文楽劇場 ○入場料　１等5,800円(4,100円)、２等2,300円、通し割引(１等一般のみ)9,800円、障害者２割引　※( )内は学生料金 (6) 12月文楽公演「一谷嫩軍記」 社会人のための文楽入門（19時開演）　「解説 文楽のたのしみ」、「一谷嫩軍記」熊谷陣屋の段 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 12月６日(火)～18日(日) / 13回 / 13日 / 6,108人(84.0%) / 5,200人(71.4%) ［社会人のための文楽入門］※回数、日数、入場者数は上記に含まれる。 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 ９日(金) / １回 / １日 / 522人(94.4%) ○会場　　本館小劇場 ○入場料　１等5,700円(4,000円)、２等4,700円(2,400円)、３等1,500円(1,300円)、障害者２割引　※( )内は学生料金 ［社会人のための文楽入門］3,600円	A	全公演とも国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿って制作、実施されている。吉田玉男という最大のスターが休演した中で、これだけの実績を上げたのは中堅の実力者を抜擢した制作の英断によるものであり、高く評価する。 【より良い事業とするための意見等】 2公演の入場者数が目標にやや達していないが、文楽劇場と本館小劇場との入場率の落差の要因を分析の上、適切な入場者数の目標値を設定し、広報宣伝を含め、その達成に努めることが望まれる。世代交代期に入っているので、現在の人気を保持するためには、ヴェテランの至芸と若手との差を埋める手立てを講じる必要があり、今年度のように実力者を抜擢するなど、新しい文楽を作る不断の努力が求められる。

(7) １月文楽公演（第１部）「寿式三番叟」「太平記忠臣講釈」「卅三間堂棟由来」、（第２部）「桜鍔恨鮫鞘」「妹背山婦女庭訓」

○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
１月３日(火)～25日(水)	44回	22日	20,055人(62.4%)	19,100人(59.4%)

○会場　　文楽劇場

○入場料　１等5,800円（4,100円)、２等 2,300円、障害者２割引　※( )内は学生料金

(8) ２月文楽公演（第１部）「御所桜堀川夜討」弁慶上使、「関取千両幟」、（第２部）「小鍛冶」、「曽根崎心中」、（第３部）「天網島時雨炬燵」

○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
２月11日(土)～26日(日)	48回	16日	21,841人(81.3%)	19,300人(71.8%)

○会場　　本館小劇場

○入場料　※( )内は学生料金

１等5,700円(学生4,000円)、２等4,700円(学生2,400円)、３等1,500円(学生1,300円)、障害者２割引

入場者数の達成状況	128,200人以上	89,740人以上128,200人未満	89,740人未満	実績135,652人／目標128,200人（達成度105.8%）	A

・舞　踊 ・邦　楽 ・雅　楽 ・声　明 ・民俗芸能 ・特別企画	（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評価を決定する）			A

(1) 舞踊

○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
５月公演（本館大劇場）「八変化所作事 花甍暦色所八景」	5/28	２回	１日	1,759人(57.9%)	2,300人(71.4%)
８月公演（本館小劇場）「花形・名作舞踊鑑賞会」	8/20～21	２回	２日	923人(88.4%)	500人(42.4%)
10月公演（文楽劇場）「日舞琉の名流舞踊鑑賞会」	10/15	２回	１日	686人(45.6%)	900人(66.5%)
11月公演（本館小劇場）「舞の会－京阪の座敷舞－」	11/26	２回	１日	1,026人(86.9%)	1,100人(93.2%)
３月公演（本館小劇場）「素踊りの会」	3/11～12	２回	２日	992人(84.1%)	900人(76.3%)
合計（５公演）		10回	７日	5,386人(67.7%)	5,700人(70.2%)

○入場料（全公演障害者２割引）※( )内は学生料金

［八変化］１等8,000円(5,600円)、２等5,000円(3,500円)、３等3,000円(2,100円)

［花形名作］5,000円(3,500円)　［名流舞踊］6,500円(4,600円)　［舞の会・素踊り］6,000円(4,200円)

(2) 邦楽

○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
５月公演（文楽劇場）「文楽素浄瑠璃の会」	5/28	１回	１日	514人(68.3%)	300人(39.8%)
７月公演（本館小劇場）「江戸三味線音楽の歴史(第五回)」	7/16	１回	１日	545人(92.4%)	500人(84.7%)
10月公演（本館小劇場）「文楽素浄瑠璃の会」	10/29	１回	１日	559人(94.7%)	500人(84.7%)
１月公演（本館小劇場）「邦楽鑑賞会 長唄の会・三曲の会」	1/21～1/22	３回	２日	1,498人(84.6%)	1,200人(67.8%)
合計（４公演）		６回	５日	3,116人(84.1%)	2,500人(67.5%)

○入場料（全公演障害者２割引）※( )内は学生料金

［５月素浄瑠璃］3,500円(2,500円)　［江戸三味線音楽］3,600円(2,500円)　［10月素浄瑠璃・邦楽鑑賞会］4,000円(2,800円)

(3) 雅楽

○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
６月公演（本館小劇場）「唱歌－声で奏でる管絃－」	6/4	１回	１日	443人(75.1%)	500人(84.7%)
11月公演（本館小劇場）「国風歌舞」	11/12	１回	１日	525人(89.0%)	400人(67.8%)
合計（２公演）		２回	２日	968人(82.0%)	900人(76.3%)

○入場料　［両公演］4,000円(2,800円)、障害者２割引　※( )内は学生料金

(4) 声明

○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月公演（本館小劇場）「黄檗宗大本山萬福寺の梵唄」	4/23	１回	１日	1,407人(87.4%)	1,500人(93.2%)
９月公演（文楽劇場）「比叡山延暦寺の声明」	9/3～9/4	２回	２日	953人(63.3%)	1,100人(73.0%)
合計（２公演）		３回	３日	2,360人(75.7%)	2,600人(83.4%)

○入場料（両公演ともに障害者２割引）※( )内は学生料金

［黄檗梵唄］１等 4,000円(2,800円)、２等 2,500円(1,800円)　［延暦寺声明］5,000円(3,500円)、２日券8,500円

(5) 民俗芸能

○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
７月公演（本館小劇場）「民衆に伝わる舞楽」	7/9～7/10	３回	２日	990人(55.9%)	1,400人(79.1%)
９月公演（本館大劇場）「日本の太鼓－歓喜乱舞－」	9/3～9/4	２回	２日	2,020人(62.7%)	2,300人(71.4%)

それぞれの当を得た創意工夫、企画内容が評価できる。「文楽素浄瑠璃の会」、「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」などが好成績を上げたことに注目したい。

【より良い事業とするための意見等】

声明と民俗芸能の全公演、舞踊の一部公演の入場者数が目標に達していないため、今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝を含め、その達成に努めることが望まれる。この分野は往年に比べ全般的にスター不足の状況にある。かつて人気を集めた「舞の会」、声明公演などが目標の入場者数に達しなかったのはそのためであろう。観客の好みの動向も踏まえた企画も必要ではないか。関連学会への案内がさらに早まるようにし、春秋の諸学会の年次大会に連動させるのも、社会教育の方法として意義をもつ。

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
３月公演（本館小劇場）「中津川の芝居」	3/18〜3/19	３回	２日	935人(57.2%)	1,400人(79.1%)
合計（３公演）		８回	６日	3,945人(59.6%)	5,100人(75.4%)

○入場料（全公演障害者２割引）※( )内は学生料金
［民衆舞楽・中津川の芝居］3,600円(2,500円)　［日本の太鼓］１等4,000円(5,600円)、２等2,500円(1,800円)

(6) 特別企画
○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月公演（本館小劇場）「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	4/16	１回	１日	496人(84.1%)	300人(50.1%)
５月公演（文楽劇場）「明日をになう新進の舞踊・邦楽鑑賞会」	5/14	１回	１日	431人(63.7%)	300人(39.8%)
１月公演（本館小劇場）「語りの世界」	1/14	２回	１日	927人(78.6%)	900人(76.3%)
３月公演（文楽劇場）「上方のくらしと芸」	3/11	１回	１日	488人(64.8%)	1,600人(70.8%)
合計（４公演）		５回	４日	2,342人(73.2%)	3,100人(64.8%)

○入場料（全公演障害者２割引）※( )内は学生料金
［４月舞踊邦楽］3,000円(2,100円)　［５月舞踊邦楽］4,500円(3,200円)
［語りの世界］4,000円(2,800円)　［上方のくらしと芸］5,000円(3,500円)

入場者数の達成状況	19,900人以上	13,930人以上19,900人未満	13,930人未満	実績18,117人／目標19,900人（達成度91.0％）	B

・大衆芸能

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

評定：A

(1) 定席公演
○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	回数	日数	入場者数	目　標
４月上席	11回	10日	1,383人(41.9%)	各席 1,155人(35.0%)
４月中席(歌丸十八番)	11回	10日	1,677人(50.8%)	
５月中席	11回	10日	963人(29.2%)	
６月上席	11回	10日	1,163人(35.2%)	
６月中席	11回	10日	1,079人(32.7%)	
７月上席	11回	9日	1,203人(40.1%)	
７月中席	11回	10日	1,135人(34.4%)	
８月上席(立体怪談・貞水怪談噺)	11回	10日	997人(30.2%)	
８月中席(歌丸「怪談牡丹灯篭」第四話)	11回	10日	3,094人(93.8%)	
９月上席	11回	10日	972人(29.5%)	
９月中席	11回	10日	818人(24.8%)	
10月上席	12回	10日	858人(26.0%)	
10月中席	11回	10日	958人(29.0%)	
11月上席	11回	10日	907人(27.5%)	
11月中席	11回	10日	1,451人(40.3%)	
12月上席	11回	10日	818人(24.8%)	
12月中席	11回	10日	1,196人(33.2%)	
１月中席	11回	10日	2,088人(63.3%)	
２月上席	11回	10日	1,592人(44.2%)	
２月中席(鹿芝居「人情噺文七元結」)	11回	10日	2,390人(72.4%)	
３月上席	12回	10日	1,998人(51.2%)	
３月中席(夢丸新江戸噺)	12回	10日	1,740人(48.3%)	
合計（22公演）	247回	219日	30,480人(41.1%)	25,300人(35.0%)

※　期間：［上席］５月・１月を除く毎月１日〜10日(７月のみ２日より)、［下席］毎月11日〜20日
※　追加貸切公演を計６回実施（11月〜３月）
○会場　演芸場
○入場料　一般2,000円(前売1,800円)、学生1,400円、シルバー(65歳以上)1,100円、障害者２割引

(2) 企画公演
○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月(三宅坂で乱歩)	4/29	１回	１日	287人(95.7%)	各公演 234人(78.0%)
５月(談笑・談春二人会)	5/21	１回	１日	274人(91.3%)	
６月(花形演芸会ｽﾍﾟｼｬﾙ〜受賞者の会)	6/26	１回	１日	292人(97.3%)	
７月(親子で楽しむ演芸会)	7/31	１回	１日	268人(89.3%)	
８月(夏を楽しむ「ｱﾛﾊﾏﾝﾀﾞﾗｰｽﾞ」)	8/27	１回	１日	181人(60.3%)	
９月(懐かしの映像とともに)	9/17	１回	１日	220人(73.3%)	
９月(女が語る　義経をめぐる物語)	9/23	１回	１日	303人(101.0%)	
10月(大衆芸能脚本募集受賞作品の会)	10/22	１回	１日	149人(49.7%)	
10月(芸術祭寄席)	10/23	２回	１日	529人(8[illegible].2%)	
11月(道の面影、街の芸)	11/27	１回	１日	234人(78.8%)	
12月(三遊亭円丈の作品集)	12/23	１回	１日	305人(101.7%)	
２月(ﾏｼﾞｯｸﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ松旭斎すみえと一門会)	2/25	１回	１日	283人(94.3%)	
３月(春爛漫ｻｸﾗｻｸ 林家木久蔵一門会)	3/25	１回	１日	312人(104.0%)	
合計（13公演）		14回	13日	3,637人(86.6%)	3,000人(76.9%)

※　10月「大衆芸能脚本募集受賞作品の会」は漫才・コント部門を実施。
○会場　演芸場
○入場料（全公演障害者２割引）
［大衆芸能脚本募集・マジックフェス］2,500円(学生1,800円)
［親子演芸会］2,500円(学生1,800円)、小中学生1,500円　［その他］3,000円(学生2,400円)

(3) 若手新人公演（花形演芸会）
○期間、回数、日数及び入場者数

　全体としての入場者数の達成状況が昨年度の実績より好転しているのは評価できる。国立名人会、若手新人公演(花形演芸会)の人気は特筆に値する。一方で、一部の定席公演の不振の要因を分析することが望まれる。

【より良い事業とするための意見等】

　寄席の芸はライブが基本であり、テレビ等に満足できない層が増えることは確実で、高齢者社会へと突き進んでいることもあり、国立演芸場の価値は将来大いに高まると思われる。なによりも持続が肝心であり、また、良いものを心がければ口コミで必ず観客層は拡大するであろう。桂歌丸の「牡丹灯篭」の人気の高さに見られる通り、企画力がさらに問われている。定席は、トリが何を演じるのかを売り物にする等の、工夫による改善を期待したい。

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月(第311回花形演芸会)	4/23	１回	１日	287人(95.7%)	各公演 225人(75.0%)
５月(第312回花形演芸会)	5/28	１回	１日	235人(78.3%)	
６月(第313回花形演芸会)	6/18	１回	１日	307人(102.3%)	
７月(第314回花形演芸会)	7/23	１回	１日	312人(104.0%)	
８月(第315回花形演芸会)	8/28	１回	１日	310人(103.3%)	
９月(第316回花形演芸会)	9/25	１回	１日	290人(96.7%)	
10月(第317回花形演芸会)	10/29	１回	１日	304人(101.3%)	
11月(第318回花形演芸会)	11/26	１回	１日	305人(101.7%)	
12月(第319回花形演芸会)	12/25	１回	１日	301人(100.3%)	
１月(第320回花形演芸会)	1/22	１回	１日	311人(103.7%)	
２月(第321回花形演芸会)	2/4	１回	１日	218人(72.7%)	
３月(第322回花形演芸会)	3/23	１回	１日	298人(99.3%)	
合計（12公演）		12回	12日	3,478人(96.6%)	2,700人(75.0%)

○会場　　演芸場
○入場料　1,500円(学生1,100円)、シルバー(65歳以上)1,000円、障害者２割引

(4) 国立名人会
○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月国立名人会(第277回)	4/24	１回	１日	197人(65.7%)	各公演 278人(92.7%)
５月国立名人会(第278回)	5/22	１回	１日	301人(100.3%)	
６月国立名人会(第279回)	6/25	１回	１日	292人(97.3%)	
７月国立名人会(第280回)	7/24	１回	１日	293人(97.7%)	
８月国立名人会(第281回)	8/21	１回	１日	317人(105.7%)	
９月国立名人会(第282回)	9/24	１回	１日	301人(100.3%)	
10月国立名人会(第283回)	10/30	１回	１日	284人(94.7%)	
11月国立名人会(第284回)	11/23	１回	１日	296人(98.7%)	
12月国立名人会(第285回)	12/24	１回	１日	301人(100.3%)	
２月国立名人会(第286回)	2/26	１回	１日	296人(98.7%)	
３月国立名人会(第287回)	3/26	１回	１日	288人(96.0%)	
合計（11公演）		11回	11日	3,166人(95.9%)	3,000人(90.9%)

○会場　　演芸場
○入場料　3,000円(学生2,100円)、障害者２割引

(5) 新春名人会
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
１月２日(月)～６日(金)	７回	５日	2,158人(102.8%)	1,900人(90.5%)

○会場　　演芸場
○入場料　3,500円(学生2,500円)、障害者２割引

(6) 師走浪曲名人会
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
12月３日(土)	１回	１日	711人(94.4%)	600人(79.7%)

○会場　　文楽劇場
○入場料　3,400円(学生2,400円)、障害者２割引

(7) 浪曲錬声会
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
５月21日(土)	２回	１日	241人(75.8%)	200人(62.9%)

○会場　　文楽劇場小ホール
○入場料　2,000円(学生1,400円)、障害者２割引

(8) 上方演芸特選会
○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期　間	回数	日数	入場者数	目　標
５月上方演芸特選会(第17回)	5/7～5/11	５回	５日	340人(42.8%)	各公演 400人(50.3%)
７月上方演芸特選会(第18回)	7/2～7/6	５回	５日	349人(43.9%)	
９月上方演芸特選会(第19回)	9/10～9/14	５回	５日	335人(42.1%)	
11月上方演芸特選会(第20回)	11/5～11/9	５回	５日	296人(37.2%)	
１月上方演芸特選会(第21回)	1/7～1/11	５回	５日	354人(44.5%)	
３月上方演芸特選会(第22回)	3/4～3/8	５回	５日	433人(54.5%)	
合計（６公演）		30回	30日	2,107人(44.2%)	2,400人(50.3%)

○会場　　文楽劇場小ホール
○入場料　2,000円(学生1,400円)、シルバー1,100円、障害者２割引

入場者数の達成状況	39,100人以上	27,370人以上39,100人未満	27,370人未満	実績45,978人／目標39,100人（達成度117.6%）	A

・能　楽	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	(1) 定例公演 ○期間、回数、日数及び入場者数	A

公演名	期　間	回数	日数	入場者数	目　標
４月(犬山伏、八島)	4/15	１回	１日	612人(103.6%)	
４月(八句連歌、大原御幸)	4/27	１回	１日	620人(104.9%)	
５月(隠狸、石近)	5/11	１回	１日	432人(73.1%)	
５月(抜殻、藤)	5/18	１回	１日	621人(105.1%)	
６月(水掛賀、杜若)	6/1	１回	１日	549人(92.9%)	
６月(文蔵、手手)	6/17	１回	１日	613人(103.7%)	
７月(秀句傘、真服)	7/6	１回	１日	542人(91.7%)	

全公演とも、国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿って制作・実施されている。定例公演と普及公演について、一部を除き、ほぼ100%を超える入場者数を得ていることは特筆に値する。新作能「紅天女」が活況を呈したことは高く評価される。

【より良い事業とするための意見等】

７月(附子、藤戸)	7/13	１回	１日	609人(103.0%)	各公演 561人(94.9%)
８月(六地蔵、船橋)	8/3	１回	１日	622人(105.2%)	
８月(蚊相撲、大蛇)	8/19	１回	１日	618人(104.6%)	
９月(寝音曲、楊貴妃)	9/7	１回	１日	620人(104.9%)	
９月(酒講式、蝉丸)	9/16	１回	１日	575人(97.3%)	
10月(悪太郎、班女)	10/5	１回	１日	444人(75.1%)	
10月(清水、定家)	10/21	１回	１日	616人(104.2%)	
11月(二人袴、融)	11/2	１回	１日	600人(101.5%)	
11月(太刀奪、三井寺)	11/18	１回	１日	618人(104.6%)	
12月(鬼の継子、芭蕉)	12/7	１回	１日	624人(105.6%)	
12月(縄綯、大江山)	12/16	１回	１日	617人(104.4%)	
１月(福の神、東方朔)	1/7	１回	１日	614人(103.9%)	
１月(筑紫奥、龍田)	1/20	１回	１日	612人(103.6%)	
２月(千鳥、熊野)	2/8	１回	１日	619人(104.7%)	
２月(鎌腹、竹生島)	2/17	１回	１日	586人(99.2%)	
３月(歌争、忠度)	3/1	１回	１日	621人(105.1%)	
３月(止動方角、頼政)	3/17	１回	１日	615人(104.1%)	
合計（24公演）		24回	24日	14,219人(100.2%)	13,400人(94.5%)

○会場　能楽堂
○入場料　正面4,800円、脇正面3,100円(2,200円)、中正面2,600円(1,800円)、障害者２割引　※( )内は学生料金

(2) 普及公演
○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月(解説･光田和伸、墨染、雲林院)	4/9	１回	１日	620人(104.9%)	各公演 561人(94.9%)
５月(解説･山路興造、腹不立、百万)	5/14	１回	１日	618人(104.6%)	
６月(解説･久富木原玲、白楽天、鷺蛙)	6/11	１回	１日	619人(104.7%)	
７月(解説･馬場あき子、真奪、花筐)	7/9	１回	１日	621人(105.1%)	
８月(おはなし、仏師、紅葉狩)	8/12	１回	１日	576人(97.5%)	
８月(おはなし、仏師、紅葉狩)	8/13	１回	１日	548人(92.7%)	
９月(解説･馬場光子、察化、半蔀)	9/10	１回	１日	519人(87.8%)	
10月(解説･諏訪春雄、萩大名、玉井、貝尽)	10/8	１回	１日	620人(104.9%)	
11月(解説･神田より子、無布施経、巻絹)	11/12	１回	１日	621人(105.1%)	
12月(解説･馬場あき子、柑子、芦刈)	12/10	１回	１日	619人(104.7%)	
１月(解説･馬場あき子、内沙汰、邯鄲)	1/14	１回	１日	625人(105.8%)	
２月(解説･西村聡、小傘、恋重荷)	2/11	１回	１日	620人(104.9%)	
３月(解説･鴨下信一、鐘の音、桜川)	3/11	１回	１日	619人(104.7%)	
合計（13公演）		13回	13日	7,845人(102.1%)	7,200人(93.7%)

※　８月公演(12･13日)は「子どものための夏休み能楽公演」として実施(おはなし･茂山千三郎)。
○会場　能楽堂
○入場料（全公演障害者２割引）※( )内は学生料金
正面4,800円、脇正面3,100円(2,200円)、中正面2,600円(1,800円)
［８月公演のみ］正面4,800円、脇正面3,100円、中正面2,600円、小中学生1,300円、高大学生1,700円

(3) 企画公演
○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月狂言の会 (朝比奈、惣八、老武者)	4/22	１回	１日	609人(103.0%)	各公演 １回あたり 561人(94.9%)
５月企画公演 (蝋燭の灯りによる:那須語、善知鳥)	5/26	１回	１日	573人(97.0%)	
７月企画公演 (夏休み親子のための狂言の会)	7/22	２回	１日	1,235人(104.5%)	
９月企画公演 (お話･山折哲雄、鬼瓦、現在七面)	9/22	１回	１日	441人(74.6%)	
９月企画公演 (泣尼、海人)	9/23	１回	１日	438人(74.1%)	
10月特別公演 (仏原、しゅ杖、鷺)	10/29	１回	１日	616人(104.2%)	
11月特別企画公演 (大償神楽、鐘巻)	11/10 ～11	３回	２日	939人(94.8%)	
11月企画公演 (蝋燭能:死神、経政)	11/25	１回	１日	615人(104.1%)	
12月企画公演 (再演の夕べ:椎茸天座、この花)	12/22	１回	１日	618人(104.6%)	
１月狂言の会 (三人夫、蛸、河原太郎)	1/26	１回	１日	499人(84.4%)	
１月特別公演 (張良、酢薑、羽衣)	1/28	１回	１日	622人(105.2%)	
２月特別企画公演 (紅天女)	2/24 ～25	２回	２日	1,828人(103.1%)	
３月特別企画公演 (献茶、通円、弱法師)	3/25	１回	１日	617人(104.4%)	
合計（13公演）		18回	15日	9,650人(97.9%)	9,300人(94.4%)

※　７月夏休み親子のための狂言の会では、狂言「柿山伏」「神鳴」「仁王」を上演。
※　11月特別企画公演は、能楽堂本舞台１回・研修能舞台(200席)２回を実施。目標は921人(92.9%)。
○会場　能楽堂
○入場料（全公演障害者２割引）※( )内は学生料金
［狂言の会］正面4,500円、脇正面3,100円(2,200円)、中正面2,600円(1,800円)
［特別公演］正面6,100円、脇正面4,700円(3,300円)、中正面3,100円(2,200円)
［企画公演］正面6,100円、脇正面4,700円(3,300円)、中正面3,100円(2,200円)
（７月のみ)正面4,500円、脇正面3,100円、中正面2,600円、小中学生1,300円、高大学生1,700円
［11月特別企画］10日(研修能舞台)：正面4,000円、脇正面3,500円(2,500円)
11日(本舞台)：正面8,500円、脇正面6,400円(4,500円)、中正面5,300円(3,700円)
［２月特別企画］正面6,500円、脇正面5,400円(3,800円)、中正面4,300円(3,000円)
［３月特別企画］正面8,500円、脇正面6,400円(4,500円)、中正面5,300円(3,700円)

曲目、演者をさらに魅力的にすることを望みたい。新作能については通常の公演の数倍の費用がかかるだけに、今後とも一過性の話題を提供するにとどまらず、再演に耐え得るような質の高い制作が望まれる。解説を付するのは良策だが、その内容が、能の筋や登場人物にとどまらず、今後は上演の技法（舞・音楽）を含めることを考えてほしい。

入場者数の達成状況	29,300人以上	20,510人以上29,300人未満	20,510人未満	実績31,714人／目標29,900人（達成度106.1%）	A

・組踊等沖縄伝統芸能

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

○期間、回数、日数及び入場者数

公演名	期間	回数	日数	入場者数	目　標
４月琉球舞踊	4/9	１回	１日	248人(39.2%)	（組踊公演） １回あたり 346人(60.0%) （その他） １回あたり 379人(60.0%)
４月組踊(執心鐘入)	4/23～24	２回	２日	578人(50.0%)	
５月琉球舞踊(役者の舞踊)	5/14	１回	１日	280人(44.3%)	
５月三線音楽(三線音楽の魅力)	5/28	１回	１日	103人(16.3%)	
５月三線音楽(三線音楽の広がり)	5/29	１回	１日	130人(20.6%)	
６月組踊(伏山敵討)	6/11	１回	１日	358人(61.9%)	
６月琉球舞踊(女形の会)	6/25	１回	１日	361人(57.1%)	
７月沖縄芝居(奥山の牡丹)	7/23～24	２回	２日	976人(84.3%)	
８月琉球舞踊(琉球舞踊と八重山舞踊)	8/14	１回	１日	312人(49.4%)	
８月組踊(万歳敵討)	8/27～28	２回	２日	856人(74.0%)	
９月民俗芸能(多良間の八月踊り)	9/24	１回	１日	544人(94.1%)	
10月琉球舞踊(演出的世界の中の琉球舞踊)	10/7	１回	１日	340人(58.7%)	
10月組踊(貞孝婦人)	10/22	１回	１日	332人(57.4%)	
11月琉球舞踊(創作舞踊 今昔)	11/12	１回	１日	356人(56.3%)	
12月組踊(徴石の巻)	12/3	１回	１日	449人(77.7%)	
12月琉球舞踊(新進舞踊家の会)	12/10	１回	１日	330人(52.2%)	
１月琉球舞踊(新春 琉舞名人選)	1/14	１回	１日	292人(46.2%)	
１月琉球舞踊(新春 琉舞名人選)	1/15	１回	１日	469人(74.2%)	
１月組踊(二重敵討)	1/28～29	２回	２日	453人(39.2%)	
２月三線音楽(組踊を聴く)	2/11	１回	１日	265人(41.9%)	
２月民俗芸能(うるま市勝連の民俗芸能)	2/26	１回	１日	489人(84.5%)	
３月琉球舞踊(琉球舞踊鑑賞会)	3/4	１回	１日	245人(38.8%)	
３月沖縄芝居(中城情話)	3/11～12	２回	２日	605人(47.9%)	
３月組踊(忠臣身替の巻)	3/25	１回	１日	384人(66.4%)	
定期公演小計（24公演）		29回	29日	9,755人(55.7%)	－
６月芝居公演 (八木政男･琉球講談と北島角子･一人芝居)	6/4	１回	１日	339人(53.6%)	１回あたり 379人（60.0%）
７月太鼓公演(太鼓の競演)	7/10	１回	１日	581人(91.9%)	
８月本土の芸能 (国立劇場寄席 怪談の世界)	8/7	１回	１日	419人(66.3%)	
９月アジア・太平洋地域芸能公演 (変貌する神々－アジアの仮面劇－)	9/18	１回	１日	430人(74.3%)	
２月本土の芸能(狂言 和泉流の至芸)	2/4～5	２回	２日	589人(46.6%)	
企画公演小計（５公演）		６回	６日	2,358人(63.1%)	－
11月新作組踊公演(遊ぎれ、結婚)	11/26～27	２回	２日	563人(48.6%)	692人(60.0%)
研究公演小計（１公演）		２回	２日	563人(48.6%)	－
合　計（30公演）		37回	37日	12,676人(56.5%)	13,600人(60.0%)

○会場　　国立劇場おきなわ大劇場
○入場料（全公演障害者２割引、親子割引[親＝定額・子＝500円]）※( )内は学生料金
［定期公演(下記を除く)、研究公演］3,000円(2,000円)、発売日割引2,500円
［７月・３月沖縄芝居公演、９月民俗芸能公演、１月琉球舞踊公演、６月・７月・９月企画公演］
3,500円(2,000円)、発売日割引3,000円
［８月・２月企画公演］4,000円(2,000円)、発売日割引3,500円

入場者数の達成状況	13,600人以上	9,520人以上13,600人未満	9,520人未満	実績12,676人／目標13,600人（達成度93.2%）	B

B

全公演とも、国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿って制作・実施された。5つの企画公演のうちのアジア・太平洋地域芸能1公演、本土の芸能2公演は、この劇場の演目の広がりを示唆するものとして、発展的継続が望まれる。
なお、小劇場の運営についてはより一層開放的に考え、県民になじむ環境を作ってゆくことが必要ではないかと考える。

【より良い事業とするための意見等】

殆どの公演の入場者数が目標に達しておらず、適切な入場者の目標値を設定するとともに、自治体や交通機関等との連携を図り広報宣伝に工夫を凝らし、その達成に努めることが望まれる。奄美の音楽とともに、ベトナムの雅楽などアジアの芸能にも視野を広げながら、地元の観客のリピーターや観光客にも刺激を与えるような良質の企画の充実を期待したい。

演目の拡充

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

A

１．復活上演候補作品の調査研究
第１回復活上演候補作品調査検討会（平成18年２月20日開催）
・　16年度に、各委員に依頼したシノプシス等の作成について、進捗状況の報告と問題点の指摘を受けた。
・　新たに、18年度の公演について、具体的な出演者や公演条件に基づく演目案の作成を事前に依頼し、当日、各委員から提案された演目について、検討を行った。

２．歌舞伎新作脚本募集の検討
①　次回の募集は、18年度の開場40周年記念事業のなかに位置づけるものとし、17年10月より募集を開始し、18年３月末日をもって締め切った。（選考、発表は18年度に行う）
②　選考委員の顔ぶれを一新するとともに、募集に先立ち、選考委員内定者からの意見聴取の会を８月17日に開催し、その結果を踏まえて、募集要項の一部見直しを行った。
（主な見直しの内容）
・　規定枚数を「60枚以内」から「30枚以上100枚以内」（400字詰）に変更し、応募者の資質に合わせて自由に書けるように幅を持たせた。
・「創作作品」という条件をはずし、翻案物や小説の劇化などにも許容範囲を広げた。
・　賞金を「優秀作100万円・佳作30万円」から「優秀作200万円・佳作50万円（ただし初演時の上演料・出版料を含む）」とし、執筆意欲を高めるようにした。
（選考委員）大笹吉雄（留任）・神山彰・栗山民也・竹田真砂子
③　前回、拡充した周知法（当振興会ホームページへの掲載、「公募ガイド」等無料広告の活用等）に加え、ポスター及び雑誌広告という新たな媒体を使って、周知に努めた。
（雑誌広告）「演劇界」（４回）、「テアトロ」（３回）、「悲劇喜劇」（３回）、「せりふの時代」（１回）
④　以上の結果として、今回は183篇の応募があった。

３．大衆芸能新作脚本の募集
①　８月より浪曲の募集を行い、８月末日をもって締め切った。応募総数は36篇であった。
②　１月30日に選考会を開催し、佳作３篇が選出された。

復活上演作品の調査研究、歌舞伎新作脚本募集、大衆芸能新作脚本募集は、いずれも公演の華やかさとは裏腹の地味なジャンルであるだけに、地道な継続が望まれる。歌舞伎新作脚本の応募数が格段に多くなっているのは、工夫と広報が行きとどいた成果であろう。

【より良い事業とするための意見等】

歌舞伎新作脚本は、質の問題もあるが、作品の活字媒体による発表や入選作の上演を検討してほしい。

佳作「雪崩れ」阪口三夢、佳作「田中正造」沼川淳、佳作「浪花夫婦茶碗」斎藤由司
（選考委員）太田博・大西信行・熊谷富夫・玉川福太郎・布目英一・保田武宏・吉川潮
③　大衆芸能新作脚本は、上演を前提としての募集を行っており、17年度受賞作品については、下記の日程で上演を予定している。18年６月30日　特別企画「大衆芸能脚本受賞作品の会」。
④　平成16年度大衆芸能受賞新作脚本（漫才・コント）について、実演家と検討を行い、上演した。
10月22日　特別企画「大衆芸能脚本受賞作品の会」漫才・コント部門

(2) 現代舞台芸術の公演

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

A

１．公演実績

公演名	公演数	回数	日数	入場者数	目標入場者数
オペラ	12公演	61回	61日	72,464人(70.0%)	77,700人(75.0%)
バレエ	６公演	31回	30日	41,036人(78.2%)	36,400人(70.0%)
現代舞踊	４公演	14回	14日	4,688人(65.8%)	4,900人(70.0%)
演劇	10公演	154回	140日	52,376人(77.2%)	46,300人(70.0%)
小　計	32公演	260回	245日	170,564人(73.8%)	165,300人(72.2%)
青少年等鑑賞教室	２公演	12回	９日	14,628人(89.7%)	12,200人(75.0%)
合　計	34公演	272回	254日	185,192人(74.9%)	177,500人(72.4%)

２．外部団体との連携・協力、地方における上演
①　平成17年度(第60回)文化庁芸術祭主催４公演、協賛６公演を実施した。
②　平成17年度文化庁舞台芸術国際フェスティバル主催公演１公演を実施した。
③　地方団体との連携２公演（オペラ１公演、演劇１公演）を実施した。
④　地方において、３公演（バレエ１公演・演劇２公演）を実施した。
⑤　海外において、２公演（現代舞踊１公演・演劇１公演）を実施した。

３．外部専門家等の意見
日本人作曲家による創作オペラ、本邦初演のバレエ作品や前衛的な現代舞踊、実験的な演劇作品、収支の均衡や集客が困難な公演、更には家族や学生への対応等、民間では着手しにくい公演に前向きに取り組み、現代舞台芸術の発展には欠かせない企画を実現しており、高く評価できる。

４．アンケート調査
すべての公演で実施。オペラ、バレエ、現代舞踊は、入場時にステージノートに挟み込み配布、回収時粗品進呈。演劇、鑑賞教室等は、劇場ロビー常置、出口回収。
（オ　ペ　ラ）回答数3,094人、回収率19.7%(配布数15,681人)、概ね満足85.4%(2,641人)
（バ　レ　エ）回答数1,738人、回収率22.3%（配布数7,775人）、概ね満足92.0%(1,599人)
（現 代 舞 踊）回答数227人、回収率14.2%(配布数1,598人)、概ね満足84.6%(192人)
（演　　劇）回答数2,197人、概ね満足88.2%(1,937人)
（鑑賞教室等）回答数5,034人　「高校生のためのオペラ鑑賞教室」：概ね満足59.7%(2,987人)
「こどものためのオペラ劇場」：概ね満足83.9%(26人)

全般的に、新国立劇場の役割を踏まえた企画意図で演目もバラエティに富み、概ね国内の各シーンをリードする舞台を実現したことを評価する。特にバレエは観客を育ててきた成果も評価できる。

【より良い事業とするための意見等】

オペラ部門において目標入場者数に及ばなかったが、今後は適切な入場者数の目標値を設定し、広報宣伝、マーケティングの在り方も含め、その達成に努めることが望まれる。レパートリーの定着のため、さらなる努力を期待するとともに、再演の時期及び出演者について一考を望みたい。

・オペラ

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

B

(1) フィガロの結婚
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
４月７日(木)～17日(日)	５回	５日	5,924人(66.0%)	6,700人(75.0%)

○会場　オペラ劇場
○入場料　①21,000円、②18,900円、③15,750円、④13,650円、⑤10,500円、⑥7,350円、⑦6,300円、⑧ 3,150円、○Z1,500円

(2) フィデリオ
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
５月28日(土)～６月９日(木)	６回	６日	6,500人(60.3%)	8,100人(75.0%)

○会場　オペラ劇場
○入場料　①21,000円、②18,900円、③15,750円、④13,650円、⑤10,500円、⑥7,350円、⑦6,300円、⑧ 3,150円、○Z1,500円

(3) 蝶々夫人
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
６月24日(金)～７月９日(土)	６回	６日	7,880人(73.1%)	8,100人(75.0%)

○会場　オペラ劇場
○入場料　①21,000円、②18,900円、③15,750円、④13,650円、⑤10,500円、⑥7,350円、⑦6,300円、⑧ 3,150円、○Z1,500円

(4) ニュルンベルクのマイスタージンガー
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
９月14日(水)～10月２日(日)	７回	７日	8,151人(64.8%)	9,400人(75.0%)

○会場　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ23,100円、Ⓢ19,950円、Ⓐ16,800円、Ⓑ14,700円、Ⓒ11,550円、Ⓓ8,400円、Ⓓ7,350円、Ⓔ4,200円、○Z1,500円

(5) セビリアの理髪師
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
10月14日(金)～22日(土)	５回	５日	6,118人(68.1%)	6,700人(75.0%)

○会場　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ21,000円、Ⓢ18,900円、Ⓐ15,750円、Ⓑ13,650円、Ⓒ10,500円、Ⓓ7,350円、Ⓔ6,300円、Ⓕ3,150円、Ⓖ1,500円

(6) アンドレア・シェニエ
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
11月20日(日)～12月５日(月)	６回	６日	7,100人(65.9%)	8,100人(75.0%)

○会場　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ21,000円、Ⓢ18,900円、Ⓐ15,750円、Ⓑ13,650円、Ⓒ10,500円、Ⓓ7,350円、Ⓔ6,300円、Ⓕ3,150円、Ⓖ1,500円

(7) ホフマン物語
○期間、回数、日数及び入場者数

期　間	回数	日数	入場者数	目　標
11月27日(日)～12月６日(火)	４回	４日	4,505人(62.7%)	5,400人(75.0%)

新国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿って多彩な演目が揃い、概ねレベルの高い公演が制作・実施された。「アンドレア・シェニエ」は演出・指揮等のバランスの良い出色のプロダクションで、この劇場のレパートリーに相応しいと思われる。年間を通じて、このように秀作と評価される公演が多くなるよう期待する。

【より良い事業とするための意見等】

12演目中8演目の入場者数が目標に達していないが、有名な作品が多いのに何故このような数字になったのか検討し、適切な入場者数の目標値を設定するとともに、広報宣伝及びマーケティングの在り方も含め、その達成に努めることが望まれる。また12作品中、日本人演出家の起用は邦人作品、小劇場のバロック・オペラ以外は一作にとどまったのは残念である。オペラ演出家の育成は開場10年を迎える新国立劇場のひとつの使命と思われる。小劇場のバロック・オペラ《セルセ》は実験的な試みだが、もっと練り上げられた公演となってほしかった。

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ21,000円、Ⓢ18,900円、Ⓐ15,750円、Ⓑ13,650円、Ⓒ10,500円、Ⓓ7,350円、Ⓔ6,300円、Ⓕ3,150円、Ⓩ1,500円

(8) 魔笛
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
１月21日(土)～29日(日)	５回	５日	7,850人(87.6%)	6,700人(75.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ15,750円、Ⓢ13,650円、Ⓐ11,550円、Ⓑ10,500円、Ⓒ8,400円、Ⓓ6,300円、Ⓔ5,250円、Ⓕ3,150円、Ⓩ1,500円

(9) コジ・ファン・トゥッテ
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
２月４日(土)～11日(土)	４回	４日	4,616人(64.4%)	5,400人(75.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ21,000円、Ⓢ18,900円、Ⓐ15,750円、Ⓑ13,650円、Ⓒ10,500円、Ⓓ7,350円、Ⓔ6,300円、Ⓕ3,150円、Ⓩ1,500円

(10) 愛怨
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
２月17日(金)～19日(日)	３回	３日	4,469人(83.1%)	4,000人(75.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ12,600円、Ⓢ11,550円、Ⓐ8,820円、Ⓑ7,770円、Ⓒ6,300円、Ⓓ5,250円、Ⓔ4,200円、Ⓕ3,150円、　Ⓩ1,500円

(11) 運命の力
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
３月15日(水)～30日(木)	６回	６日	8,178人(76.1%)	8,100人(75.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ21,000円、Ⓢ18,900円、Ⓐ15,750円、Ⓑ13,650円、Ⓒ10,500円、Ⓓ7,350円、Ⓔ6,300円、Ⓕ3,150円、Ⓩ1,500円

(12) セルセ
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
１月12日(木)～15日(日)	４回	４日	1,173人(91.1%)	1,000人(75.0%)

○会場　　小劇場
○入場料　5,250円、Ⓩ1,500円

入場者数の達成状況	77,700人以上	54,390人以上77,700人未満	54,390人未満	実績72,464人／目標77,700人（達成度93.3%）	B

・バレエ	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	(1) 眠れる森の美女 ○期間、回数、日数及び入場者数	A

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
４月29日(金)～５月３日(火)	５回	５日	6,903人(76.9%)	6,300人(70.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　①9,450円、②8,400円、③7,350円、④6,300円、⑤5,250円、⑥4,200円、⑦3,570円、⑧3,150円、Ⓩ1,500円

(2) ドン・キホーテ
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
６月25日(土)～７月２日(土)	５回	５日	6,650人(74.1%)	6,300(70.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　①9,450円、②8,400円、③7,350円、④6,300円、⑤5,250円、⑥4,200円、⑦3,570円、⑧3,150円、Ⓩ1,500円

(3) 「カルミナ･ブラーナ」／「ライモンダ」第１幕より夢の場
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
10月29日(土)～11月６日(日)	６回	６日	7,779人(72.2%)	7,500(70.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ9,450円、Ⓢ8,400円、Ⓐ7,350円、Ⓑ6,300円、Ⓒ5,250円、Ⓓ4,200円、Ⓔ3,570円、Ⓕ3,150円、Ⓩ1,500円

(4) くるみ割り人形
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
12月16日(金)～25日(日)	７回	７日	10,912人(86.8%)	8,800人(70.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ9,450円、Ⓢ8,400円、Ⓐ7,350円、Ⓑ6,300円、Ⓒ5,250円、Ⓓ4,200円、Ⓔ3,570円、Ⓕ3,150円、Ⓩ1,500円

(5) 白鳥の湖
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
１月７日(土)～９日(月・祝)	４回	３日	6,335人(88.4%)	5,000人(70.0%)

○会場　　オペラ劇場
○入場料　Ⓢ9,450円、Ⓢ8,400円、Ⓐ7,350円、Ⓑ6,300円、Ⓒ5,250円、Ⓓ4,200円、Ⓔ3,570円、Ⓕ3,150円、Ⓩ1,500円

(6) ナチョ・ドゥアトの世界
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
３月23日(木)～26日(日)	４回	４日	2,457人(61.8%)	2,500(70.0%)

○会場　　中劇場
○入場料　Ⓢ8,400円、Ⓐ6,300円、Ⓑ5,250円、Ⓒ3,150円、Ⓩ1,500円

新国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿って制作・実施され、また入場者数も1公演を除き、目標値を超えて制作効果を上げたと認められる。クリスマス公演「くるみ割り人形」において家族連れを考慮し二幕仕立てにしたのは時宜を得て成功した。

【より良い事業とするための意見等】

一部の公演の入場者数が目標に達していない。今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。予算の問題もあるだろうが、新制作をもう少し増やすことも含め、平成15年度の「スペインの燦き」のようなオペラとバレエの混合の舞台といった試みも期待したい。

入場者数の達成状況	36,400人以上	25,480人以上36,400人未満	25,480人未満	実績41,036人／目標36,400人（達成度112.7%）	A	
・現代舞踊	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			(1) ダンスプラネットNo.17　田中泯独舞「赤光」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：６月３日(金)～５日(日)　回数：３回　日数：３日　入場者数：761人(74.6%)　目標：700人(70.0%) ○会場　小劇場 ○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (2) ダンスプラネットNo.18「舞姫と牧神達の午後」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：９月16日(金)～19日(月･祝)　回数：４回　日数：４日　入場者数：961人(70.7%)　目標：1,000(70.0%) ○会場　小劇場 ○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (3) ダンスプラネットNo.19「コラボレートする身体」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：11月25日(金)～27日(日)　回数：３回　日数：３日　入場者数：872人(80.7%)　目標：700人(70.0%) ○会場　小劇場 ○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (4) ダンステアトロンNo.13「バレエ・プレルジョカージュ」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：１月31日(火)～２月５日(日)　回数：４回　日数：４日　入場者数：2,094人(57.2%)　目標：2,500人(70.0%) ○会場　中劇場 ○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円	B	概ね新国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿って制作・実施されているが、時代の進展を反映して行うことが望ましい。 【より良い事業とするための意見等】 入場者数が目標に達しないものがあり、今後は適切な入場者の目標値を設定し、広報宣伝も含め、その達成に努めることが望まれる。
入場者数の達成状況	4,900人以上	3,430人以上4,900人未満	3,430人未満	実績4,688人／目標4,900人（達成度95.7%）	B	
・演劇	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			(1) シリーズ笑い②　－現代劇作家たちによるコント集－「コミュニケーションズ」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：４月８日(金)～24日(日)　回数：15回　日数：15日　入場者数：4,038人(78.5%)　目標：3,400人(70.0%) ○会場　小劇場 ○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (2) 「その河をこえて、五月」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：５月13日(金)～29日(日)　回数：15回　日数：15日　入場者数：3,467人(72.1%)　目標：3,400人(70.0%) ○会場　小劇場 ○入場料　Ⓐ4,200円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (3) シリーズ笑い③　「箱根強羅ホテル」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：５月19日(木)～６月８日(水)　回数：20回　日数：18日　入場者数：14,612人(92.2%)　目標：11,000人(70.0%) ○会場　中劇場 ○入場料　Ⓢ7,350円、Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (4) 「アルトゥロ・ウイの興隆」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：６月22日(水)～30日(木)　回数：７回　日数：７日　入場者数：4,172人(61.5%)　目標：4,400人(70.0%) ○会場　中劇場 ○入場料　Ⓢ7,350円、Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (5) シリーズ笑い④「うら騒ぎ／ノイゼズ・オフ」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：６月27日(月)～７月14日(木)　回数：19回　日数：16日　入場者数：5,203人(83.7%)　目標：4,300人(70.0%) ○会場　小劇場 ○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、Ⓩ1,500円 (6) 「黒いチューリップ／盲導犬」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：９月27日(火)～10月９日(日)　回数：13回　日数：12日　入場者数：2,064人(78.1%)　目標：1,400人(70.0%) ○会場　小劇場 ○入場料　3,150円、Ⓩ1,500円	A	新国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿って制作・実施され、入場者数も一部の公演を除き目標値を超えており、制作の効果が上がったと認められる。シリーズ《笑い》に始まり、現代演劇の再演、近代戯曲の見直し、新作上演、外国劇団の公演と多彩な活動を見せたが、舞台成果という観点では昨年の方が優れていたと思われる。入場者数が目標に達しなかったものの「アルトゥロ・ウイの興隆」は主演者の達者な演技が見ものとなった。 【より良い事業とするための意見等】 作品の選択はもとより演出家、俳優の起用にさらに慎重であってほしい。小劇場出身者の演出、演技は我流がままあり、舞台成果を損なうことがある。

(7) 「屋上庭園／動員挿話」
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
10月31日(月)～11月16日(木)	18回	16日	2,073人(76.2%)	2,100人(70.0%)

○会場　　小劇場
○入場料　4,200円、ⓩ1,500円

(8) 「母・肝っ玉とその子供たち－三十年戦争年代記」
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
11月28日(月)～12月11日(日)	14回	13日	8,614人(67.9%)	8,900人(70.0%)

○会場　　中劇場
○入場料　Ⓢ7,350円、Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、ⓩ1,500円

(9) 「ガラスの動物園」
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
２月９日(木)～26日(日)	18回	16日	4,413人(75.2%)	4,000人(70.0%)

○会場　　小劇場
○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、ⓩ1,500円

(10) 「十二夜」
○期間、回数、日数及び入場者数

期　　間	回数	日数	入場者数	目　標
３月７日(火)～19日(日)	15回	12日	3,720人(72.1%)	3,400人(70.0%)

○会場　　小劇場
○入場料　Ⓐ5,250円、Ⓑ3,150円、ⓩ1,500円

入場者数の達成状況	46,300人以上	32,410人以上46,300人未満	32,410人未満	実績52,376人／目標46,300人（達成度113.1%）	A

(3) 青少年等を対象とした伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する		A
・伝統芸能の公開	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	(1) ６月歌舞伎鑑賞教室公演「解説 歌舞伎のみかた」、「歌舞伎十八番の内 毛抜」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ６月１日(水)～24日(金) / 46回 / 23日 / 51,753人(74.0%) / 54,600人(78.1%) 社会人のための歌舞伎鑑賞教室　※回数、日数、入場者数は上記に含まれる。 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 21日(火) / １回 / １日 / 1,435人(94.4%) ○会場　　本館大劇場 ○入場料　学生1,300円、一般：１等3,800円、２等1,500円、障害者２割引 (2) ７月歌舞伎鑑賞教室公演「解説 歌舞伎のみかた」、「義経千本桜」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ７月３日(日)～24日(日) / 44回 / 22日 / 61,785人(99.6%) / 49,900人(80.4%) 社会人のための歌舞伎鑑賞教室　※回数、日数、入場者数は上記に含まれる。 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 20日(水)・22日(金) / ２回 / ２日 / 2,790人(98.9%) ○会場　　本館大劇場 ○入場料　学生1,300円、一般：１等3,800円、２等1,500円、障害者２割引 (3) ６月文楽鑑賞教室「団子売」、「解説 文楽をたのしむために」、「傾城恋飛脚」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ６月７日(火)～22日(水) / 32回 / 16日 / 17,278人(73.9%) / 21,100人(90.2%) ○会場　　文楽劇場 ○入場料　学生1,300円、一般3,600円、障害者２割引 (4) 12月文楽鑑賞教室「鬼一法眼三略巻」、「解説 文楽のたのしみ」、「新版歌祭文」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 12月６日(火)～18日(日) / 24回 / 13日 / 11,848人(89.3%) / 11,300人(85.1%) ○会場　　本館小劇場 ○入場料　学生1,300円、一般3,600円、障害者２割引 (5) ６月伝統音楽鑑賞教室「太鼓－音の響き－」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ６月15日(水)～17日(金) / ３回 / ３日 / 676人(38.2%) / 1,000人(56.5%) ○会場　　本館小劇場 ○入場料　高校生以下500円、一般1,500円、障害者２割引 (6) ６月能楽鑑賞教室　解説「能楽のたのしみ」、狂言「蟹山伏」、能「殺生石」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期　間 / 回数 / 日数 / 入場者数 / 目　標 ６月20日(月)～24(金) / 10回 / ５日 / 6,349人(107.4%) / 5,600人(94.8%)	A	各公演とも、企画意図に沿って制作・実施されている。観客参加型の解説が効果を上げていた。 【より良い事業とするための意見等】 「太鼓」の公演は入場者数が目標をかなり下回っており、その原因を検討するとともに、今後は広報宣伝も含め、目標値の達成に努めることが望まれる。文楽の技芸員の解説がよくなっている。さらに検討を加え、洗練させるとよい。

○会場　　能楽堂本舞台
○入場料　学生1,300円(全席)、一般：正面3,000円、脇正面2,500円、中正面2,000円、障害者２割引

入場者数の達成状況	143,500人以上	100,450人以上143,500人未満	100,450人未満	実績149,689人／目標143,500人（達成度104.3%）	A

・現代舞台芸術の公演	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	(1) 高校生のためのオペラ鑑賞教室「蝶々夫人」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：７月11日(月)～16日(土)　回数：６回　日数：６日　入場者数：10,519人(97.6%)　目標：8,100人(75.0%) ○会場　　オペラ劇場 ○入場料　2,100円、一般4,200円（当日券のみ） (2) こどものためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険～指環をとりもどせ！」 ○期間、回数、日数及び入場者数 期間：７月30日(土)～８月１日(月)　回数：６回　日数：３日　入場者数：4,109人(74.2%)　目標：4,100人(75.0%) ○会場　　中劇場 ○入場料　2,100円	A	各公演とも企画意図に沿って制作・実施され、一定の効果が上がっている。「ジークフリートの冒険」は構成に工夫があった。新世代の観客を育てるためにも、こうした公演は重要である。今後の発展的継続が望まれる。 【より良い事業とするための意見等】 高校生のためのオペラ鑑賞教室は入場率も高く、今後さらに拡充することを期待するとともに、他のジャンルにも鑑賞教室を拡大していくことが望まれる。

入場者数の達成状況	12,200人以上	8,540人以上12,200人未満	8,540人未満	実績14,628人／目標12,200人（達成度119.9%）	A

(4) 伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公開の実施に際しての連携協力・地方における上演等	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する		A
・伝統芸能の公開	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する。	1．平成17年度第60回文化庁芸術祭 主催公演 （本館）　11月歌舞伎公演「通し狂言　絵本太功記」 11月雅楽公演「国風歌舞」 （演芸場）　10月特別企画公演「芸術祭寄席」 （能楽堂）　11月特別企画公演「能と神楽」 （文楽劇場）10月舞踊公演「日韓琉の名流舞踊鑑賞会」 11月文楽公演「通し狂言　本朝廿四孝」 （おきなわ）11月研究公演（新作組踊）「道ぎれ、結婚」 協賛公演 （本館）　９月文楽公演「芦屋道満大内鑑」「女殺油地獄」ほか ９月民俗芸能公演「日本の太鼓－歓喜乱舞－」 10月歌舞伎公演「通し狂言　貞操花鳥羽恋塚」 11月舞踊公演「舞の会－京阪の座敷舞」 10月邦楽公演「文楽素浄瑠璃の会」 12月歌舞伎公演「通し狂言　天衣紛上野初花」 12月文楽公演「一谷嫩軍記」 （演芸場）　９月・10月・11月・12月公演（17公演） （能楽堂）　９月・10月・11月・12月定例公演（８公演） ９月・10月・11月・12月普及公演（４公演） ９月・10月・11月・12月企画公演（５公演） （文楽劇場）９月声明公演「比叡山延暦寺の声明」 ９月大衆芸能公演「第19回上方演芸特選会」 11月大衆芸能公演「第20回上方演芸特選会」 12月大衆芸能公演「師走浪曲名人会」 （おきなわ）10月定期公演（組踊）「真孝婦人」 12月定期公演（組踊）「微行の巻」 2．国・地方自治体等との後援・協力 【鑑賞教室における後援・協力】 後援＝文化庁、東京都、千葉県、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、全国都道府県教育委員会連合会、財団法人日本修学旅行協会、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、滋賀県教育委員会、和歌山県教育委員会、NHK大阪放送局 協力＝社団法人東京都専修学校各種学校協会、社団法人神奈川県専修学校各種学校協会、関東高等学校演劇協議会、東京都高等学校演劇研究会、株式会社ジェイティービー、近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社日本旅行、財団法人文楽協会 【地方公演における共催・協力】 ・　山梨公演（山梨県県民文化ホール） 共催＝財団法人やまなし文化学習協会、山梨県 後援＝文化庁、山梨県教育委員会、山梨県公立小中学校校長会、山梨県高等学校校長協会、山梨県高等学校文化連盟、NHK甲府放送局、山梨日日新聞社、山梨放送、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム甲府 ・　神奈川公演（神奈川県立青少年センター） 共催＝神奈川県立青少年センター 後援＝文化庁、神奈川県教育委員会、神奈川県PTA連絡協議会、神奈川県立高等学校PTA連合会 【社会人のための入門・教室における後援・協賛】 （歌舞伎）後援＝社団法人日本経済団体連合会、社団法人経済同友会、東京商工会議所、東京青年会議所 協賛＝三井不動産株式会社（12月） （文楽）　後援＝日本経済団体連合会、経済同友会、東京商工会議所 協賛＝シチズン時計株式会社、伊勢半本店紅資料館 【その他自主公演における共催・後援・協力】 ・　12月歌舞伎公演 後援＝日本テレビ	A	国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿った成果が上がっている。 【より良い事業とするための意見等】 国立劇場ならではの国、地方または企業との連携の展開が望まれる。特に地方自治体とのパイプを確保するための細やかな広報が期待される。

・　５月舞踊公演
　協力＝社団法人日本舞踊協会、早稲田大学演劇博物館
・　３月民俗芸能公演
　協力＝中津川市・中津川市教育委員会
・　国立劇場おきなわ９月企画公演における共催
　共催＝文化庁舞台芸術国際フェスティバル実行委員会
【外部フェスティバル等への参加等】
・　関西元気文化圏共催事業
　文楽劇場全公演
・　平成17年度大阪文化祭参加（文楽劇場公演）
　10月舞踊公演「日韓琉の名流舞踊鑑賞会」
　11月文楽公演「通し狂言　本朝廿四孝」
・　大阪国際人形劇フェスティバル2005（文楽劇場公演）
　11月文楽公演「通し狂言　本朝廿四孝」
・　日韓友情年2005
　10月舞踊公演「日韓琉の名流舞踊鑑賞会」
　※日韓民俗芸能交流公演「沖縄と済州島との出会い」
　　主催＝文化庁・財団法人国立劇場おきなわ運営財団／駐日韓国大使館韓国文化院、済州道
　　制作＝財団法人国立劇場おきなわ運営財団／済州道立芸術団　　協力＝沖縄県教育委員会／済州道文化振興院
・　チバリヨーキッズちゃんぷる子ども演劇祭
　共催＝チバリヨーキッズちゃんぷる子ども演劇祭上演実行委員会

３．外部団体主催公演への協力
・　伝統音楽研修会（制作協力）
　本館大劇場、８月24日、１回

４．受託による伝統芸能の公開
・「変貌する神々　―アジアの仮面劇―」本館大劇場、９月15日、１回
・　能楽鑑賞移動教室公演「蟹山伏」「殺生石」聖徳学園講堂（松戸市）、６月30日、２回

５．地方における公演
・　山梨歌舞伎鑑賞教室「解説　歌舞伎のみかた」「毛抜」
　山梨県立県民文化ホール（山梨県甲府市）６月26日～27日、３回
・　神奈川歌舞伎鑑賞教室「解説　歌舞伎のみかた」「義経千本桜」
　神奈川県立青少年センター（神奈川県横浜市）７月26日(火)～27日(水)、４回
・　能楽鑑賞移動教室公演「蟹山伏」「殺生石」
　聖徳学園講堂（松戸市）、６月30日、２回

・現代舞台芸術の公演

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

１．平成17年度（第60回記念）文化庁芸術祭

主催公演	（オープニング）「ジゼル」～能とバレエによる～ （オペラ）「アンドレア・シェニエ」 （バレエ）「カルミナ・ブラーナ」/ 「ライモンダ」第１幕より夢の場 （演劇）「母・肝っ玉とその子供たち―三十年戦争年代記」
協賛公演	（オペラ）「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、 「セビリアの理髪師」、「ホフマン物語」、「沈黙」 （バレエ）「くるみ割り人形」 （現代舞踊）ダンスプラネットNo.19「コラボレートする身体」 （演劇）「黒いチューリップ / 盲導犬」 「屋上庭園 / 動員挿話」

２．平成17年度文化庁舞台芸術国際フェスティバル
・　主催公演（現代舞踊）ダンスプラネットNo.18「舞姫と牧神達の午後」
　９月16日～９月19日・小劇場、９月24日～９月25日・韓国ソウル市貞洞劇場
・　受託制作（シンポジウム）特別企画シンポジウム「越境するダンス」（９月19日、中劇場）

３．外部団体との連携協力
（オペラ）「沈黙」（９月16日～９月18日、中劇場）共催：ザ・カレッジ・オペラハウス
（演劇）　「母・肝っ玉とその子供たち―三十年戦争年代記」
　（11月15日～11月20日・兵庫県芸術文化センター、11月28日～12月11日・中劇場）
　共催：財団法人兵庫県芸術文化協会

４．地方における上演
（バレエ）「パキータ」抜粋版（７月９日・愛知万博長久手会場内EXPOドーム）
（演劇）　「その河をこえて、五月」
　（６月４日～６月５日・びわ湖ホール（大津市））
　（６月７日～６月８日・オーバード・ホール（富山市））
　（６月11日～６月12日・北九州芸術劇場（北九州市））
　（６月15日・神戸文化ホール（神戸市））
　（６月19日・富士見市文化会館キラリ☆ふじみ（埼玉県・富士見市））
「母・肝っ玉とその子供たち―三十年戦争年代記」
　（11月15日～11月20日・兵庫県芸術文化センター）

５．海外における上演
（現代舞踊）ダンスプラネットNo.18「舞姫と牧神達の午後」韓国公演（ソウル市）
　（９月24日～９月25日・貞洞劇場）
（演劇）「その河をこえて、五月」韓国公演（ソウル市）
　（７月１日～７月３日・芸術の殿堂土月劇場）

A

昨年に比し、ジャンル、回数とともに一定の進展が見られ、全体的に所期の目的を達していた。地方におけるオペラ上演の機会が年間を通じてゼロであったことは残念であるが、関西の邦人オペラ制作の新国立劇場上演は快挙であり、この路線の開拓を望みたい。「その河をこえて、五月」が5つの市で上演されたことを評価する。

【より良い事業とするための意見等】

外部団体や地方における要望が強いことに鑑み、全国の施設との連携などのネットワークをはじめ、いい舞台を巡演するシステムづくりが期待される。

３．伝統芸能の伝承者芸術の実演家その他の関係者の研修

(1) 伝統芸能の伝承者の養成

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

１．養成研修の実施
(1) 養成研修の実施状況

区　分		年度計画	実　績	うち修了生	修了生累計	中期計画
歌 舞 伎	俳優18期	６名	６名	－	６名	18名
	鳴物12期	３名	３名	３名	３名	
	長唄３期	１名	１名	－	１名	

A　A

国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっている。伝統芸能の人材の養成には時間がかかり、組踊研修については端緒についたところなので、成果を注視したい。現在の歌舞伎、文楽における研修修了者の数と役割の大きさを思うとき、この事業の重要性が理解されよ

大衆芸能	寄席囃子12期	－	－	－	４名	８名
	太神楽４期	３名	３名	－	２名	
能　　楽	７期	３名	３名	－	３名	８名
文　　楽	21期	２名	２名	２名	４名	６名
組　　踊	１期	６名程度	10名	－	－	－

（2）研修発表会等の実施
歌舞伎俳優・歌舞伎音楽(鳴物・長唄)・大衆芸能(太神楽)を合同で１回、
能楽５回（うち１回は京都・大阪の養成会と合同）、文楽１回、組踊２回
（3）募集
歌舞伎音楽鳴物第13期生（笛専科、４名仮合格）、文楽三業第22期生（２名仮合格）の募集を行った。

２．既成者研修の実施
（1）既成者研修発表会の実施
① 歌舞伎俳優、歌舞伎音楽の既成者に対し、技芸向上のための研修を実施した。
・ 歌舞伎俳優既成者研修発表会２回（目標２回）
・ 歌舞伎音楽既成者研修発表会１回（目標１回）
② 能楽の研修修了生等による能楽若手研究会を、大阪、京都、東京において実施した。
・ 能楽若手研究会３回（目標３回）
③ 文楽の既成者に対し、技芸向上のための研修を実施した。
・ 文楽既成者研修発表会１回(目標１回)
（2）能楽研究課程の開講
能楽の既成者研修として、17年度より研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を設置した。(受講者44名)

３．外部評価、委員会における検討等の実施
（1）養成事業委員会の開催（１回開催）　３月９日（木）
（検討内容）17年度の養成実施状況、18年度の養成計画、募集等
（反映状況）18年度の既成者研修発表会については、演目・会場の規模等を検討。新人研修の講師については、関係団体と協議の上、充実化を図る。
（2）関係団体との協議
伝統歌舞伎保存会、歌舞伎囃子協会、歌舞伎長唄協議会、松竹株式会社、日本演芸家連合、落語協会、落語芸術協会、太神楽曲芸協会、日本能楽会、能楽協会、文楽協会、伝統組踊保存会等関係団体と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。
（3）能楽及び寄席囃子の次期募集について
寄席囃子第13期及び能楽第８期の募集については、関係団体との協議の結果、今年度の実施を見送ることとした。募集時期については、引き続き協議・検討を進める。

①歌舞伎（俳優、音楽）	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．研修の実施 歌舞伎俳優：第18期生（６名）の２年目の研修を実施。 歌舞伎音楽（鳴物）：第12期生（３名）の３年目の研修を実施し、研修を修了。 歌舞伎音楽（長唄）：第３期生（１名）の２年目の研修を実施。 ２．主な講師 中村又五郎、澤村田之助、尾上松助、坂東竹三郎、中村吉之丞、松本錦吾、尾上松太郎、花柳壽楽、藤間勘祖、竹本朝重、竹本清太夫、今藤長十郎、米川文子、田中佐太郎、田中傳兵衛、望月太左衛門、望月太左之助、鳥羽屋里長、杵屋巳太郎、近藤瑞男ほか（総勢74名） ３．養成状況（主な授業及び回数） (1) 主な授業　歌舞伎実技、立廻り、とんぼ、化粧、着付け、日本舞踊、義太夫、箏曲、鳴物、長唄、講義、楽屋・舞台実習等 (2) 授業回数　実技(歌舞伎俳優609回、鳴物343回、長唄347回)、その他(歌舞伎俳優54回、鳴物199回、長唄71回) 計1,623回 ４．発表会（１回実施） 研修修了発表会（鳴物第12期生）・合同研修発表会　３月８日(水)、本館小劇場 鳴物第12期生の修了発表会とともに、歌舞伎俳優第18期生、長唄第３期生、太神楽第４期生の研修発表会を合同で実施した。 ５．募集・選考の状況 歌舞伎音楽鳴物(笛)第13期生研修の募集を行い、見学会・説明会を実施した。選考試験を３月に行い（従来は４月）、４名が仮合格した（10名中）。 ６．メニュー、研修実施方法等の検討 引き続き養成研修を実施する。歌舞伎俳優第18期生の３年次の研修について、講師・関係団体等と協議し、楽屋・舞台実習の充実等実践的なカリキュラムの検討を行った。 （関係団体等との協議） 伝統歌舞伎保存会、歌舞伎囃子協会、歌舞伎長唄協議会、松竹株式会社と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。	A
②大衆芸能（寄席囃子、太神楽）	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．研修の実施 太神楽：第４期生（３名）の２年目の研修を実施。 ２．主な講師 翁家和楽、鏡味仙三郎、翁家小楽、鏡味勇二郎、鏡味繁二郎、叶家勝二、望月鏡子、望月太左衛、藤間理衣、杵屋喜三郎、杵屋寒玉、倉田喜弘ほか（総勢20名） ３．養成状況（主な授業及び回数） (1) 主な授業　立てもの、投げもの、囃子、日本舞踊、長唄、講義等 (2) 授業回数　実技573回、その他45回　計618回 ４．発表会（１回実施） 研修修了発表会（鳴物第12期生）・合同研修発表会　３月８日(水)、本館小劇場 鳴物第12期生の修了発表会とともに、歌舞伎俳優第18期生、長唄第３期生、太神楽第４期生の研修発表会を合同で実施した。	A

う。

【より良い事業とするための意見等】

講師の陣容が適材適所か、マンネリ化するおそれはないか等慎重かつ細心の検討が望まれる。また研修生に技術を修得させる重要性と同時に、早い時期に適性を判断して、別の進路を考えさせることも重要である。修了者の動向分析もさらに望むとともに、既修者研修という優れた方式を継続してほしい。組踊研修については、他の分野とは異なる形態をとっているが、その成果と問題点を随時精査する必要がある。結果によっては、2期生から全日制にすることも視野に入れることになろう。

				５．募集・選考の状況 寄席囃子第13期の募集については、関係団体との協議の結果、寄席囃子演奏者が充足しているため今年度の実施を見送ることとした。募集時期については、引き続き協議・検討を進める。 ６．メニュー、研修実施方法等の検討 引き続き養成研修を実施する。関係団体等と協議した結果、獅子舞・祭囃子等実践的な研修を取り入れる。 （関係団体等との協議） 日本演芸家連合、落語協会、落語芸術協会、太神楽曲芸協会と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。				
		③能楽（ワキ方、狂言方、囃子方）	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．研修の実施 第７期生（専門研修課程、３名）の４年目（専門研修課程初年次計画）の研修を実施 内訳：ワキ方１名及び囃子方２名（小鼓方１名、大鼓方１名） ２．主な講師 観世清和、福王茂十郎、大倉源次郎、亀井忠雄、松本雍ほか（総勢25名） ３．養成状況（主な授業及び回数） (1) 主な授業　ワキ方：ワキ謡・型、装束付け・扱い、四拍子の副科実技、技法論の講義 囃子方：小鼓、大鼓の各専攻科目、シテ謡、四拍子の副科実技、技法論の講義 (2) 授業回数　ワキ方454回、小鼓方427回、大鼓方325回　　計1,206回 ４．発表会等（５回実施） 第７期生が研修修了生及び能楽師子弟等の既成者を助演者に迎え、より実践的な技芸の練磨を行う場として「能楽研鑽会」(公開制)を四半期ごとに行った。(6/8・9/13・12/12・3/14、能楽堂本舞台) また、第７期生が京都、大阪の各養成会研修生等と合同で「東西合同研究発表会」に参加し、相互交流を深めながら、日頃の技芸研鑽の成果を公表した。(主催：大阪能楽養成会／共催：京都能楽養成会・国立能楽堂／８月30日、大阪能楽会館) ５．募集・選考の状況 能楽第８期生の募集に関し、現状把握のためのデータ整備及び関係団体との協議を行った。 ６．メニュー、研修実施方法等の検討 引き続き養成研修を実施する。18年度からは新たに、第７期生が研修修了生及び能楽師子弟等の既成者と合同で稽古を行うため、日程・曲目の年間計画を定めた。 （関係団体等との協議） 日本能楽会、能楽協会と、研修修了生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について協議を行った。	A			
		④文楽（大夫、三味線、人形）	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．研修の実施 第21期（２名）の２年目の研修を実施し、研修を修了。 内訳：三味線１名及び人形１名 ２．主な講師 竹本住大夫、鶴澤寛治、吉田玉男、吉田簑助、吉田文雀ほか（総勢36名） ３．養成状況(主な授業及び回数) (1) 主な授業　義太夫、三味線、義太夫・三味線、人形実技、日本舞踊、作法、講義、公演・稽古見学、楽屋・舞台実習、部外研修、発表会等 (2) 授業回数　実技285回、その他674回　　計959回 ４．発表会等（１回実施） 第21期研修修了発表会　１月27日(金)、文楽劇場 ５．募集・選考の状況 17年度中に第22期生として若干名の募集を行った。３月末に選考試験を行い、２名が仮合格した（２名中)。 ６．メニュー、研修実施方法等の検討 引き続き養成研修を実施する。第22期生の研修に先立ち、２年次における舞台実習を中心とした実践的な研修を取り入れることを前提として１年次は基礎的なカリキュラムを中心として設定するなど、２年の研修期間でメリハリをつけることを検討し、確認した。 （関係団体等との協議） 文楽協会と、研修生の受入れ、新規の募集、講師の依頼等について検討を行った。	A			
		⑤組踊（立方・地方）	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．研修の実施 第１期（10名）の１年目の研修を実施。 内訳：立方３名及び地方７名（三線４名、箏２名、笛１名） ２．主な講師　島袋光史、宮城能鳳、島袋正雄、照喜名朝一、宮城文ほか（総勢18名） ３．養成状況 (1) 主な授業　組踊実技（立方、三線、箏、笛)、副実技（琉球舞踊、胡弓、笛、太鼓)、発唱訓練、発声訓練、身体訓練、舞台扮装、作法、詞章研究、琉球方言基礎、公演稽古見学、発表会等 (2) 授業回数　実技302回、その他60回 ４．発表会等（２回実施） 第１回組踊研修生発表会（10月13日、国立劇場おきなわ小劇場） 第２回組踊研修生発表会（３月９日、国立劇場おきなわ小劇場） ５．メニュー、研修実施方法等の検討 組踊研修講師会議を実施（年間７回）し、研修発表会の実施等について協議し研修実施方法等の充実を図った。 （関係団体等との協議） 伝統組踊保存会等関係団体と、講師の依頼等について協議を行った。 【特記事項】 伝統芸能伝承奨励費の設置及び貸与を実施した（全研修生10名に貸与)。	A			

⑥既成者研修

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1．歌舞伎俳優既成者研修発表会（実施２回・目標２回）
(1) 第11回稚魚の会・歌舞伎会合同公演
８月20日(土)～21日(日)、２日４回、本館大劇場、有料(4,000円・3,200円)、入場者数5,246人(86.3%)
内容：「寿曽我対面」工藤祐経館の場(中村又五郎／監修、松本錦吾・中村吉之丞／指導)、「連獅子」(藤間勘祖／振付)、「本朝廿四孝」長尾謙信館十種香の場・同奥庭狐火の場(中村梅玉・中村魁春／監修・指導、中村歌江／指導)、「お祭り」(藤間勘祖／振付)
(2) 第15回上方歌舞伎会（国立文楽劇場青年歌舞伎公演）
８月20日(土)～21日(日)、２日４回、文楽劇場、有料(3,500円)、入場者数2,515人(92.9%)
内容：「菅原伝授手習鑑」車引きの場(片岡我當／監修)、「芦屋道満大内鑑」阿倍野機屋の場・阿倍野奥座敷の場(中村鴈治郎／監修)、「伊勢音頭恋寝刃」油屋の場・奥庭の場(片岡秀太郎／監修)、「春霞歌舞伎草紙」(藤間勘祖／振付)

2．歌舞伎音楽既成者研修発表会「第７回音の会公演」（実施１回・目標１回）
８月６日(土)～７日(日)、２日２回、本館小劇場、有料(2,000円)、入場者数508人(48.7%)
内容：「寿式三番叟」、「俄獅子」(田中佐太郎・田中傳左衛門・田中傳次郎／鳴物指導、望月長次郎／笛指導)、「靭猿」(望月長左久／鳴物指導、望月太喜二郎／笛指導)、「団子売」(藤間勘祖／振付、藤間勘十郎・藤間弘／指導、竹本綾太夫・鶴澤正一郎／竹本指導)

3．能楽研修発表会「第15回能楽若手研究会（若手能）」（実施３回・目標３回）
京都公演：９月３日(土)、１日１回、京都観世会館、有料(3,000円)、入場者数555人(117.1%)
内容：能「田村」、狂言「二千石」、能「自然居士」ほか
大阪公演：１月21日(土)～22日(日)、２日２回、大槻能楽堂、有料(3,000円)、入場者数974人(97.0%)
内容：能「高砂」、舞囃子「項羽」、狂言「鏡男」、能「清経」ほか
東京公演：２月４日(土)、１日１回、国立能楽堂、有料(3,000円)、入場者数625人(入場率105.7%)
内容：能「花月」、狂言「悪坊」、能「野守」

4．文楽既成者研修発表会「第５回文楽若手会」（実施１回・目標１回）
６月24日(金)～25日(土)、２日２回、文楽劇場、有料(2,000円)、入場者数711人(48.6%)
内容：「伽羅先代萩」竹の間の段・御殿の段、「傾城恋飛脚」新口村の段、「団子売」

5．能楽研究課程
能楽の既成者研修として、17年度より研修修了生と能楽師子弟を対象に研究課程を設置した。本課程では、シテ方が副科（笛・小鼓・大鼓・太鼓）を受講するほか、三役は異流との新たな共演形態を経験し、シテ方及び三役ともレパートリーを拡げながら、より難易度の高い曲目を習得している。44名が研究生として受講（実施回数：423回）

【特記事項】
歌舞伎俳優既成者研修発表会（稚魚の会・歌舞伎会合同公演）については、17年度は大劇場で開催した。

A

(2) 現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1．研修の実施
(1) 研修の実施状況

区　分		年度計画	実　績	うち修了生	修了生累計	中期計画
オペラ	６期	５名	５名	５名（６期）	15名	25名
	７期	５名	５名			
	８期	５名	５名			
バレエ	３期	８名	８名	－	８名	16名
演　劇	１期	15名	15名	－	－	－

(2) 研修発表会等
オペラ：３回（３月研修所公演、７月・12月試演会）
バレエ：３回（10月公開レッスン、２月１年次発表会、３月演劇基礎研修稽古場発表会）
(3) 募集
オペラ研修第９期生（５名）、演劇研修第２期生（15名）の募集を行った。

2．外部評価、委員会における検討等の実施
(1) 委員会の開催
（開催状況）評価委員会１回、オペラ・舞踊・演劇専門委員会各２回、演劇研修所サポート委員会４回
（検討内容）研修事業について専門的観点から意見を聴取。研修発表会の視察。
（主な意見）研修内容については評価する。また、修了後のフォローの必要性が認められる。（オペラ）
研修内容の素晴らしさは言うまでもなく評価できる。隔年募集を毎年募集にし、多くの希望者が挑戦できる体制にすべきではないか。入所年齢の低年齢化、定員枠の拡大、３年制の研修への変更、将来の指導者養成について検討して欲しい。（バレエ）
競争原理を取り入れ、実技を中心としながら、芯をどこに置き、研修生にどのレベルまでを求めるかを、教える側で更に検討をして欲しい。また、２期生を募集したことは、研修所として、良い雰囲気を生むことが期待される。（演劇）
(2) 研修所長及び講師ほか専門家と協議し、研修方法の改善を図った。

A

新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って着実な成果が上がっている。オペラ及びバレエの研修はすでに高い成果を上げている。多くの応募者があった演劇の研修についても、今後の成果を注視したい。

【より良い事業とするための意見等】

講師の配置が適材適所か、マンネリ化するおそれはないか等の慎重かつ不断の検討が望まれる。当研修所が特定の講師に師事するための予備校化することのないよう配慮すべきであろう。

①オペラ

振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する

1．研修の実施
第６期生（５名、３年目）、第７期生（５名、２年目）及び第８期生（５名、１年目）の研修を行い、第６期生が修了した。

2．主な講師
マルチェッラ・レアーレ、中田昌樹、ブライアン・マスダ、セルジョ・ベルトッキほか（26名）

3．研修状況（主な授業及び回数）
(1) 主な授業　音楽指導、声楽指導、演技指導、ディクション、語学、講義、日本舞踊等
(2) 授業回数　第６期生　座学167回、実技741回、その他（舞台実習等）26回
第７期生　座学175回、実技840回、その他（舞台実習等）21回
第８期生　座学176回、実技838回、その他（舞台実習等）22回
第６期生については、イタリア・ボローニャにおいて、海外研修を行った。（４月～６月）

4．発表会等（研修公演１回、公開レッスン２回）
(1) 研修公演・公開レッスン
７月リサイタル（試演会）（７月23日、24日、２回、小劇場）
12月リサイタル（試演会）（12月３、４日、２回、小劇場）
研修公演「プッチーニのパリ」（３月９日～３月12日、２回、中劇場）
(2) その他出演等

A

			「オペラ・セミナー2005」（７月25日～26日、長岡リリックホール）講師及び研修生を派遣 「クリスマス・コンサート」（12月17日～18日、新国立劇場ロビー）研修生有志出演 「クリスマス・オペラコンサート」（12月22日～23日、京都国立博物館）研修生有志出演 ５．募集・選考の状況 大学院声楽専攻修了程度の実力を有する者で、入所時年齢が女性32歳以下、男性35歳以下の者を対象に、第９期生の募集を行った。応募総数100名、２月６日から10日まで、３次にわたる選考を経て、５名（ソプラノ１名、メゾ･ソプラノ２名、バス・バリトン２名）が合格した。 ６．メニューや研修実施方法等の検討 第４期研修より、海老澤敏オペラ研修所長のもと、以下のような大幅な研修方法の改善を図り、継続中である。 ・　研修生一人一人の声種の重視：声楽講師陣による十分な検討を経て、一人一人が修得すべきレパートリーを選定する。 ・　学年枠を取り払ったアンサンブル・レッスン：個人指導への偏向を避け、集団での創作活動にも十分に配慮したプログラムを組む。 ・　語学、演技基礎の充実を図る。 ・　海外から経験豊富な講師陣を招聘し、来日中、集中的に研修に当たらせる。 ・　特任・准特任講師、ヘッドコーチ等を設置し、随時講師陣によるミーティングを行い、個々のレッスンのつながりを作るとともに、日常的・恒常的に研修状況をチェックし研修内容に反映させる。同時に、研修生の身体的チェックや、精神面も含めた相談に当たる。		
	②バレエ	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．研修の実施 第３期生８名の１年目の研修を行う。 ２．主な講師 豊川美恵子、新井咲子、岸辺光代、佐藤勇次、鈴木和子、ゲンナーディ・イリイン他（23名） ３．研修状況（主な授業及び回数） (1) 主な授業　クラシカル・バレエ、キャラクテル・ダンス、ボディ・コンディショニング、演劇基礎研修、コンテンポラリー・ダンス、バレエと音楽、バレエ史、身体解剖学等 (2) 授業回数　座学223回、実技433回、その他（舞台実習等）45回 ４．発表会等（研修発表会１回、公開レッスン２回） (1) 研修発表会・公開レッスン ・　第３期１年次公開レッスン(10月15日、中劇場、１回) ・　第３期１年次発表会(２月12日、中劇場、１回) ・　演劇基礎研修稽古場発表会　「ヘッダ・ガーブレル」(イプセン作)ほか、３月23日、オーケストラリハーサル室 (2) その他の出演等 ・　新国立劇場主催公演「ドン・キホーテ」への参加　６月25日～７月２日、オペラ劇場、５回 ・　国際バレエ学校フェスティバル(ワシントン、ケネディ・センター主催、)への参加 １月26日～29日(４回) パリ･オペラ座バレエ学校、ロイヤルバレエ学校、デンマーク王立バレエ学校、ダンスシアター･オブ･ハーレム・スクール、ワガノワ･アカデミー（卒業生）、新国立劇場バレエ研修所の６校が参加 ５．メニューや研修実施方法等の検討 ・　13年４月にバレエ研修所が開設されるにあたり、「民間の養成所等では十分かつ継続的にできないが、バレエダンサーにとって必要不可欠なことをすべき」として、牧阿佐美バレエ研修所長のもと、以下の事項を重視し実施している。 ・　様々な指導者からの指導を受けることで、将来的に多様な振付家の要請に応えられるダンサーの育成を目指す。 ・　コンテンポラリー・ダンス、キャラクター・ダンスなどのクラシック以外のダンスについての研鑽も同様に深める。 ・　バレエと音楽、バレエ史、身体解剖学等、バレエダンサーとして必要な知識の習得を図る。 ・　作品解釈力や演劇的表現力を高めるための演劇基礎研修を行う。 ・　様々な舞台関係者の話を聞き交流を図る「サロン」形式の講義を行い、教養を深め表現力向上につなげる。 ・　語学研修を行い、外国人指導者とのコミュニケーション能力の向上を図る。 ・　講師連絡帳による申し送り、講師会議の開催等により、個々の講師との連携を密にし、研修内容に反映させると同時に、主要講師陣全体で研修生の身体的・精神的なケアを行う体制を取っている。	A	
	③演劇及びその他の関係者の研修	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．研修の実施 第１期生15名の１年目の研修を行う。 ２．主な講師 井上ひさし、西川信廣、宮田慶子、大笹吉雄、河合祥一郎、村井健ほか（57名） ３．研修状況（主な授業及び回数） (1) 主な授業　身体と演技、声と演技、即興、シーンスタディー、日本舞踊、ダンス、朗読等 (2) 授業回数　座学93回、実技955回、その他（舞台実習等）134回 ４．発表会等 ・　授業内発表会「日本舞踊」　３月４日、演劇研修所実習室、１回 ・　授業内発表会「シーン・スタディ」（講師：栗山民也）　３月８日、演劇研修所実習室、１回 ・　授業内発表会「声と演技」（講師：池内美奈子）　３月10日、演劇研修所実習室、１回 ５．募集・選考の状況 プロフェッショナルな俳優としての舞台活動を目指している者で、入所時年齢が18歳以上30歳以下の者を対象に、第２期生の募集を行った。応募総数411名、２月11日から16日まで、３次にわたる選考を経て、15名（男性７名、女性８名）が合格した。なお、今回の募集から受験料を徴収することとした。 ６．メニューや研修実施方法等の検討 ・　準備期間　2004年末に決定してすぐに、研修課の中に担当者を置き、選考試験・研修所の整備・カリキュラムの選定・講師選定など、2005年４月の開所に向けて作業を行った。 ・　選考試験　選考試験までは２ヶ月（実際の広報期間は３週間）という短期間であったが、多くの演劇関係機関、マスコミ各社の協力により、情報が広く伝えられた結果、問い合わせが800件を超え、実際の応募が592名、競争倍率が40倍弱という、演劇関係の育成機関としては、驚異的な倍率で選考を行うことができた。 ・　研修所開設　西新宿にある小学校の廃校を借り受ける形で、研修所の準備が進み、専用の校舎で、カリキュラムの実施が行える体制が４月までに整った。 ・　同時にカリキュラムの作成･講師の選定が進められたが、一学期に関しては講師のスケジュールを確保することが一番困難であった。しかし、マスコミ各位の好意的な報道などにより、２学期以降は時間が開いていれば多くの講師、演劇	A	

			関係者が参加希望を寄せてくださり、次第に時間割の作成もスムーズに行くようになった。様々なシミュレーションを準備期間に行っていたこともあって、時間割の作成、実施は初期の時期を除けば、概ね順調で、その中身・レベルとも他団体のカリキュラムに比して、非常に高いものと評価を受けている。 ・　国立ということもあって、外国のアーティストが日本を来訪する際の、公的な訪問先として指定していただくことも多く、その機会に研修生の講座を持っていただくこともでき、国際交流の場としても機能を持ち始めている。 ・　研修生は、俳優になろうとする意識が高いので、研修態度、授業の進捗状況とも、講師から高い評価を受けている。また、３年間という研修期間を想定した授業のため、研修生が納得するまで指導が可能であり、研修生のもつ特性をうまく引き出せる環境も整った。 ・　広く専門家の意見を傾聴するため、演劇研修所サポート委員会を組織し、委員会を４回開催して、研修所の運営や方向性について議論を重ねた。			
４．伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．調査研究 (1) 上演資料集：歌舞伎７冊（目標６冊）、文楽５冊（目標４冊）、組踊２冊（目標２冊）、その他２冊（舞踊・沖縄芝居） (2) 公演記録：163公演（映像･音声）、視聴室利用数：3,300件 (3) 近代歌舞伎年表の刊行 ・「名古屋興行略年表」の作成・配布 ・「近代歌舞伎年表」のための作業成果：劇界記事113件（目標100件）、興行カード698件（目標600件） (4) 古文献の復刻・刊行 ・「歌舞伎俳優名跡便覧」第三次修訂版の刊行 ・「六二連俳優評判記 歌舞伎新報編 上」の刊行準備 (5) 意識調査：「文楽に関する意識調査(高校生)報告書」 (6) 国立劇場委嘱・初演の音楽作品の楽譜等の刊行：「現代の日本音楽第15集（野平一郎）」、「現代の日本音楽第16集（鳥養潮）」 (7) 沖縄伝統芸能の上演等記録の調査整理：「沖縄芸能史年表二集」の刊行 ２．資料収集 (1) 収集実績・活用状況 （収集）図書：7,116冊、資料：10,598点 （活用）図書閲覧室等利用者：16,351人、資料閲覧者件数：139件、写真複製使用件数：532件 (2)「芝居版画等図録」：第11巻の刊行(18年３月)、第12巻の刊行準備：調査152件（目標150件）、「鼓胴に関する研究」の刊行(17年５月)、「文楽のかしら」刊行(18年３月) (3) データベース化状況 図書22405件（目標15000件）、資料2000点（目標2000点）、自主企画映画4本（目標4本）、公演情報98公演（目標80公演）、公演記録写真 18324枚（目標18000枚）、扮装図鑑7公演（目標7公演） (4) 博物館施設等への貸与実績：10件 (5) デジタル展示コンテンツの作成 12面マルチ「歌舞伎誕生400年(４)現在－伝統と変容－」 (6) 展示公開（実施22回・計画22回） 国立劇場本館資料展示室５回（計画５回）（本館展示室２回・伝統芸能情報館情報展示室３回）、来場者39,531人 演芸場資料展示室４回（計画４回）来場者18,528人（年度途中から集計） 能楽堂資料展示室４回（計画４回）、来場者18,495人 文楽劇場資料展示室５回（計画５回）、来場者72,362人 国立劇場おきなわ４回（計画４回） ３．委員会における検討、アンケート調査の実施 (1) 国立劇場調査事業委員会の開催 ３月10日(金) １回開催　国立劇場の調査研究事業についての評価及び意見聴取 (2) アンケート調査 刊行物に関するアンケート、閲覧室に関するアンケート（能楽堂・文楽劇場）、デジタル展示に関するアンケート（伝統芸能情報館）、展示に関するアンケート（本館・能楽堂・文楽劇場・国立劇場おきなわ）を実施した。	A	A	国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっている。上演資料集は内容が充実しており、研究者にも利用されている。古文献の復刻も国立劇場ならではの仕事で、高く評価出来る。 【より良い事業とするための意見等】 文化財研究所の一セクションにおいて同様の研究・収集（義太夫等）を行っており、情報交換が重要である。既刊の入門書を外国語訳することを引き続き期待したい。また、劇場の目的に合致する研究を助成する制度や、楽譜の刊行に際し、ＣＤの添付を検討することを引き続き望みたい。 なお、日本の顔である国立劇場の出版物の翻訳においては、姓名はどの外国語でも日本の慣習に従い姓・名の順に、また日本語のローマ字表記は訓令式を採用することを検討してほしい。
	①伝統芸能に関する調査研究の実施	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．上演資料集の刊行 (1) 刊行実績 ① 歌舞伎(刊行７冊・目標６冊) ６月鑑賞教室「歌舞伎十八番の内 毛抜」(No.479)、７月鑑賞教室「義経千本桜」(No.480)、 10月公演「貞操花鳥羽恋塚」(No.482)、11月公演「絵本太功記」(No.483)、12月公演「天衣紛上野初花」(No.484)、 １月公演「曽我梅菊念力弦」(No.487)、３月公演「猿之助十八番の内 當世流小栗判官」(No.489) ② 文楽(刊行５冊・目標４冊) ５月公演「近江源氏先陣館・冥途の飛脚・伽羅先代萩・桂川連理柵」(No.477)、 ９月公演「芦屋道満大内鑑・菅原伝授手習鑑・女殺油地獄」(No.481)、 12月鑑賞教室「鬼一法眼三略巻・新版歌祭文」(No.485)、12月公演「一谷嫩軍記」(No.486)、 ２月公演「御所桜堀川夜討・関取千両幟・小鍛冶・曽根崎心中・天網島時雨炬燵」(No.488) ③ 組踊(刊行２冊・目標２冊) 10月公演「貞孝婦人」(No.７)、12月公演「微行の巻」(No.８) ④ その他(舞踊・沖縄芝居) 刊行２冊 ５月舞踊公演「花散暦色所八景」(No.478)、８月沖縄芝居公演「奥山の牡丹」(No.６) (2) 配付実績 ① 歌舞伎・文楽・舞踊　出演者及び公演スタッフ：各100件、研究者等：各90件、研究機関：各60件 ② 組踊・沖縄芝居　出演者及び公演スタッフ：各64件、研究者等：各３件、研究機関：各51件 (3) 外部専門家等の意見及びアンケート調査 ① 外部専門家等の意見 基本的に各公演毎に作成されるものであるが、現在では入手しがたい文献や資料が収められるなど、公演関係者への貢献にとどまらず、研究者や愛好者にも意義あるものである。 ② アンケート調査（発送時に刊行物に用紙を添付して調査を行った） No.478舞踊：回答者数28人(配布数162人、回収率17.3%)。89.3%の回答者から概ね満足との回答を得た(25人)。 No.７組踊：回答者数８人(配布数114件、回収率7.0%)。75.0%の回答者から概ね満足との回答を得た(６人)。 No.８組踊：回答者数８人(配布数108件、回収率7.4%)。100%の回答者から概ね満足との回答を得た(８人)。 ２．自主公演の映像記録等の作成 (1) 収録実績 本館・演芸場：映像・音声：66公演、舞台写真：65公演（※大衆芸能定席公演を除くすべての公演） 歌舞伎扮装図鑑等：７公演、文楽人形等：５公演 能楽堂：映像・音声・写真：52公演 文楽劇場：映像・音声：11公演、音声・舞台写真：14公演（※上方演芸特選会を除くすべての公演） 文楽人形等：５公演 国立劇場おきなわ：映像・音声・写真：34公演	A		

※　歌舞伎公演（鑑賞教室含む）は、鬘・衣裳・小道具等の写真を撮影記録（歌舞伎扮装図監）し、下座の附帳等を収集した。また、文楽公演（鑑賞教室含む）は、人形・大道具・小道具等の写真を撮影・記録

3.「近代歌舞伎年表」の刊行
(1) 刊行・調査実績
「名古屋興行略年表」の刊行（18年３月）
「名古屋篇」劇界記事の作成：113件（目標100件）
「名古屋篇」原稿作成のための興行カード作成：698件（目標600件）
(2) 配布実績　研究者・研究機関等：130件

4．古文献の復刻等
(1) 刊行・調査実績
① 「歌舞伎俳優名跡便覧」第三次修訂版の刊行（18年３月刊行）
② 「六二連俳優評判記 歌舞伎新報編」（歌舞伎資料選書・10）の調査研究、原稿作成、編集作業を実施した。
(2) 配布実績　（歌舞伎俳優名跡便覧）研究者・研究機関等：150件

5．意識調査の実施
(1) 調査実績
17年12月文楽鑑賞教室公演の高校生を対象として意識調査を実施
実施場所：本館小劇場、回答者数：1,450人（配布数1,450人、回収率100.0%）
集計結果は報告書「文楽に関する意識調査（高校生）」としてまとめた。
(2) 配付実績　関係機関等への配布：50件
【特記事項】
当初計画していた能楽から文楽へと意識調査の対象を変更した。これは、調査対象公演のスケジュールの関係で準備期間に制約があったためである。

6．国立劇場が委嘱・初演した音楽作品の楽譜及び解説の刊行
(1) 刊行実績
「現代の日本音楽 第15集（野平一郎）」（17年12月刊行）、「現代の日本音楽 第16集（鳥養潮）」（18年１月刊行）
(2) 配布実績　研究者・研究機関：400冊
【特記事項】
春秋社より一般へ販売している

---

②伝統芸能に関する資料の収集及び活用

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

A

1．資料の収集・分類整理、閲覧
(1) 収集・閲覧の実績
① 図書の収集・閲覧

区分	収　集	閲　覧
情報館	単行本1,111冊、逐次刊行物1,128冊、 筋書等2,144冊（計4,383冊） 開架図書：約7,150冊	閲覧室利用者数：3,863人 開架図書閲覧者数：568人(3,132冊) 開室日数：207日
能楽堂	単行本130冊、逐次刊行物338冊 筋書等116冊（計584冊） 開架図書：876冊	図書閲覧者数：2,937人(3,054冊) 開室日数：259日
文楽劇場	単行本167冊、逐次刊行物314冊、 筋書等458冊（計939冊） 普及コーナーの開架図書：769冊	閲覧室利用者数：618人 普及コーナー利用者数：8,305人 図書閲覧者数：343人(1,138冊) 図書貸出者数：82件(144冊) 開室日数：233日
おきなわ	単行本272冊、逐次刊行物833冊、 筋書等105冊（計1,210冊）	図書閲覧者数：628人 開室日数：136日

② 資料の収集・閲覧

区　分	収　集	閲　覧
情報館	芝居版画12点、レコード･CD等194点、 絵画文献等７点、公演記録等資料3,738点、 その他206点（計4,157点）	資料閲覧件数：64件（249点） 写真複製使用件数：398件（1,727点）
能楽堂	能装束２領、狂言装束17点、能面１面、 絵画文献３点(特別資料) 公演記録等資料257点（計4,952点）	特別資料閲覧件数：45件（約250点） 写真複製使用件数：100件(388点)
文楽劇場	人形等12点、見台等７点、その他５点、 公演記録等資料257点（計281点）	写真複製使用件数：22件（84点）
おきなわ	組踊小道具15点、ビデオ等226点、 その他34点、公演記録等資料933点 （計1,208点）	資料閲覧件数：30件（70点） 写真複製使用件数：12件（17点）

【特記事項】
文楽劇場では、文楽を多くの人に知っていただけるように、出張展示を行って積極的に収集した資料等を公開している。（８件）

2．収集した資料の活用・刊行
(1) 芝居版画等図録
① 刊行実績
所収の錦絵（152件）について、16年度までの調査結果と文化デジタルライブラリーでの公開により、研究者を含む一般から集めた情報をもとに、索引等を加え、「国立劇場所蔵芝居版画等図録 第11巻」を刊行した（18年３月）。
（活用実績）研究者及び研究機関等へ配布し、国立劇場において販売している。
② 調査実績
第12巻に掲載予定の錦絵(約150件)を選定し、その約３分の１については基礎データの作成・考証を行った。（カード化152件）
(2) 鼓胴に関する研究
「生田コレクション展」（17年５月11日～６月26日開催）のための調査結果をもとに、図録を兼ねた「鼓胴に関する研究」を刊行した（17年５月）。
（活用実績）研究者及び研究機関等へ配布し、展示に際して販売した。
(3) 文楽のかしら
吉田文雀の監修により、文楽人形のかしらについての本格的な解説本「文楽のかしら」を刊行した（18年３月）。全編にカラー写真を使用した。
（活用実績）研究者及び研究機関等へ配布し、文楽劇場、本館において販売している。

３．データベース化

(1) 実績

区　分	実　績
図書	収蔵図書22,405件（目標15,000件） （内訳）本館995件、能楽堂12,700件、文楽劇場8,750件
資料	能楽堂収蔵の能楽資料（文献、絵画）を文化デジタルライブラリーに登録 2,000点（目標2,000点）
公演情報	次の各公演のデータを文化デジタルライブラリーに登録 歌舞伎公演（16年10月から18年１月まで）：14公演 文楽公演（16年11月から18年１月まで）：15公演 舞踊・邦楽公演（16年10月から18年１月まで）：17公演 能・狂言公演（16年10月から17年10月まで）：52公演 計98公演（目標80公演）
公演記録写真	次の公演記録写真を文化デジタルライブラリーに登録 国立劇場で13年10月から15年３月までに撮影した歌舞伎公演記録写真、 国立劇場で元年12月から３年５月までに撮影した文楽公演記録写真、 国立劇場で16年度に撮影した歌舞伎(鑑賞教室を含む)と文楽(鑑賞教室を含む)の公演記録写真 計18,324枚（目標約18,000枚）
扮装図鑑	国立劇場で15年10月から16年７月までに上演された歌舞伎公演(鑑賞教室を含む)の「歌舞伎俳優扮装図鑑」を文化デジタルライブラリーに登録 計７公演（目標７公演）
自主企画映画	「歌舞伎の扮装－女方篇」「歌舞伎・芸の継承－女方」「義太夫狂言の演技－熊谷陣屋」「歌舞伎の後見」の４本（目標４本）を文化デジタルライブラリーに登録

４．博物館施設等への資料の貸与

貸与実績

① 本館・演芸場
　貸与件数：３件46点（長野県立歴史博物館、松山市立子規博物館、赤穂市立歴史博物館）
　貸与内容：屏風、絵看板、楽器、小道具等。

② 能楽堂
　貸与件数：４件40点（城西国際大学水田美術館、郡山市立博物館、横浜市歴史博物館、大倉集古館・泉屋博古館）
　貸与内容：能装束類、能面、絵画資料等（解説パネルを含む）。

③ 文楽劇場
　貸与件数：３件４点（鳥取県立博物館、大津歴史博物館、愛知万博）
　貸与内容：映像・写真資料、文楽人形。

【特記事項】

能楽資料展示の協力依頼があり、三井記念美術館の移転新装開館に伴う展示の一貫として、日本橋三越における「三井家伝来能装束展」の監修を委託された。

５．デジタル展示

作成実績

・ 12面マルチ「歌舞伎誕生400年(4) 現在－伝統と変容－」

【特記事項】

コンテンツ制作については、提案公募方式を取っており、選考は外部委員を含む選考委員会を開催して決定している。

６．展示公開

(1) 実績

区　分	展示公開名	期　間	入場者数
本　館	伝統芸能の楽器	5/27～7/24	3,257人
	芝居の賑わい	10/3～1/27	3,930人
情報館	歌舞伎入門（舞台を支える小道具の魅力）	4/1～7/20	13,580人
	大幽霊展	8/1～9/25	4,690人
	伝統芸能資料展	10/3～3/27	14,074人
演芸場	落語の楽しみ展	4/1～7/20	－
	大幽霊展	8/1～9/20	※1,916人
	演芸資料展	10/1～12/20	8,590人
	見世物いろいろ	1/2～3/20	8,022人
能楽堂	生田コレクション展	5/11～6/26	5,246人
	能楽入門	7/22～8/31	3,275人
	収蔵資料展	10/1～12/25	7,617人
	収蔵文献絵画資料展	2/11～3/12	2,357人
文楽劇場	企画展示「文楽ポスター展」、同時開催「文楽入門」	4/2～5/14	11,449人
	常設展示「文楽入門Ⅰ」 <企画コーナー>子どもたちの文楽活動	6/7～10/15	24,105人
	常設展示「文楽入門Ⅱ」 <企画コーナー> 日韓友情年2005「韓国舞踊の至芸・李梅芳の世界」	8/20～10/15	8,064人
	企画展示「生誕100年 入江泰吉が見た文楽」 同時開催「文楽入門」	11/5～12/3	12,006人
	常設展示「文楽入門Ⅲ」 <企画コーナー>文楽のかしら	1/3～3/12	16,738人
おきなわ	第１回企画展「組踊の世界Ⅰ」	4/8～6/7	－
	第２回企画展「琉球舞踊の世界Ⅰ」	7/8～9/26	
	第３回企画展「組踊の世界Ⅱ」	10/6～12/26	
	第４回企画展「琉球舞踊の世界Ⅱ」	1/13～3/27	

※演芸場資料展示室については、年度途中（17年８月）よりカウントをはじめた。

(2) 目録等刊の実績

本館：図録（「伝統芸能の楽器」、「芝居の賑わい」）
伝統芸能情報館：目録（「大幽霊展」、「伝統芸能資料展」）
演芸場：目録（「落語の楽しみ」、「大幽霊展」、「演芸資料展」、「見世物いろいろ」）
能楽堂：展示関連研究書（生田コレクション「鼓胴研究」）、目録（「能楽入門」、「収蔵資料展」、「収蔵文献絵画資料展」）

【特記事項】

能楽堂では「収蔵文献絵画資料展」開催期間中に、ギャラリートーク（小規模な列品講座）を開催した。「音を読む」というテーマに、ギャラリートーク支援スタッフ（ボランティア２名）がレジメの作成と観客への解説・説明などを担当し、手附(楽譜)を見ながら笛と小鼓の研修生２名による実際の演奏を聴き、音を読むという試みを実施した。（３月１日、参加者 27人）

				文楽劇場では、文楽の公演期間中に合わせてボランティアグループ「文楽応援団」による解説を行った。 国立劇場おきなわでは、展示室前ロビーに「組踊の展開」と題し「田里朝直の組踊」のパネルを設置し、これにともない旧展示物「組踊のはじまり 玉城朝薫の世界」についてはパンフレットを作成した。			
	展示公開状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績22回／計画22回（100.0%）	A	
	(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			1．調査研究 (1) 主催公演情報のデータベース化：公演情報30件、出演者情報1,965件 (2) 上演作品に関する公演資料の調査・収集：チラシ等1,033件、ポスター595件 (3) 資料交換：送付団体数217件、受領団体数114件、概要・年報等：433件 (4) 刊行物：「日本洋舞史年表Ⅲ 1970～1975」 (5) オペラハウスデータベース　登録件数：８件 2．資料の収集 (1) 収集実績・活用状況 ① 収集　図書：単行本2,036冊、逐次刊行物712冊 資料：公演記録映像資料34演目（84本）、市販映像資料60点 ② 閲覧　利用者数：閲覧室29,447人、ビデオブース3,393人、ビデオシアター2,846人（340件） ※ビデオブース、ビデオシアターの利用者数は閲覧室利用者数の内数 (2) データベース化状況（公演記録映像61件） (3) 作品解題１件、資料紹介２件 (4) 展示実績 ① 常設展　舞台美術センター資料館　２回（計画２回）来場者1,579人 ② 企画展　舞台美術センター資料館　１回（計画１回）来場者659人（常設展来場者数の内数） 新国立劇場小劇場ロビー　１回（計画１回） ③ その他の展示 ・ 巡回展（実施４会場、計画５会場） 山口情報センター（山口市）、パルコギャラリー（大分市）、北九州芸術劇場（北九州市）、芸能花伝舎（新宿区） ・ 主催公演のうち代表的な演目の舞台衣装を新国立劇場エントランスギャラリーで展示	A	新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっている。主催公演を中心に資料の蒐集、整理をしている点を評価する。巡回展の実施も好ましい。 【より良い事業とするための意見等】 新国立劇場情報センター、舞台美術センターの存在を広く知らしめる広報活動が望まれる。対象分野が広くまだ蓄積も浅いため、資料収集についても何を選び、何を捨てるのかを明確にする必要があろう。
	①現代舞台芸術に関する調査研究の実施	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			1．公演情報のデータベース化 (1) 公演情報：30件 （内訳）オペラ：13件 オペラ鑑賞教室「蝶々夫人」、こどものためのオペラ劇場「ジークフリートの冒険」、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、「沈黙」、「セビリアの理髪師」、「アンドレア・シェニエ」、「ホフマン物語」、小劇場オペラ「セルセ」、「魔笛」、「コジ・ファン・トゥッテ」、「愛怨」、「運命の力」、「カヴァレリア・ルスティカーナ／道化師」 舞　踊：９件 「ドン・キホーテ」、「カルミナ・ブラーナ」、「くるみ割り人形」、「白鳥の湖」、「舞姫と牧神達の午後」、「ナチョ・ドゥアトの世界」、「コラボレートする身体」、「バレエ・プレルジョカージュ」、「きらめく背骨」 演　劇：８件 「箱根強羅ホテル」、「アルトゥロ・ウイの興隆」、「うら騒ぎ」、「黒いチューリップ」、「盲導犬」、「屋上庭園／動員挿話」、「母・肝っ玉とその子供たち」、「ガラスの動物園」 (2) 出演者情報：1,965件 （内　訳）オペラ：296件、舞踊：766件、演劇：903件 2．上演作品に関する公演資料の収集整理 公演資料の収集整理 ① チラシ等：1,033件（オペラ：197件、舞踊：239件、演劇：398件、その他：199件） ② ポスター：595件（国内上演ポスター：582件、海外上演ポスター：13件） 3．団体・劇場との資料交換 新国立劇場主催公演関係資料（プログラム、チラシ、年報、公演カレンダー等）を年２回、国内外の現代舞台芸術団体及び劇場へ送付し、先方からは随時同様の資料を提供してもらった。 ・ 送付団体数：217件（国内芸術団体54件、国内劇場56件、海外劇場107件） ・ 受領団体数：114件（国内芸術団体36件、国内劇場45件、海外劇場33件） ・ 概要・年報等：433件（国内芸術団体81件、国内劇場266件、海外劇場86件） 4．日本近代の舞踊上演に関する資料の調査、報告書の作成 (1) 調査研究内容　「日本洋舞史年表Ⅲ 1970～1975」の刊行 (2) 配布実績　研究者・研究機関等：368冊 5．オペラハウスデータベースの整備 (1) 海外劇場調査（海外の主要な劇場の最新データを調査）８劇場 平成17年度は、ニューヨーク及びその周辺都市のオペラ劇場を抽出し、劇場等の最新状況を把握した。 メトロポリタン歌劇場については、数値的な実態だけでなく、劇場経営についての基本的な組織及び意思決定の形態と、観客や支援者へのサービスなどについて、より具体的な調査を行った。 （調査対象）メトロポリタンオペラ、ニューヨーク・シティ・オペラ、ブロンクス・オペラ劇場、ディカーポ・オペラ劇場、オペラ・エボニー劇場、サンフランシスコ・オペラ劇場、ワシントン・オペラ劇場、ロサンゼルス・オペラ劇場 (2) データベース化　登録件数：８件 平成16年度海外劇場調査「アジア・オセアニア等８劇場の実態調査」（2005年８月みずほ総合研究所株式会社）のデータを入力した。 （入力対象）上海大劇院（中国）、国立中正文化中心（台北）、香港文化中心（香港）、香港芸術中心（香港）、ソウル・アーツ・センター（ソウル市）、ロシア国立アカデミーボリショイ劇場（モスクワ市）、ロシア国立アカデミーマリインスキー劇場（サンクトペテルブルグ市）、シドニーオペラハウス（シドニー市）	A	
	②現代舞台芸術に関する資料の収集及び活用	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する			1．資料の収集、閲覧 (1) 収集内容 ・ 図書：専門分野である現代舞台芸術に関する資料（単行本・逐次刊行物）を中心に収集するとともに、周辺分野（芸術・文学等）資料、及び参考資料（辞書・百科事典等）を収集した。 ・ 資料：自主公演の公演記録映像資料（ビデオ）を中心に収集するとともに、オペラ・舞踊・演劇に関する市販映像	A	

資料（DVD、VHS等）を収集した。
(2) 収集・閲覧実績
・　収集　図書：単行本2,036冊、逐次刊行物712冊、資料：公演記録映像資料34演目（84本）、市販映像資料60点
・　閲覧　閲覧室利用者数：29,447人（開室日数296日）　図書閲覧者数：573件（1,245冊）

２．主催公演記録映像等のデータベース化
(1) 公演記録映像61件
・　オペラ25件
「おさん」Ａ・Ｂキャスト、「コジ・ファン・トゥッテ」、「フィガロの結婚」、「フィデリオ」、「エレクトラ」、「蝶々夫人」、「椿姫」、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」、「マクベス」、「ルル」、「アンドレア・シェニエ」、「セビリアの理髪師」、「沈黙」、オペラ鑑賞教室「蝶々夫人」（関・水口）、こどもオペラ「ジークフリートの冒険」Ａ・Ｂキャスト、小劇場オペラ「ザザ」Ａ・Ｂキャスト、小劇場オペラ「セルセ」Ｂキャスト、オペラ研修所「ドン・ジョヴァンニ」Ａ・Ｂ・Ｃキャスト、オペラ研修所7月リサイタル、オペラ研修所11月リサイタル
・　バレエ17件
「カルメン」（本島・貝川）（湯川・ガリムーン）（酒井・山本）、「眠れる森の美女」（ザハロワ・ウヴァーロフ）、「ドンキホーテ」（厚木・貝川）、「白鳥の湖」（ヴィシニョーワ・コルプ）、「白鳥の湖」（寺島・貝川）（酒井・山本）、「ライモンダ」（志賀・山本）（寺島・森田）、「カルミナ・ブラーナ／ライモンダ」（厚木・ヒメネス）（酒井・湯川）、「くるみ割り人形」（さいとう・逸見）、「くるみ割り人形」（本島・山本）、バレエ研修所2期生終了公演１・２、バレエ研修所3期生公開レッスン
・　現代舞踊５件
「赤光」、「風花」、「コラボレートする身体」、「舞姫と牧神達の午後」、「移動の法則」
・　演劇14件
「花咲く港」、「コミュニケーションズ」、「うら騒ぎ」、「箱根強羅ホテル」、「ヒトノカケラ」、「二人の兵士の物語」、「喪服の似合うエレクトラ」、「母・肝っ玉とその子供たち」、「黒いチューリップ」、「盲導犬」Ａ・Ｂキャスト、「城」、「屋上庭園/動員挿話」、「その河をこえて、五月」
(2) 活用実績（利用者数）
ビデオブース　3,393人、ビデオシアター　2,864人（340件）

３．作品解題、資料紹介データの作成
(1) 作品解題　１件
・　バレエ「くるみ割り人形」　公演ビデオに合わせて解説を表示。
(2) 資料紹介　２件
・　オペラ「蝶々夫人」　美術家・ルシアン・ジェソームの初演当時の衣裳デザイン画（1903年）の展示。
・　「三木稔　日本史オペラ８連作」　新国立劇場主催オペラ公演「愛怨」を含む８作品の詳細と作曲者ノート。

４．展示公開
(1) 常設展
・　「オペラハウスの感動」（17年４月１日～18年３月31日）※16年度より継続の展示
小特集「シェイクスピアの世界」（17年３月５日～６月26日）※16年度より継続の展示
小特集「ベートーヴェン」（17年７月２日～10月23日）
小特集「岸田國士」（18年３月４日～６月まで継続展示の予定）
・　「現代演劇ポスター展2003」（16年10月30日～17年10月23日）※16年度より継続の展示
・　「現代演劇ポスター展2004」（17年10月29日～18年3月31日）
場所：新国立劇場舞台美術センター資料館
入館者数：1,579人　発行物：「現代演劇ポスターコレクション2004」図録
(2) 企画展
・「プティパ・バレエの世界」
期間：17年10月29日～18年２月26日　場所：新国立劇場舞台美術センター資料館
入館者数：659人（入館者数は常設展入館者数の内数）　発行物：「プティパ・バレエの世界」解説目録
・　「岸田國士」
期間：17年10月31日～11月16日　場所：新国立劇場小劇場ロビー
(3) その他展示
・　主催公演のうち代表的な演目の舞台衣裳を新国立劇場エントランスギャラリーで展示（常設）
・　巡回展「現代演劇ポスター展－新国立劇場情報センター所蔵品による－」
期間及び場所：17年８月31日～９月12日　山口情報センター（山口市）
17年11月３日～15日　パルコギャラリー（大分市）
17年11月20日～12月26日　北九州芸術劇場（北九州市）
18年１月14日～22日　芸能花伝舎（新宿区）

展示公開状況	100%以上	70%以上100%未満	70%未満	実績４回／計画４回（100.0%）	A

５．劇場施設の利用	劇場施設の貸与等	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	１．貸与実績　※（　）内は年度計画における目標 ①　本館大劇場　貸与日数：101日（ 89日）　利用率： 90%（ 85%） ②　本館小劇場　貸与日数：154日（154日）　利用率： 84%（ 90%） ③　演芸場　貸与日数： 91日（ 81日）　利用率： 93%（ 85%） ④　能楽堂本舞台　貸与日数：199日（189日）　利用率： 85%（ 85%） ⑤　文楽劇場　貸与日数：132日（125日）　利用率： 85%（ 80%） ⑥　文楽劇場小ホール　貸与日数：128日（110日）　利用率： 71%（ 60%） ⑦　国立劇場おきなわ大劇場　貸与日数： 68日（ 80日）　利用率： 52%（ 60%） ⑧　国立劇場おきなわ小劇場　貸与日数： 35日（ 25日）　利用率： 24%（ 30%） ⑨　新国立劇場オペラ劇場　貸与日数： 19日（ 19日）　利用率：100%（100%） ⑩　新国立劇場中劇場　貸与日数：106日（117日）　利用率： 77%（ 75%） ⑪　新国立劇場小劇場　貸与日数： 57日（ 48日）　利用率： 77%（ 50%） ２．利用情報の提供 16年度に引き続き、施設・設備等の概要及び貸与手続き等のホームページ掲載、劇場平面図や予約申込書のホームページからのダウンロードによる提供(国立劇場おきなわ)、分かりやすい劇場利用パンフレットの作成・配布(本館・演芸場)、案内看板・案内ポスターの作成・掲示(能楽堂)、過去の利用者への募集案内の送付、18年度・19年度の利用申込みの受付を実施したほか、新たにホームページへ施設の空き日情報、貸劇場公演情報、稽古室の利用案内を掲載(本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場)し、情報提供の充実を図った。 ３．関連サービスの提供 ・　入場券の作成、販売及び点検作業 ・　場内のアナウンス及び案内業務	B	B	概ね国立劇場、新国劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、一定の成果が上がっている。 【より良い事業とするための意見等】 オペラ劇場の利用率が100%であっても、貸与日数は他の劇場と比べて非常に少ない。主催事業に支障の少ない範囲で貸劇場を増やすことは、全体の利益につながると思われ、民間制作団体の利用の要望が多いことに鑑み、さらに日数を増やす工夫が望まれる。土・日・祝日に、常に公演が行われる劇場を目指してほしい。

・　舞台機構操作、照明操作、音響操作
・　クロークサービス（新国立劇場）
・　舞台関係の技術協力（国立劇場）
　本　　館：照明86件、音響30件、美術５件、舞台監督３件、その他33件(つけ打ち・狂言補助等)
　文楽劇場：照明20件、音響１件、美術１件、舞台監督等15件

４．利用料金に関する調査
　他の劇場施設等の利用方法、利用料金等について、近隣施設への電話問合せ及び各施設のホームページにより調査を行った。

５．アンケート調査
　全劇場利用者に対して、随時サービス等に関するアンケート調査を実施した。

区　分	配布件数	回答数	回収率
本館大劇場	48件	30件	62.5%
本館小劇場	127件	55件	43.3%
演芸場	67件	42件	62.7%
能楽堂	111件	44件	39.6%
文楽劇場	86件	25件	29.1%
文楽劇場小ホール	75件	28件	37.3%
国立劇場おきなわ大劇場	45件	21件	46.7%
国立劇場おきなわ小劇場	16件	4件	25.0%
新国立劇場オペラ劇場	3件	3件	100.0%
新国立劇場中劇場	23件	23件	100.0%
新国立劇場小劇場	14件	14件	100.0%
合　計	615件	289件	47.0%

６．利便性の向上のための検討等
・　本館、能楽堂、文楽劇場３館統一の仕様、劇場以外に附随する施設の利用も含め、業務のシステム化について検討を行い、18年度の実施に向け準備作業を進めた。
・　舞台備品等の使用料見直しを行い、18年度から実施することとした。（本館・演芸場）
・　伝統芸能情報館レクチャー室について、規程等の整備を行い18年度から貸出しを実施することとした。

| 劇場施設の貸与状況 | 100%以上 | 70%以上
100%未満 | 70%未満 | 実績利用率74%／計画利用率73%（達成度101.4%） | A |

６．附帯する業務

(1) 教育普及事業の実施

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

１．講座等の実施
(1) 伝統芸能及び現代舞台芸術に関する理解の促進と普及を図るための講座等

名　称	回数	参加者数	有意義であったとの回答割合
伝統芸能講座「歌舞伎」（本館）	６回	725人	平均84.7%
芸能資料関連講座（本館）	３回	191人	平均90.7%
公演記録鑑賞会（本館）	12回	887人	平均90.2%
能楽鑑賞講座（能楽堂）	12回	1,945人	平均92.7%
公演記録鑑賞会（文楽劇場）	12回	1,537人	平均89.8%
公演記録鑑賞会（国立劇場おきなわ）	２回	349人	平均89.5%
オペラを楽しむ集い（舞台美術センター）	１回	199人	89.4%
DVD現代舞台芸術鑑賞会	12回	162人	100.0%
現代舞台芸術入門講座	３回	71人	100.0%
合　計	63回	6,066人	平均89.7%
目　標		5,200人	70%以上

(2) 公演内容に対する理解の促進を図るための講座等

名　称	回数	参加者数
能楽堂研究講座（９月企画公演「現在七面」）	１回	89人
文楽劇場プレ講座（９月声明公演、10月舞踊公演）	３回	379人
オペラトーク	７回	734人
バレエトーク	１回	190人
シアタートーク（現代舞踊・演劇）	７回	2,120人
オペラ講座 「作曲家三木稔 30年の歩みを語る～日本史オペラ８連作について」	１回	70人
オペラプロローグ「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」	１回	83人
オペラハイライトシーン映像上演会	１回	105人

新国立劇場では、オペラの普及を図るため、オペラ劇場ホワイエ等を活用し、上演に因んだ展示を実施した。
・　モーツァルト生誕250年記念展示(１月「魔笛」、２月「コジ・ファン・トゥッテ」上演時)
・　三木稔日本史オペラ８連作記念展示(２月「愛怨」上演にあわせ、1/21～2/18)
・　ヴェルディ・オペラ上演記念展示(３月「運命の力」上演にあわせ、2/16～3/31)

２．デジタルコンテンツの作成等
(1) デジタルコンテンツの作成
　デジタル技術により教育普及を目的としたコンテンツを次のとおり作成し、３月からインターネットにおいて配信を開始した。
・　舞台芸術教材「文楽編 その２」
・　舞台芸術教材「日本の伝統音楽－楽器編－」
・　舞台芸術教材「バレエ編」
(2) インターネットによる配信
①　配信実績
　文化デジタルライブラリーとして、インターネットを通じて学校教育機関や一般へ配信した。
　アクセス件数：221,845件（目標30,000件）
②　活用事例
　小中学校等において音楽や総合学習の授業のなかで和楽器や歌舞伎の演技の説明に利用され、高校の演劇をテーマとした総合学習のなかで素材として利用されている。また、歌舞伎鑑賞教室等の芸術鑑賞教室の事前指導、大学のゼミ発表、社会教育の現場等において、解説等の素材として活用されている。
③　広報・告知等
　パンフレットを国立劇場の各施設に設置したほか、全国の小・中・高等学校（約15,000校）及び生涯学習関係機関（約200機関）へのメール配信により、文化デジタルライブラリーの周知を行った。

A　A

国立劇場、新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実に成果が上がっている。参加者数が目標数を大幅に超え、約90%が有意義であったとしていることを高く評価する。

【より良い事業とするための意見等】

デジタルコンテンツの充実と普及の方向を進め、海外への普及も視野にいれてほしい。また伝統芸能やオペラなどのプレ講座をもっと増やすことを期待したい。

講座等の実施状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績63回／計画63回（達成度100.0%）	A	
講座等の参加者数	5,200人 以上	3,640人 以上 5,200人 未満	3,640人 未満	実績6,066人／目標5,200人（達成度116.7%）	A	
講座等の参加者の満足度	70%以上	50%以上 70%未満	50%未満	実績89.7%／目標70%以上	A	
舞台芸術教材の作成状況	100%以上	70%以上 100%未満	70%未満	実績３件／計画３件（達成度100.0%）	A	
文化デジタルライブラリーへのアクセス状況	30,000件 以上	21,000件 以上 30,000件 未満	21,000件 未満	実績221,845件／目標30,000件（達成度739.5%）	A	

(2) 広報活動の充実	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1．広報誌を次のとおり発行・配布した。 ・「日本芸術文化振興会ニュース」（毎月発行） ・「芸術文化振興基金No.20」（17年６月作成） ・「ステージノート」（新国立劇場、毎月発行） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要」（17年４月作成） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会要覧」（17年６月作成） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会概要（英語版）」（17年４月作成） ・「独立行政法人日本芸術文化振興会年報 平成16年度」（17年12月作成） ・「新国立劇場要覧」（17年６月作成） ・「新国立劇場年報 平成16年度」（17年10月作成） ・「新国立劇場要覧（英語版）」（17年７月作成） ・「新国立劇場年報 2004年度（英語版）」（17年10月作成） 2．ホームページの運用 (1) アクセス件数・情報更新に要する日数 区　分 / アクセス件数 / 情報更新日数 日本芸術文化振興会ホームページ / 1,048,191件 / 1.6日 新国立劇場ホームページ / 818,625件 / 1.9日 合計・平均 / 1,866,816件 / 1.8日 目　標 / 770,000件 / 7.0日 ※国立劇場おきなわについては、財団が運営するホームページにおいて広報等を行っている。 ・　年間アクセス件数：478,127件　　・　情報更新に要する日数：3.0日 (2) ホームページの主な充実内容 ①　振興会ホームページ ・　振興会のトップページのほかに新たに劇場単位のトップページを設けるなど、必要な情報にアクセスしやすいよう全面的にリニューアルをした。 ・一体として運用していたホームページを劇場単位に管理可能とし、利用者の細かな要求に対応できるよう利便性を向上させた。 ・　各劇場にて公演情報やトピックスを容易に更新できる機能を開発し、速報性の向上を図った。 ・　貸劇場公演情報の提供を開始した。 ・　貸劇場の空き日情報の提供を開始した。 ・「よくある質問」のページを新たに設けた。 ②　新国立劇場ホームページ ・「ニュース」「公演情報」「公演記録」ページについて、各部署が直接入力してホームページ上に掲載・更新できるようにするためのコンテンツマネジメントシステムを新たに構築し、ページ更新の速報性・利便性を向上させた。 ・　オペラ公演宣伝のため１分前後の動画を配信できるようにした。 ・　新国立劇場のトップページのデザインを日本語版・英語版ともに改修した。 ・　演劇研修所のオープンにともない、関連ページを新規に作成した。 ・　情報センターページに、「日本洋舞史年表Ⅱ」のコンテンツを追加した。 (3) メールマガジンの発信 国立劇場において、ホームページと連携して稼動するメールマガジンのシステムを開発し、登録会員を募集、３月には試験的にメールマガジンを配信した。今後は、毎月２回を目処に配信する計画である。 ・　登録会員数（３月28日現在）　450人 なお、新国立劇場においては、アカデミックプラン（学生対象割引販売）登録者へメールにより公演情報を配信した（登録者443人、３月末現在）。今後、ジ・アトレ会員等へのメールマガジン配信システムの開発を検討する。	A	日本芸術文化振興会の事業目的に沿った着実な成果が上がっている。広報誌は有用であり、また、空き日情報の公開も重要であろう。 【より良い事業とするための意見等】 企画によっては、民族芸術学会、楽劇学会、東洋音楽学会、日本音楽学会、舞踊学会等を利用してほしい。

決定からホームページへの掲載まで期間	７日未満	７日以上 ９日未満	９日以上	実績1.8日／目標7.0日	A
ホームページへのアクセス件数	77万件 以上	53.9万件 以上 77万件 未満	53.9万件 未満	実績1,866,816件／目標770,000件（達成度242.4%）	A

(3) 交流事業の実施状況	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する	1．交流公演の実施 ・「変貌する神々－アジアの仮面劇－」（文化庁舞台芸術国際フェスティバル・オープニング公演） ９月15日、１回、本館大劇場	A	日本芸術文化振興会の事業目的に沿った着実な成果が上がっている。

・「アジア・太平洋地域の芸能・変貌する神々―アジアの仮面劇―（沖縄公演）」
　９月18日、１回、国立劇場おきなわ大劇場（９月17日には「特別企画ワークショップ」を実施）
・　日韓友情年2005記念事業「日韓琉の名流舞踊鑑賞会」
　10月15日、２回、文楽劇場
・　日韓友情年2005記念事業　日韓民俗芸能交流公演「沖縄と済州島との出会い」
　10月14日、１回、国立劇場おきなわ大劇場（沖縄）
　１月21日、１回、済州道立会館（韓国・済州島）
　３月３日～４日、２回、国立劇場・本館小劇場
・　日韓友情年2005記念事業　演劇「その河をこえて、五月」
　５月13日～29日、15回、新国立劇場小劇場
　６月４日～19日、８回、びわ湖ホール（大津市）、オーバードホール（富山市）はじめ全５都市
　７月１日～３日、３回、芸術の殿堂土月劇場（韓国・ソウル市）
・　日韓友情年2005記念事業　現代舞踊「舞姫と牧神達の午後」
　９月16日～19日、４回、新国立劇場小劇場
　９月24日・25日、２回、貞洞劇場（韓国・ソウル市）

２．平成17年度日独青少年指導者セミナー（芸術分野）の実施
　昭和47年より継続して実施されている「日独青少年指導者セミナー」の芸術分野を、日本におけるドイツ年に当たる平成17年度に文部科学省からの受託事業として実施した。
(1) 受入事業
　７月12日～17日　ドイツ演劇関係者３名
　国立劇場、国立能楽堂、新国立劇場視察、観劇及び関係者との意見交換を行った。また、児童演劇関係者との意見交換、評価会等を実施。
(2) 派遣事業
　11月14日～27日　日本演劇関係者７名
　ベルリン、ハノーファー、フランクフルト・アム・マインの３都市において、児童演劇関係者との交流、演劇鑑賞、意見交換等を実施した。

３．外国の芸能関係者等の来場、見学等
・　国立劇場（本館・能楽堂・文楽劇場）　28件142名
　（主な来場者）
　ジャカルタ･アーツ・カウンシル、韓国パンソリ振興会、モロッコ文化省芸術局長、香港政府康楽及文化事務署、韓国国立劇場長、日中伝統戯劇交流促進会、韓国DAUM文化芸術企画研究会ほか
・　新国立劇場　28件124人
　（主な来場者）
　中国中央戯劇学院、セントローレンス大学、オーストラリア芸術・スポーツ大臣、ベトナム国立演劇専門学校、ソウル市文化局長、韓国国立劇場長ほか

４．研修事業の実施等
・　国際人形劇フェスティバルへの協力（文楽劇場）
　大阪市が主催する「大阪国際人形劇フェスティバル2005」に理事長が実行委員会委員として参加し、企画立案等の提言を行った。またフェスティバル出演者を11月文楽公演に招き、文楽鑑賞の機会を提供した。
・　韓国舞台技術者研修事業の実施（新国立劇場）
　15年度から対象国を韓国とし、今年度は韓国舞台技術者1名（韓国芸術の殿堂・舞台監督）が、17年4月7日から5月16日までの40日間、日韓合同公演「その河をこえて、五月」（７月、韓国芸術の殿堂）の公演準備にスタッフとして参加し、実務研修を行った。
・　アジア太平洋パフォーミングアーツセンター連盟(AAPPAC)への参加（新国立劇場）
　舞台芸術の拠点を担うアジア太平洋地域の主要な総合芸術文化施設で構成されるAAPPAC（15カ国、32施設・団体が加盟）に平成９年以来加盟しており、年次総会に出席するとともに情報交流などの活動を行っている。今年度は、６月６日、シンガポールで開催された総会に出席した。
・　オペラ・ヨーロッパへの加盟等（新国立劇場）
　11月25日から27日までモナコにおいて開催されたオペラ・ヨーロッパ会議に出席し、１月からオペラ・ヨーロッパの加盟団体となった。また、英国ゲイツヘッドにおいて開かれた国際舞台芸術協会(ISPA)国際会議に出席した。

【より良い事業とするための意見等】

　交流を拡大し、ゆるやかな関係をもつ機関を増やしてほしい。

---

(4) 劇場利用者等へのサービスの向上

（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）

１．観劇環境の整備
(1) 施設・設備等の整備
①　バリアフリー等環境整備
　高齢者、身体障害者を含めた劇場利用者に優しい観劇環境の整備に努めた。
（主な整備項目）
・　小劇場にエレベーターを設置（本館）
・　救命措置のための自動体外式除細動器（ＡＥＤ）を医務室に導入（本館）
・　ほじょ犬ステッカーを掲示し、障害者補助犬の受入れ体制の周知を図った（本館）
・　車椅子利用者用ウォータークーラーを設置（本館）
・　エスカレーターにステップと手すりが連動して停止するハンドレール停止検出装置を設置（文楽劇場）
・　ロビー上下通路の階段に手すりを設置（文楽劇場）
・　３階レストラン前廊下及び搬入口にITV設備用カメラを設置し､防犯機能を強化した（新国立劇場）
②　観劇環境の快適化、案内表示の改善等
　劇場内の美化や案内看板等を改善し、快適でかつ利便性の高い観劇環境の整備に努めた。
（主な整備項目）
・　国立劇場所蔵の絵画を観客により良く鑑賞してもらうため、大劇場１・２・３階ロビーの壁面に懸架装置、絵画用照明を整備し、本格的なギャラリーとなるよう改装した（本館）
・　小劇場に個室型の特別席を設置（本館）
・　客席内の携帯電話抑止装置を更新し、性能の向上を図った（本館）
・　休憩時間表示灯をロビーに設置（本館）
・　来場者の助けとなるよう、立体駐車場壁面を利用した大型案内看板、伝統芸能情報館壁面上部に看板を整備。また、劇場正面と裏の２箇所にランドマークを兼ねた看板を設置した（本館）
・　受付に当日の劇場バスの運行状況を表示（本館）
・　国立劇場敷地内と周辺の案内看板等について、経年劣化や製作年代による不統一等が見られるため、各職域から見直し担当の作業チームを召集し、総括的に見直す作業を開始した。
・　劇場内の案内表示等を２ヶ国語対応（日・英）、マーク表示付き、大型化するなど、より分かりやすく改修・整備した（本館、能楽堂、文楽劇場）
・　駐車場の照明の増設や植栽の整備を進めるとともに、浦添市によって隣接する倉庫跡地が公園となるなど、周辺環境の整備が進められた（国立劇場おきなわ）
・　休憩時の混雑緩和のため、中劇場のホワイエ下手側に女性用トイレを新設した（新国立劇場）
・　メインエントランスのインフォメーション受付カウンターに照明器具を増設した（新国立劇場）

A

　託児室が新国立劇場にもいち早く設置されるなど、劇場利用者等へのサービスは各般にわたりきめ細かく飛躍的に向上しており、日本芸術文化振興会の事業目的達成に寄与している。

【より良い事業とするための意見等】

　ボランティアの組織化には細心の注意が必要であり、他の劇場の参考となるよう、良いモデルを提供してほしい。

(2) その他の対応
（主な対応）
・　開場40周年記念「国立劇場さくらまつり」の開催（本館）
　親しみやすく開かれた国立劇場をアピールするため、さくらの開花時期に合わせて国立劇場前庭を開放し、床机や野点傘などの配置、来場者へのお茶やお菓子のサービス、太神楽の催しとともに、国立劇場の事業の宣伝を行った。開催期間中の10日間で約２万人の来場者があった。
・　初春歌舞伎公演に際し、ロビーで鏡開きや太神楽、獅子舞を催し、幕中に手拭い撒きを実施（本館）
・　公演に際し、ロビーにおいて地元物産、書籍、音楽CD等の販売を実施（本館・能楽堂・文楽劇場）
・　国立劇場託児室（本館）
　17年度は、歌舞伎公演及び文楽公演開催時に営業し、174日間営業して347人の利用があった。
・　国立劇場おきなわにおいて、開場記念公演行幸啓を記念し天皇陛下の御製碑を設置した
・　東京オペラシティと共同で「アーツシャワー2005～オペラシティの夏祭り」を開催した（新国立劇場）
・　３階ギャラリー等において「森英恵展－手で創る」を開催した（新国立劇場）
・　オペラ・バレエの公演時にメインエントランスに生花を飾った（新国立劇場）
・　休憩時間中に、オペラ劇場プロムナードにオープンカフェを開設した（新国立劇場）
・　新国立劇場における託児サービスについて検討し、施設の改修を行い託児室を設置し、18年４月よりサービスを開始する（新国立劇場）

２．外国語への対応
　英語を中心に、外国語によるパンフレットの作成、案内表示、場内放送、イヤホンガイド等のサービスを提供し、引き続き、外国人の利用環境の充実を図っている。
（主なサービス等）
・　歌舞伎公演、文楽公演のプログラムに英文の作品解説と梗概を掲載（本館）
・　新たに舞踊・邦楽等の短期公演について、英語による簡易な解説等を作成、無料で配布した（本館）
・　公演毎に英文の演目解説プリントを作成し、英文能・狂言入門解説リーフレットとともに無料で配布した　（能楽堂）
・　文楽本公演において、英語に加えて新たに韓国語（１月公演から）のパンフレットを作成し、無料で配布した（文楽劇場）
・　文楽入門英語版リーフレットを作成・配布（文楽劇場）
・　英語版イヤホンガイドサービスの提供（本館・文楽劇場）
　本館・文楽劇場における鑑賞教室を除く歌舞伎(５公演)・文楽(８公演)の全公演
・　英語による場内アナウンスの実施（本館・文楽劇場）
・　文楽紹介用タッチパネル式情報端末（日本語、英語、仏語）の活用（文楽劇場）
・　２ヶ国語（日・英）表記、マーク表示による案内表示等の整備（全館）
・　英語版「日本芸術文化振興会概要」を作成
・　英語版の公演案内、公演カレンダーを作成し、シーズンブックに英語標記を付加（新国立劇場）
・　一部を除き､公演プログラムに英文のあらすじを掲載（新国立劇場）
・　劇場施設を紹介する英文パンフレットの作成（新国立劇場）
・　英語で対応できる場内案内スタッフを配置（新国立劇場）
・　英語版「新国立劇場要覧」を作成
・　英語版「新国立劇場年報 2004年度」を作成
【特記事項】
　能楽堂に導入する座席字幕装置を外国人の理解促進に活用する方策について検討を行った。

３．チケットセンターの充実、インターネット販売の促進
(1) チケットセンターの充実
　チケットセンター(東京)と文楽劇場(大阪)のチケット販売・管理システムを統一し、17年７月の夏休み文楽公演(文楽劇場)の前売りより、電話受付についてもチケットセンターに一元化した。
　チケット販売・管理の一元化により、東京・大阪の区別なく自主公演全てのチケットの購入が可能となり、宅配によりチケットの引取りやコンビニ決済等のサービスについても区別なく提供可能となった。
　また、統合にあわせ、会員（あぜくら会・文楽友の会）の管理システムの共通化、団体顧客の管理簿の統一化、団体顧客の受注から精算までの事務作業の手順の共通化等、事務の一元化を図った。
　なお、東京以外の利用者の利便性を考慮し、電話予約にナビダイヤル（全国どこからかけても市内料金のみで通話できるサービス）を導入した。
(2) インターネット販売の促進（国立劇場）
　外部委託により、歌舞伎公演、文楽公演を中心にインターネット上でチケット販売を行った。今年度は新たに舞踊・邦楽等の短期公演、社会人入門公演についてもインターネット販売を実施した。
（販売実績）

ジャンル	公演数	販売枚数
歌舞伎公演	8	6,982枚
文楽公演	5	4,818枚
親子歌舞伎公演	1	10,141枚
社会人入門公演(歌舞伎・文楽)	4	1,437枚
その他短期公演	10	383枚
合　計	28	23,761枚

【特記事項】
　インターネット販売をより効果的に活用するため、独自のシステム整備について検討を行った。

４．会員組織によるサービス
(1) 会員サービスの実施
　各会員組織において、チケットの先行販売、割引販売のほか、会報の発行等各種サービスの提供を実施した。新国立劇場においては、インターネットでの先行予約受付を実施した。
①　会報の発行
・「あぜくら」(毎月25日発行)
　会報の見直しを行い、５月号より従来の変形(天地205㎜、左右109㎜)版をA5版に版型を拡大した。
・「文楽劇場友の会会報」(４・５・７・９・11・２月の６回発行)
・「国立劇場おきなわ友の会会報」(６・10・12・３月の４回発行)
・「新国立劇場・情報誌ジ・アトレ」(毎月20日発行)
②　会員向け催事
【あぜくら会】３回実施
・　あぜくらの集い－鼓の魅力－　６月３日(金)、能楽堂
　（お話と実演解説、演奏・生田コレクションを打つ）参加者598人
・　おはよう、あぜくら－復曲能「鐘巻」の稽古を訪ねる－　10月24日(月)、能楽堂
　（解説、復曲能「鐘巻」稽古、鼎談：村上湛・小田幸子・梅若六郎）参加者532人
・　あぜくらの集い－文楽を支える人々－　２月17日(金)、伝統芸能情報館
　（人形実演・解説、技術スタッフ実演）参加者128人
【文楽劇場友の会】５回実施
　文楽の集いを以下のとおり実施した。

・　７月13日(水)　132人参加、文楽劇場小ホール
・　８月24日(水)　187人参加、文楽劇場小ホール「天台声明プレ講座」
・　10月29日(木)　153人参加、文楽劇場小ホール
・　12月14日(水)　42人参加、初春公演ゆかりの地見学ツアー（バスツアー）
・　３月29日(水)　180人参加、文楽劇場小ホール

また、文楽公演第100回（11月公演）を記念して「スクラッチカード」を実施し、ご観劇いただいた会員全員に記念の景品（レターセット他）を贈呈した。

【国立劇場おきなわ友の会】
・　会員対象のバスツアーを１回実施（11月26日(土)、参加56人）
・　組踊の公演内容の事前説明と劇場見学を１回実施（11月26日(土)、参加64人）

【クラブ・ジ・アトレ】
・　新作オペラについて、会員から希望を募り、抽選でゲネプロ見学会を開催（2005/2006シーズンより実施、５回、参加者149人）

(2) アンケート調査

① 会員向け催事の参加者に対し、アンケート調査を実施した。
・　あぜくら会（３回）　合計：回答数644人（配布数1,234人、回収率52.2%）
93.2%の参加者から概ね満足との回答を得た（600人）。
・　文楽友の会（１回）　10月29日に実施。回答数136人（配布数153人、回収率88.9%）
94.8%の参加者から概ね満足との回答を得た（129人）。

② 国立劇場おきなわ友の会
６月～７月に実施した。友の会への入会の動機として、公演情報を知りたい、会員割引を利用したいが、90%であった。主に鑑賞している公演は、組踊、琉球舞踊、沖縄芝居が過半数を占めている。

(3) 在籍者数（３月末現在）

会員組織	在籍者数	目　標	利用件数
あぜくら会	15,589人	15,600人	84,047件
文楽劇場友の会	7,167人	7,050人	17,683件
国立劇場おきなわ友の会	1,142人	850人	1,906件
クラブ・ジ・アトレ	14,603人	15,000人	70,660件
合　計	38,501人	38,500人	174,296件

【特記事項】
クラブ・ジ・アトレにおいて、新規会員の増加を図るため、入会キャンペーンを実施した（17年９月～３月）。

５．公演説明会、見学会等の実施

(1) 公演説明会の実施
鑑賞団体に対して、制作担当職員等が演目・鑑賞のポイント等を解説する公演説明会を次のとおり実施した。

本館・演芸場	105件	5,507人(歌舞伎63件3,802人、文楽42件1,705人)
能楽堂	11件	408人
文楽劇場	71件	2,039人
国立劇場おきなわ	５件	290人
新国立劇場	18件	3,302人
合　計	210件	11,546人

(2) 施設見学の実施
鑑賞団体、小中学校、その他希望者の施設見学を次のとおり受け入れた。

本館・演芸場	74件	2,809人
能楽堂	10件	139人
文楽劇場	24件	468人
国立劇場おきなわ	125件	2,489人
新国立劇場	51件	367人
合　計	284件	6,272人

(3) バックステージツアーの実施
一般を対象としたバックステージツアーを実施した。

国立劇場おきなわ	８回	164人
新国立劇場	57回	846人
合　計	65回	1,010人

(4) ボランティアによる展示解説（文楽劇場）
「文楽応援団」ボランティアによる文楽・展示の解説案内を行った。
・　文楽公演期間中１日平均：解説員10人、参加者222人

【特記事項】
国立劇場おきなわでは、夏休み子供向けバックステージツアー(４回98人)を実施した。
新国立劇場では、劇場探検ツアー(７回144人)を実施した。

６．ボランティアの活用

(1) ボランティア（「文楽応援団」）による展示の解説等

① 展示解説
「文楽応援団」として71人（３月末現在）のボランティア登録があり、資料展示室において文楽公演期間中に、文楽・展示の解説案内を行った。文楽公演中１日平均：解説員10人、観客222人。

② 研修会７回（展示室内解説で質問があった事項についての勉強会）

③ 応援団通信の発行　２回

④ その他、出前解説、メディア取材対応、劇場周辺の清掃（文楽関連石碑）を実施した

(2) 他の施設における検討等
・　能楽堂ギャラリートークにおける試行（３月１日（水）11時～12時）
能楽堂「収蔵文献絵画資料展」(２月11日～３月12日)の開催期間中に、ギャラリートーク(小規模な列品講座)を実施し、ギャラリートーク支援スタッフとしてボランティア２名がレジメの作成と観客への解説・説明などを行う試みを実施した。
・　本館展示室の支援スタッフについて、ボランティアの活用を検討した。

７．イヤホンガイド、字幕表示の導入

(1) イヤホンガイドサービスの実施（計21公演）

ジャンル	実施公演数	内　訳
歌舞伎	７公演	教室を含めた全公演(英語版は教室を除く５公演)
文楽	10公演	教室を含めた全公演(英語版は教室を除く８公演)
能楽	３公演	６月教室･８月子供夏休み能楽公演(２公演)
演劇	１公演	「アルトゥロ・ウイの興隆」

・　歌舞伎、文楽については、本公演において英語版イヤホンガイドサービスの提供を行っている。
・　能楽については、新たに８月普及公演「子供のための夏休み能楽公演」(２公演)においてイヤホンガイドを導入した。利用台数は212台であった(有料入場者1,124人)。

(2) 字幕表示の実施（計64公演）

ジャンル	実施公演数	内　　訳
歌舞伎	２公演	６・７月教室
文楽	10公演	本館・文楽劇場ともに教室を含めた全公演
舞踊	５公演	５月・８月・11月・３月公演(本館)・10月公演(文楽劇場)
邦楽	３公演	７月・10月・１月公演(本館)
雅楽・民俗芸能等	３公演	11月雅楽・７月民俗芸能・４月舞踊邦楽(本館)
沖縄伝統芸能	27公演	７月(太鼓)・９月・２月(本土芸能)公演を除く沖縄伝統芸能の全公演
オペラ	14公演	本公演12公演、オペラ鑑賞教室、地域招聘公演（「沈黙」）
演劇	１公演	５月演劇公演(「その河をこえて、五月」)

・　能楽堂における字幕表示装置の導入については、能楽堂の特殊な舞台空間を考慮し、座席字幕表示装置の導入について調査研究を重ね、18年10月31日の披露公演(内覧会)を経て、11月の公演より本格導入する予定である。
・　新国立劇場オペラ劇場において、観客等からの要望を踏まえ、９月より最新の技術を使った字幕表示システムへ更新した。

８．要望・苦情への対応
(1) 要望・苦情等の受付体制
①　各劇場にご意見箱を設置
②　ホームページに「ご意見・ご感想欄」(国立劇場)、「ご意見箱」(新国立劇場)を設置
③　公演等においてアンケート調査を実施
④　電話等による要望、苦情等の受付
(2) 要望・苦情等及び対応の状況
①　ご意見箱　427件（本館・演芸場・能楽堂・文楽劇場）
寄せられた意見については、集計の後、役員及び関係部署へ回覧し事業への反映を図った。また、必要に応じて回答した（回答４件）。
②　ホームページの「ご意見・ご感想欄」(192件)、「ご意見箱」(123件)
寄せられた意見については、定められた連絡体制に従って関係部署間で協議等を行い、迅速な対応を図るとともに、必要に応じて回答した（回答157件）。また、役員へ報告を行った。
③　主な対応事例
・　ホームページに公演タイムテーブルを掲載した（全館）
・　売店、レストランのスタッフの服装を原則として白色と黒色の２色に統一した（本館）
・　受動喫煙を防止するため、文楽劇場ロビーに喫煙室を設置した（文楽劇場）
・　ロビー通路にある階段に手すりを設置した（文楽劇場）

９．売店、レストラン等の充実
(1) アンケート調査の実施
売店やレストラン等に関するアンケート調査を、本館（公演アンケートと合同で実施19回）・能楽堂（９月、３月の２回実施）・文楽劇場（３月に実施）・新国立劇場（常時設置と公演時に実施17回）の各館において適宜実施し、アンケート結果及びご意見箱等に寄せられた要望等を踏まえ、関係者間で意見交換を行い、可能な限りの対応を行った。
(2) 主な対応事例
・　売店、レストランのスタッフの服装を原則として白色と黒色の２色に統一した（本館）
・　歌舞伎鑑賞教室に際し、学生にあわせた廉価な食品を販売した（本館）
・　レストランに短時間で用意ができるメニューを新たに追加した（能楽堂）
・　売店に能楽の専門的な品目だけでなく、一般の利用客が価格的にも求めやすい品目を増やした（能楽堂）
(3) その他
国立劇場おきなわにおいては、16年９月より食堂・売店の運営業者が変更となり、稽古・公演時の弁当の販売、自動販売機の設置等、利用者の利便性の向上に努めたが、経営が厳しい状況にあり、年度末をもって撤退した。これに伴い18年１月より新規業者の募集を実施した。
新国立劇場オペラ劇場プロムナードにオープンカフェを開設し、休憩時の混雑緩和に役立て、観客サービスの向上を図った。

会員数の確保	38,500人以上	26,950人以上38,500人未満	26,950人未満	実績38,501人／目標38,500人（達成度100.0%）	A

Ⅲ　予算、収支計画及び資金計画

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評定基準 A	評定基準 B	評定基準 C	指標又は評価項目に係る実績	評定 段階的評定	評定 定性的評定等
収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。 また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。	収入の確保、効率的な予算の執行等	振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する				A	A 入場料収入、施設使用料収入、基金運用収入などの増収等により、財務状況は良好である。引き続き財務の効率的な運営が望まれる。 国立劇場区分及び基金区分における当期利益につき、それぞれ施設整備事業積立金、基金助成事業積立金とすることは、当該利益が効率化を推進した結果に鑑み妥当と思われる。 【より良い事業とするための意見等】 今後とも、外部資金の確保に向けた努力が望まれる。助成金の要望取り下げが多いことは、やむを得ない面はあるものの、選考や申請に問題がなかったかどうか点検する必要があろう。

1．財務状況

【予算】　（単位：千円）

区分		計画額	実績額	増△減
収入				
運営費交付金		12,084,106	12,084,106	0
雑収入		44,304	45,158	854
施設整備費補助金		585,406	585,406	0
公演事業収入	(注1)	2,889,958	2,962,532	72,574
公演受託事業収入		62,350	56,897	△5,453
基金運用収入	(注2)	1,727,574	1,787,680	60,106
寄附金収入		2,050	1,050	△1,000
その他の収入	(注3)	100	43,434	43,334
計		17,395,848	17,566,263	170,415
支出				
一般管理費		1,260,677	1,072,300	188,377
うち人件費	(注4)	733,799	625,344	108,455
うち物件費	(注5)	526,878	446,956	79,922
事業費		10,867,733	10,624,625	243,108
うち人件費	(注4)	2,335,407	2,242,991	92,416
うち物件費	(注5)	8,532,326	8,381,634	150,692
施設整備費		585,406	585,406	0
公演事業費		2,891,008	2,883,958	7,050
公演受託事業費		62,350	49,501	12,849
基金助成事業費	(注6)	1,728,674	1,665,503	63,171
計		17,395,848	16,881,293	514,555

主な増減理由
（注1）劇場入場料の増
（注2）芸術文化振興基金の運用収入の増
（注3）前年度助成金の減額・要望取下げに係る戻入による増
（注4）退職手当の減
（注5）翌期以降への繰越による減
（注6）助成金の減額・要望取下げによる減

【収支計画】　（単位：千円）

区分		計画額	実績額	増△減
費用の部				
一般管理費		1,147,000	1,045,615	101,385
うち人件費		734,000	625,344	108,656
うち物件費		413,000	420,271	△7,271
事業費		9,153,000	9,954,831	△801,831
うち人件費		2,335,000	2,255,187	79,813
うち国立劇場等関係経費	(注1)	6,223,000	7,103,210	△880,210
うち舞台芸術振興事業費		595,000	596,434	△1,434
公演事業費	(注2)	2,891,000	2,828,733	62,267
公演受託事業費		62,000	49,501	12,499
基金助成事業費		1,729,000	1,665,503	63,497
うち人件費		119,000	118,254	746
うち物件費		1,610,000	1,547,249	62,751
減価償却費		647,000	642,419	4,581
その他		0	△125,105	125,105
計		15,629,000	16,061,497	△432,497
収益の部				
運営費交付金		10,256,000	10,943,060	687,060
雑収入		44,000	45,161	1,161
公演事業収入	(注3)	2,890,000	2,963,979	73,979
公演受託事業収入		62,000	56,897	△5,103
基金運用収入	(注4)	1,728,000	1,809,511	81,511
寄附金収入		2,000	1,050	△950
資産見返運営費交付金戻入		647,000	471,706	△175,294
資産見返寄附金戻入		0	18,890	18,890
貸倒引当金戻入		0	1,700	1,700
その他の収入	(注5)	0	43,434	43,434
計		15,629,000	16,355,388	726,388
純利益		0	293,891	293,891
積立金取崩額		0	0	0
総利益		0	293,891	293,891

主な増減理由
（注1）固定資産の取得が見込より少なく、費用となる備品等の取得が多かったため
（注2）公演費の節約による減
（注3）劇場入場料の増
（注4）芸術文化振興基金の運用収入の増
（注5）前年度助成金の減額・要望取下げに係る戻入による増

【資金計画】　（単位：千円）

区分		計画額	実績額	増△減
資金支出		34,917,000	49,024,798	△14,107,798
業務活動による支出	(注1)	14,982,000	31,472,907	△16,490,907
投資活動による支出	(注2)	19,470,000	13,648,410	5,821,590
財務活動による支出	(注3)	0	139,541	△139,541
翌年度への繰越金		465,000	3,763,940	△3,298,940
資金収入		34,917,000	49,024,798	14,107,798
業務活動による収入		16,811,000	33,699,747	16,888,747

運営費交付金による収入	12,085,000	12,084,106	△894
公演事業による収入	2,890,000	2,741,908	△148,092
公演受託事業による収入	62,000	101,940	39,940
基金運用による収入	1,728,000	1,787,486	59,912
その他の収入 (注4)	46,000	16,984,307	16,938,307
投資活動による収入	17,641,000	12,837,803	△4,803,197
施設整備費補助金による収入 (注5)	585,000	656,388	71,388
その他の収入	17,056,000	12,181,415	△4,874,585
財務活動による収入	0	102	102
民間出えん金受入による収入	0	102	102
前年度よりの繰越金	465,000	2,487,146	2,022,146

主な増減理由
(注1) 投資有価証券の取得による支出の増
(注2) 固定資産の取得に係る支出の減
(注3) リース債務の返済による支出
(注4) 投資有価証券の償還による収入の増
(注5) 前年度補助金の未収金分の増

２．剰余金
(1) 損益計算の結果、17事業年度の当期純利益は293,891千円である。
(2) 利益が生じた主な理由
① 公演事業において、79,624千円の利益が生じた。その主な内容は次のとおり。
・ 歌舞伎公演、文楽公演などの入場料収入が38,875千円の増収
・ 劇場使用料や駐車場使用料などの施設使用料収入が23,316千円の増収
・ 利息収入などの事業外収入が14,285千円の増収
・ 公演費などの公演事業費を7,050千円の削減
② 基金助成事業において、165,611千円の利益が生じた。その主な内容は次のとおり。
・ 芸術文化振興基金の運用収入が60,106千円の増収
・ 前年度助成金の減額・要望取下げに係る戻入収入が43,000千円の増収
・ 助成金の要望取下及び減額による42,500千円の支出減
・ 助成業務に係る経費を19,323千円の削減
③ 公演事業費に係る資本的支出により43,030千円の費用の減となった。

３．運営費交付金債務
(1) 18年３月31日現在における運営費交付金債務残高は577,324千円である。 (単位：千円)

区 分	期首残高／受入額	当期収益化	期末残高
平成15年度運営費交付金	71,492	27,369	44,123
平成16年度運営費交付金	73,460	45,874	27,586
平成17年度運営費交付金	12,084,106	11,578,491	505,615
計	12,229,058	11,651,734	577,324

(2) 期末残高のうち繰り越して執行する運営費交付金債務の主な内容は次のとおりである。
① 平成18年度執行予定
・ 施設改修工事 197,121千円
・ 舞台設備改修工事 212,020千円
・ 舞台芸術振興事業費に充当 35,251千円
・ その他 8,444千円
② 平成19年度執行予定
・ 舞台芸術振興事業費に充当 6,543千円

４．積立金の状況 (単位：千円)

区 分	期首残高	当期増△減	期末残高
通則法44条１項積立金	281,876	400,623	682,499
通則法44条３項積立金(目的積立金)	0	109,522	109,522
計	281,876	510,145	792,021

※ 目的積立金109,522千円は、18年度施設整備事業に59,214千円（能楽堂字幕装置設置・客席改修工事費の一部)、19年度基金助成事業に50,308千円を充当する予定である。

５．外部資金の獲得状況（14件、113,785千円）
・ 文化庁舞台芸術国際フェスティバル等の受託事業収入 ３件 56,897千円
・ 芸術祭主催公演等における負担金による収入 ８件 55,736千円
・ 公演事業に係わる寄附金収入 １件 1,050千円
・ 芸術文化振興基金に対する民間出えん金 ２件 102千円

６．短期借入金
なし

Ⅳ　その他主務省令で定める業務運営に関する事項

<table>
<tr><th rowspan="2">中期計画の各項目</th><th rowspan="2">指標又は評価項目</th><th colspan="3">評　定　基　準</th><th rowspan="2">指標又は評価項目に係る実績</th><th colspan="2">評　定</th></tr>
<tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>段階的評定</th><th>定性的評定等</th></tr>
<tr><td>1 .人事に関する計画</td><td>職員の計画的、適正な配置と人事交流の推進

事務能率の維持、増進

職員数の抑制</td><td colspan="3">（振興会における自己点検評価の結果をふまえつつ、委員の協議により、評定を決定する）</td><td>1．人事
(1) 職員の計画的かつ適正な配置
引き続き、勤務評価記録書等及び身上調書による職員の適性と希望の把握により、今後の組織機構の在り方や人員配置等の検討に資する情報を得ることができた。
また、中期目標の達成に向け、計画的な職員数の削減及び組織のスリム化を図るため、組織の見直し・常勤職員数の抑制について検討した。

(2) 人事交流の推進
国の機関、国立大学法人等との人事交流を実施し、多様な人材の確保によって組織の活性化を推進した。また、国立劇場おきなわ運営財団及び新国立劇場運営財団に対し振興会職員を派遣し、国立劇場おきなわ及び新国立劇場における円滑な委託業務の実施に資することができた。
・　国の機関及び国立大学法人から出向者の受入（28人）
・　国の機関への職員の派遣（１人）
・　国立劇場おきなわ運営財団への職員の派遣（５人）
・　新国立劇場運営財団への職員の派遣（13人）
・　新国立劇場運営財団から職員の出向（２人）

(3) 事務能率の維持、増進
・　事務能率の推進のため、主に中堅職員を対象とした自己啓発を目的とする研修を実施するとともに、専門的な知識や技能の修得を目的とする外部の研修にも積極的に職員を派遣した。
・　職員への福利厚生のために民間企業と提携し、各種サービスの申込みのための総合窓口を設け、ホームページ等により職員への周知に努めた。
・　法定健康診断以外に、希望者に対して契約病院（３ヶ所）での人間ドック健診を実施した。
・「次世代育成支援対策推進法」及び「改正育児・介護休業法」に基づき、多様な労働条件の整備等、労働者が職業生活と家庭生活を両立ができる雇用環境を整えるため、「一般事業主行動計画」を策定し届出を行った。

(4) 給与水準等の把握
振興会の職員が行う職務は、国の一般職俸給表（行政職俸給表一）の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った。（「独立行政法人の役員の報酬等及び職員の給与水準（平成16年度）」17年７月29日総務省公表を参照）
①　職員の給与水準
＜一般職俸給表適用者との比較＞
<table><tr><th>項　　目</th><th>国の一般職(行一)適用者</th><th>振興会一般職俸給表適用者</th></tr><tr><td>平均年齢</td><td>40.9歳</td><td>44.4歳</td></tr><tr><td>学歴(大学卒の割合)</td><td>44.7%</td><td>73.5%</td></tr><tr><td>調整手当支給率＊1</td><td>39.2%</td><td>100%</td></tr></table>＊1：国は12%・10%の支給地の割合
＜他の独立行政法人との比較＞16年度年間給与額
<table><tr><th>項　　目</th><th>全独立行政法人</th><th>日本芸術文化振興会</th></tr><tr><td>給与総額</td><td>7,323千円</td><td>6,995千円</td></tr><tr><td>平均年齢</td><td>43.2歳</td><td>44.4歳</td></tr><tr><td>ラスパイレス指数＊2</td><td>107.1</td><td>98.9</td></tr></table>＊2：国の一般職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数
②　常勤役員の年間報酬
<table><tr><th>項　　目</th><th>法人の長</th><th>理　事</th><th>監　事</th></tr><tr><td>全独立行政法人（平均）</td><td>18,396千円</td><td>15,963千円</td><td>14,064千円</td></tr><tr><td>日本芸術文化振興会</td><td>19,349千円</td><td>16,060千円</td><td>14,516千円</td></tr></table>
(5) 給与改定および給与制度の改定に向けた検討
「一般職の職員の給与に関する法律」の改正に伴い、振興会の給与規程の改正が必要となったため、扶養手当の改正、勤勉手当の改正、本俸の0.3%減、大卒及び高卒初任給の改正等を実施した。引き続き国に準拠して、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇要因を抑制した給与システムの構築と職務・職責や勤務実績に応じた適切な給与を確保するために、給与制度の改定をについて検討した。18年４月より新たな給与制度へ移行する。</td><td>A</td><td>A</td><td>適切に実施されている。

【より良い事業とするための意見等】

より創造的・効率的な運営のための適正な人員配置の目配りがさらに望まれる。2つの運営財団との人事交流、研修受け入れの促進が期待される。</td></tr>
<tr><td>2．施設及び設備に関する計画</td><td>計画に沿った整備の推進</td><td></td><td></td><td></td><td>2．施設
(1) 施設整備費補助金による施設・設備の整備等
①　文楽劇場舞台迫り駆動装置整備工事　93,802千円（７～３月実施）
②　新国立劇場オペラ劇場舞台床機構制御装置整備工事　79,800千円（１～３月実施）
③　国立劇場おきなわ土地購入　411,804千円
年度当初に不動産鑑定士による土地価格評価を行い、適正な価格にて2,542㎡を購入。
(2) 運営費交付金による施設・設備の整備
本館大小劇場客席床改修工事、本館大小劇場客席等内装改修工事を行うことで、良好な観劇環境を確保するとともに施設の保全を行った。
本館大小劇場調光設備改修工事（N相スイッチ更新工事、DMX回線工事）、本館小劇場舞台機構改修工事（吊物制御盤）などにより、経年劣化のため機能低下障害や故障発生が懸念される舞台機構装置機能維持と安全性の確保を図った。
本館低圧幹線ケーブル更新工事、本館ガス引込管改修工事、文楽劇場空調設備改修工事、能楽堂分電盤改修工事などを行うことにより、老朽化した施設の保全を図った。
環境整備委員会の提言等を踏まえ、敷地内の観客用案内看板の整備、小劇場ロビー内のエレベーター設置を実施し、観劇環境の整備を行った。
(3) 16年度より繰り越して実施した工事（運営費交付金債務）
①　大小劇場施設改修工事　123,701千円（４～３月実施）
②　大小劇場舞台設備改修工事　26,775千円（12～２月実施）</td><td>A</td><td>A</td><td>適切に実施されている。

【より良い事業とするための意見等】

出演者からの聞き取りを含め、施設の長所、短所のデータを収集し、今後の整備に役立ててほしい。</td></tr>
<tr><td>3．その他振興会の業務の運営に関し必要な事項</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>3．運営委託（国立劇場おきなわ、新国立劇場）
(1) 国立劇場おきなわ運営委託（財団法人国立劇場おきなわ運営財団）
①　委託契約の状況
平成17年４月１日から18年３月31日までの組踊等沖縄伝統芸能に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約について756,909,000円を限度として締結。委託確定額は755,686,000円である。
②　委託内容
・　公演の実施（沖縄伝統芸能等30公演）</td><td>A</td><td>A</td><td>業務運営の外部委託に関して、委託費の推移が前年度比で、新国立劇場が97.6%、国立劇場おきなわが95%とそれぞれ節減されており、適切な実施がなされたと認められる。

【より良い事業とするための意見等】</td></tr>
</table>

・　組踊（立方・地方）伝承者の養成
・　沖縄伝統芸能に関する調査研究、資料収集・活用業務
・　劇場施設の貸与（大劇場、小劇場）
・　劇場施設の管理運営
・　その他附帯する業務

③　運営に関する協議及び報告の状況
・　業務委託に関係する規程の改正を協議
・　業務委託契約の変更、収支計画の変更を協議
・　各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
・　委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
・　劇場施設（固定資産）取得報告書兼引き渡し書を受領
・　不用劇場施設（固定資産）通知書を受領

④　運営委託の方針・連絡体制の整備等
運営財団の業務内容が、振興会の年度計画に沿った形でより効率的・効果的に実施されるよう、財団の新規採用職員の振興会（東京）における研修を実施したほか、双方の意見交換の機会を増加させ、昨年度に引き続き振興会と運営財団が共通理解のもと劇場の管理運営にあたれるよう環境の整備を行った。
振興会と運営財団との間で、新たに会員組織の提携、資料貸与に関する覚書を取交し、相互の事業内容の充実を図った。

⑤　効率化状況
a.委託費の推移（単位：千円）

年度	15年度（下半期）	16年度	17年度
金額	332,025	795,306	755,686
前年度比	－	－	95.0%

※国立劇場おきなわは16年１月に開場したため、16年度が平年度化の１年目となる。

b.委託費の効率化状況
平成17年度は実質的な第2期目にあたり、組踊研修を開始し、予定していた事業すべてが実施された。開場前後より行ってきた施設・設備・備品等の整備がひと通りなされたため、養成研修費等備品購入を極力抑制し、委託費の効率的な使用に努めた。また、個々の契約内容の見直しなどの取組みにより委託費の節減を図った。

c.委託先における効率化に関する取組み等
・　単価契約の導入等により、公演記録の収録に係る費用等の削減を図った。
・　館内LANの活用により、会議室の利用状況、通知・事務連絡等の情報の共有化を図り、事務処理の迅速化を図った。
・　財団に設置された公演事業委員会において、業務の実績に関し審議し、外部専門家等の意見を取り入れて、より効果的・効率的な事業の実施を図った。
・　業務運営の効率化に資する職員の意識改善及び能力向上を図るため、新規採用職員業務研修（東京・国立劇場にて）などを実施した。

(2) 新国立劇場運営委託（財団法人新国立劇場運営財団）

①　委託契約の状況
平成17年４月１日から18年３月31日までの現代舞台芸術に係る業務及び劇場の管理運営に関する業務委託契約を4,987,923,000円を限度として締結。委託確定額は4,986,981,600円である。

②　委託内容
・　公演の実施（オペラ12公演、バレエ６公演、現代舞踊４公演、演劇10公演、地域招聘１公演、普及事業２公演）
・　研修事業の実施（オペラ研修：６期～８期生、バレエ研修：３期生、演劇研修１期生）
・　劇場施設の貸与（オペラ劇場、中劇場、小劇場）
・　劇場施設の管理運営
・　その他附帯する業務（教育普及、国際交流等）

③　運営に関する協議及び報告の状況
・　業務委託に関係する規程の改正を協議
・　業務委託契約の変更、収支計画の変更を協議
・　各四半期終了後に受託業務状況報告書を受領
・　委託期間終了後に受託業務実績報告書を受領
・　固定資産取得報告書を受領

④　運営委託の方針・連絡体制の整備等
振興会で行っている業務運営の形態等を基準に、受託者が多様な手段により相当の自己収入を確保することを前提とし、できる限りコストを抑制しつつ、目標とした事業を実施する契約内容とした。
効率的な業務運営のため委託先より状況報告書・実績報告書を定期的に提出させ、自己収入確保に重要な入場者数を各公演ごとに確認等、効率化状況を把握した。

⑤　効率化状況
a.委託費の推移（単位：千円）

年度	15年度（下半期）	16年度	17年度
金額	2,774,367	5,107,980	4,986,982
前年度比	－	97.1%	97.6%

※16年度前年度比は15年度通年との比較。

b.委託費の効率化状況
平成17年度の委託費については、人件費の抑制、退職給付引当金繰入の減、電気料金の減、及び公演事業費の節減により、委託費を含めた支出の削減を行った。
また、公演その他各事業の一体的な実施と、効果的・効率的な運営委託体制について検討し、18年度より新国立劇場情報センターの業務（現代舞台芸術に関する調査研究、総合情報システムの管理・運用、情報センターの運営等）を委託することとした。

c.委託先における効率化に関する取組み等
・　「水準の高い舞台芸術の発信」「親しみがもて多くの人々が集う劇場」を目標に、18年度に向けて、管理部門の強化や事業部門の再編など財団の組織体制の見直しを行った。
・　財団に設置された評価委員会及び専門委員会において、業務の実績に関し審議し、外部専門家等の意見を取り入れて、より効果的・効率的な事業の実施を図った。
・　寄附金等収入の減に対応するため、公演制作費の節減を図り、公演事業費を△352百万円削減した。
・　省エネの推進により、電気について使用量約20万kwh（△2.3%）削減し、経費6,628千円（△5.2%）を節減した。
・　業務運営の効率化に資する職員の意識改善及び能力向上を図るため、2005年新公益法人会計基準実務勉強会等の各種研修へ職員を派遣した。

－